

双葉町 住民意向調査 報告書

平成29年3月

復興庁
福島県
双葉町

双葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-1-6 避難期間中の生活において困っていることや改善を求めること	27
3-2 将来の意向	30
3-2-1 双葉町への帰還意向	30
3-2-2 帰還まで待てる年数	35
3-2-3 双葉町へ戻る場合の家族	36
3-2-4 双葉町へ家族の一部が戻る場合の世帯構成・人数	38
3-2-5 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報	39
3-2-6 双葉町へ帰還する場合の住居形態	43
3-2-7 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向	45
3-2-8 「新市街地ゾーン」に居住する場合の住居形態	48
3-2-9 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設	50

3-2-10	「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に 必要な生活関連サービス	52
3-2-11	「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由	54
3-2-12	双葉町との“つながり”を保ちたいか	56
3-2-13	双葉町を訪れたい頻度	58
3-2-14	双葉町を訪れてみたいと思う取り組み・行事・イベント	59
3-2-15	現時点で戻らないと決めている理由	61
3-2-16	帰還しない場合に今後の生活において必要な支援	64
3-2-17	帰還しない場合に居住を希望する自治体	66
3-2-18	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	69
3-2-19	帰還後の双葉町での事業の再開	71
3-2-20	被災した家屋の解体意向	74
3-2-21	双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向	76
3-2-22	「双葉町復興まちづくり計画（第二次案）」 策定に向けての意見・要望	78
3-3	情報入手・コミュニケーション	81
3-3-1	双葉町からの情報の入手経路	81
3-3-2	知りたい・関心がある情報	82
3-3-3	「ICTきずな支援システム」の所有	83
3-3-4	「ICTきずな支援システム」の利用頻度	84
3-3-5	「ICTきずな支援システム」以外の情報端末機器の所有	85
3-4	意見・要望	86
IV	参考資料	99
4-1	使用調査票	101

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、双葉町住民の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	双葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,355 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成28年9月12日（月）～平成28年9月26日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、双葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,626 世帯（有効回収率 48.5%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

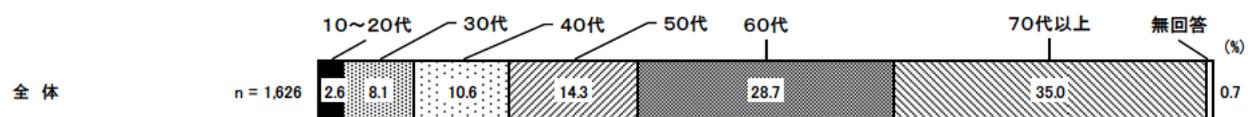
(1) 性別

<図表2-1-1>



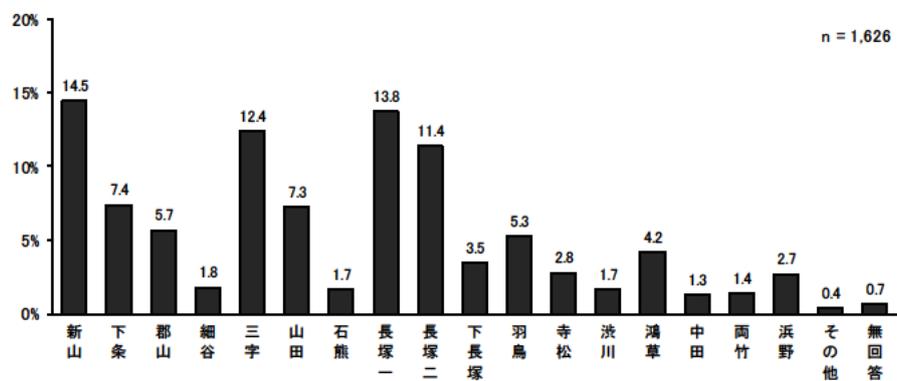
(2) 年齢

<図表2-1-2>



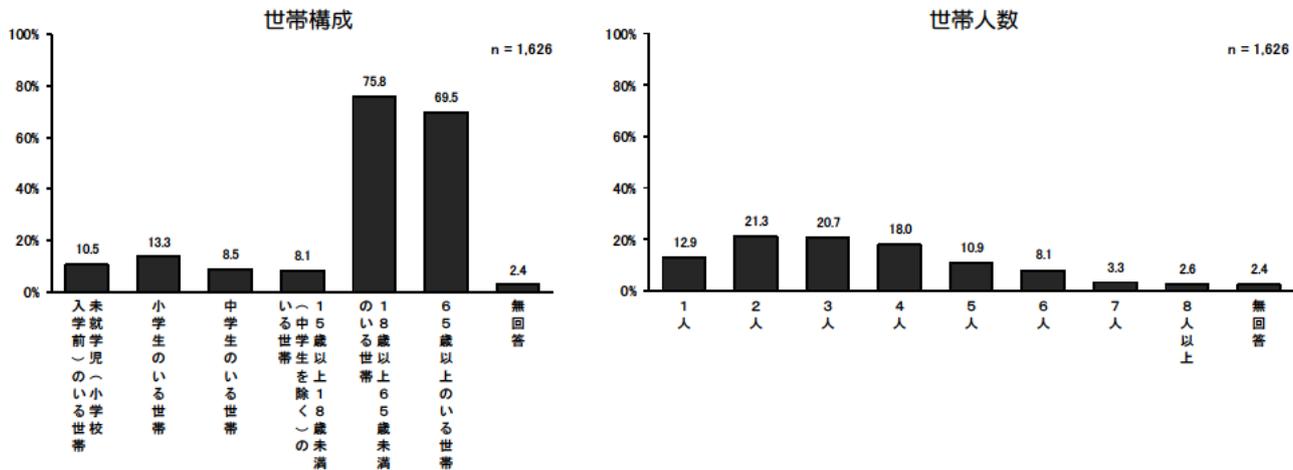
(3) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-3>



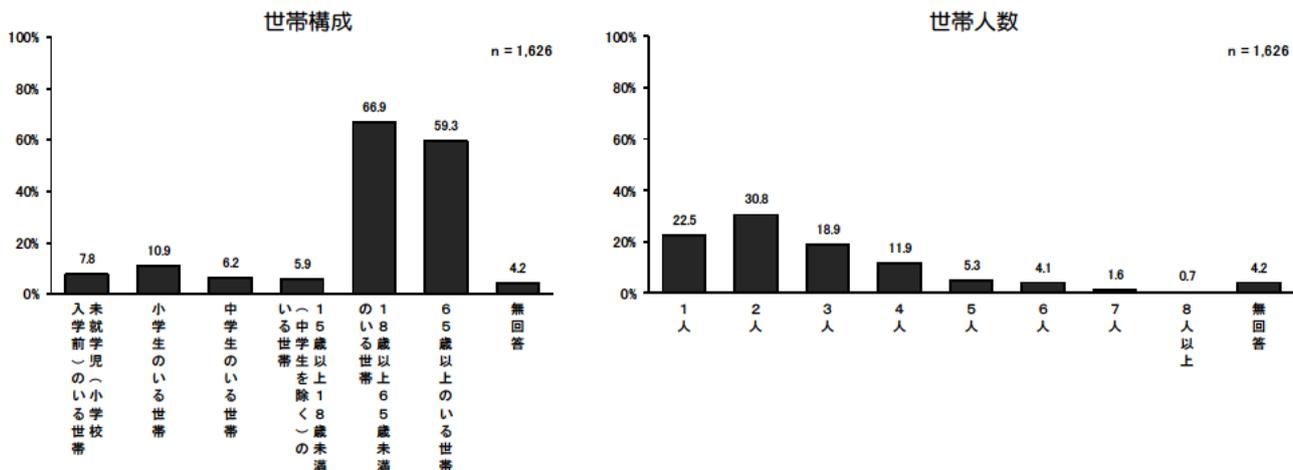
(4) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



(5) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



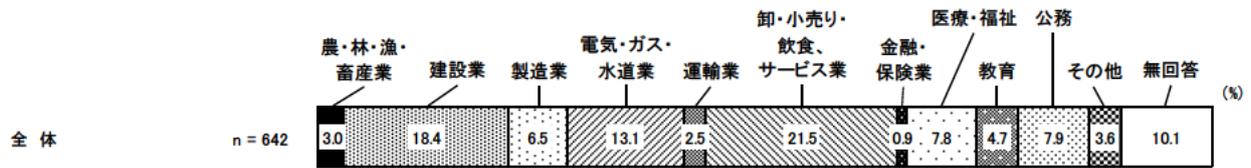
(6) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-6>



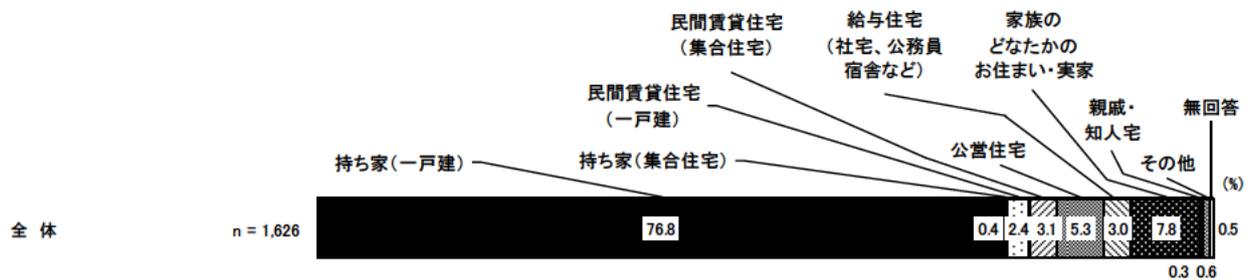
(7) 現在の職業（業種）

<図表2-1-7>



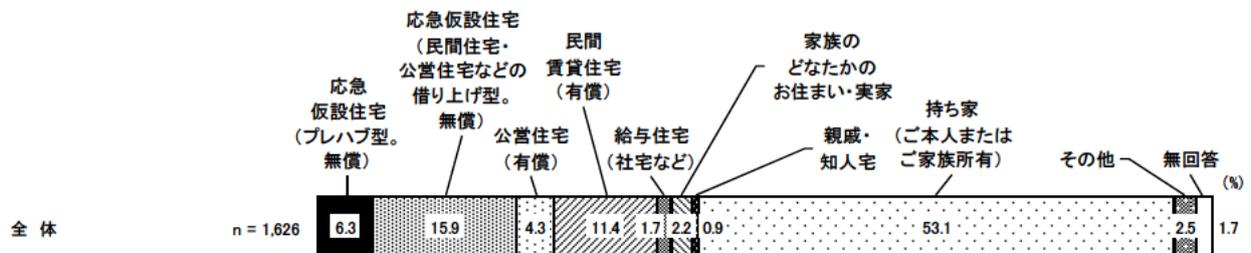
(8) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-8>



(9) 現在の住居形態

<図表2-1-9>



III 調査結果

3-1 現在の状況

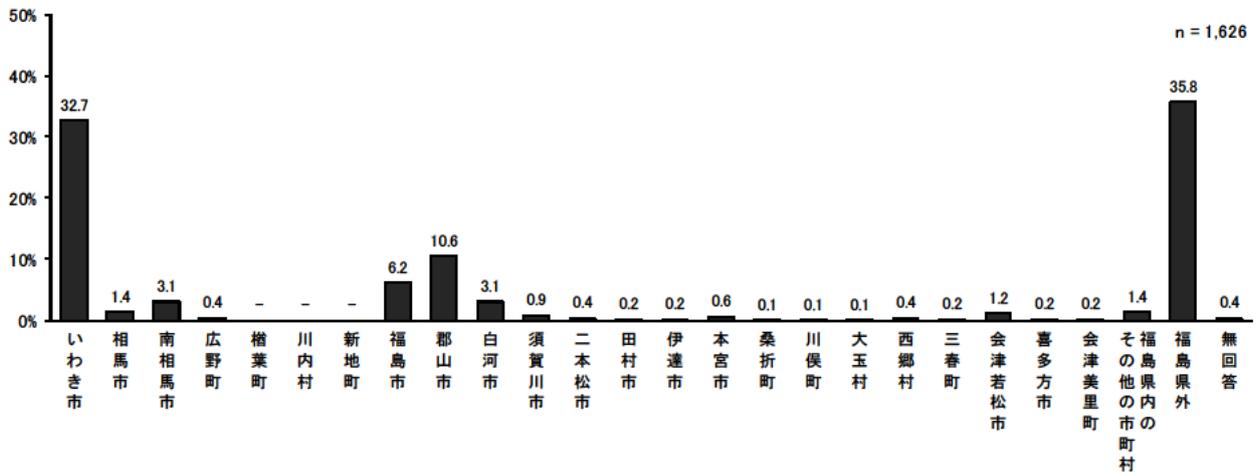
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(〇は1つ)

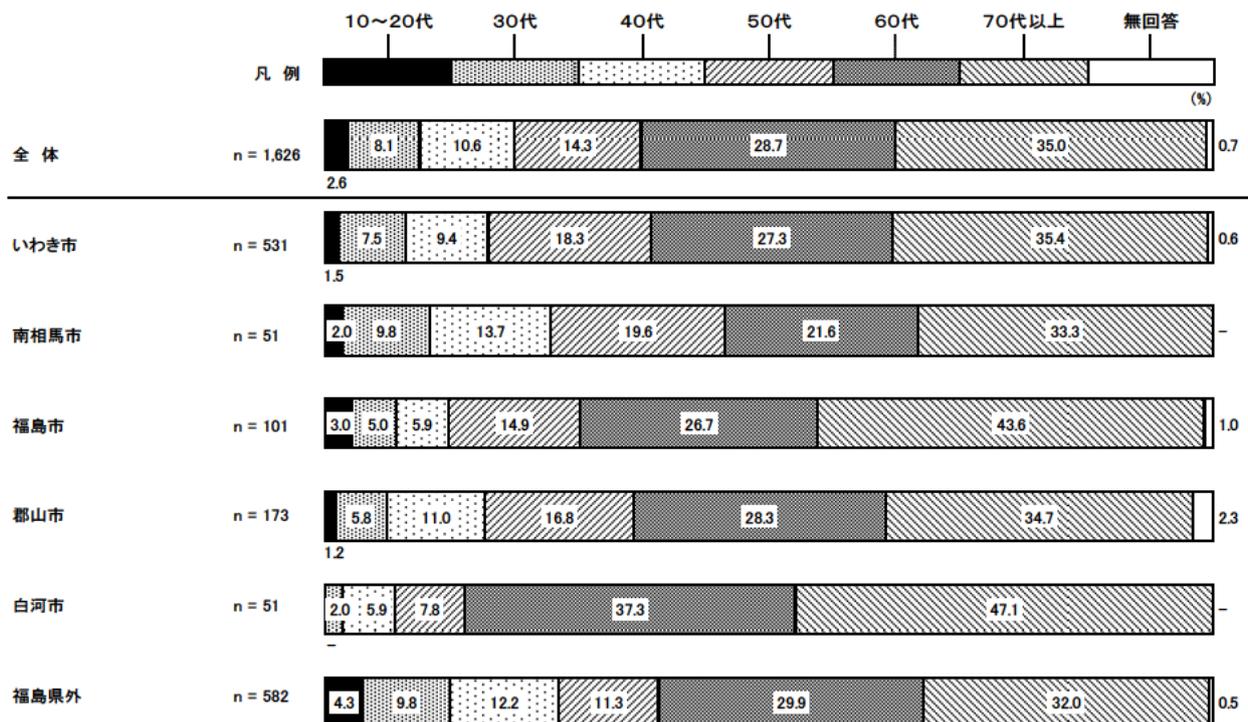
現在の避難先自治体については、「福島県内」が63.7%、「福島県外」が35.8%となっている。自治体で見ると、「いわき市」が32.7%と最も高く、「郡山市」が10.6%となっている。

主な避難先自治体について、回答者の年齢別にみると、「いわき市」では60代が27.3%、70代以上が35.4%、「郡山市」では60代が28.3%、70代以上が34.7%、「福島県外」では60代が29.9%、70代以上が32.0%となっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、新山、下条、細谷、三字、山田、石熊、長塚一、羽鳥、寺松、浜野では「いわき市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)					
	n	いわき市	南相馬市	福島市	郡山市	白河市	福島県外
全体	1,626	32.7	3.1	6.2	10.6	3.1	35.8
新山	235	37.0	2.1	3.0	11.9	3.8	34.5
下条	120	31.7	1.7	10.0	10.0	2.5	35.0
郡山	93	29.0	4.3	7.5	10.8	1.1	37.6
細谷	30	40.0	-	-	13.3	6.7	26.7
三字	201	38.3	2.5	6.5	10.4	2.0	33.8
山田	119	31.9	0.8	4.2	15.1	3.4	34.5
石熊	28	35.7	3.6	7.1	17.9	-	28.6
長塚一	225	30.7	4.4	6.2	10.2	4.9	35.1
長塚二	186	24.7	2.7	4.3	10.8	3.8	46.8
下長塚	57	28.1	10.5	19.3	10.5	1.8	24.6
羽鳥	86	37.2	7.0	5.8	7.0	4.7	26.7
寺松	46	34.8	2.2	10.9	15.2	-	32.6
渋川	27	29.6	-	7.4	3.7	11.1	40.7
鴻草	68	27.9	7.4	10.3	5.9	-	38.2
中田	21	23.8	-	4.8	9.5	-	38.1
両竹	22	27.3	-	9.1	9.1	4.5	50.0
浜野	44	45.5	-	-	6.8	-	40.9
その他	6	66.7	-	-	16.7	-	16.7

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

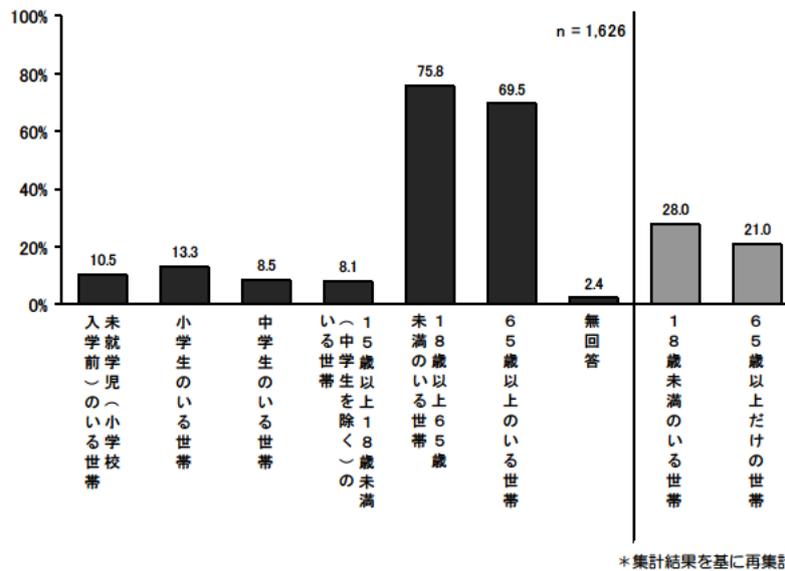
(1)「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

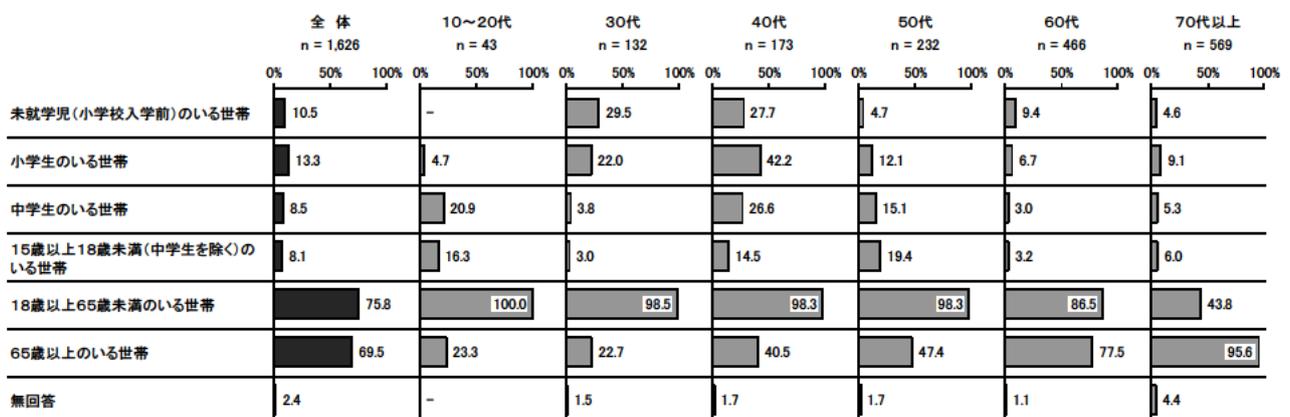
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成については、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が75.8%、「65歳以上のいる世帯」が69.5%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(10.5%)、「小学生のいる世帯」(13.3%)、「中学生のいる世帯」(8.5%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(8.1%)は、いずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

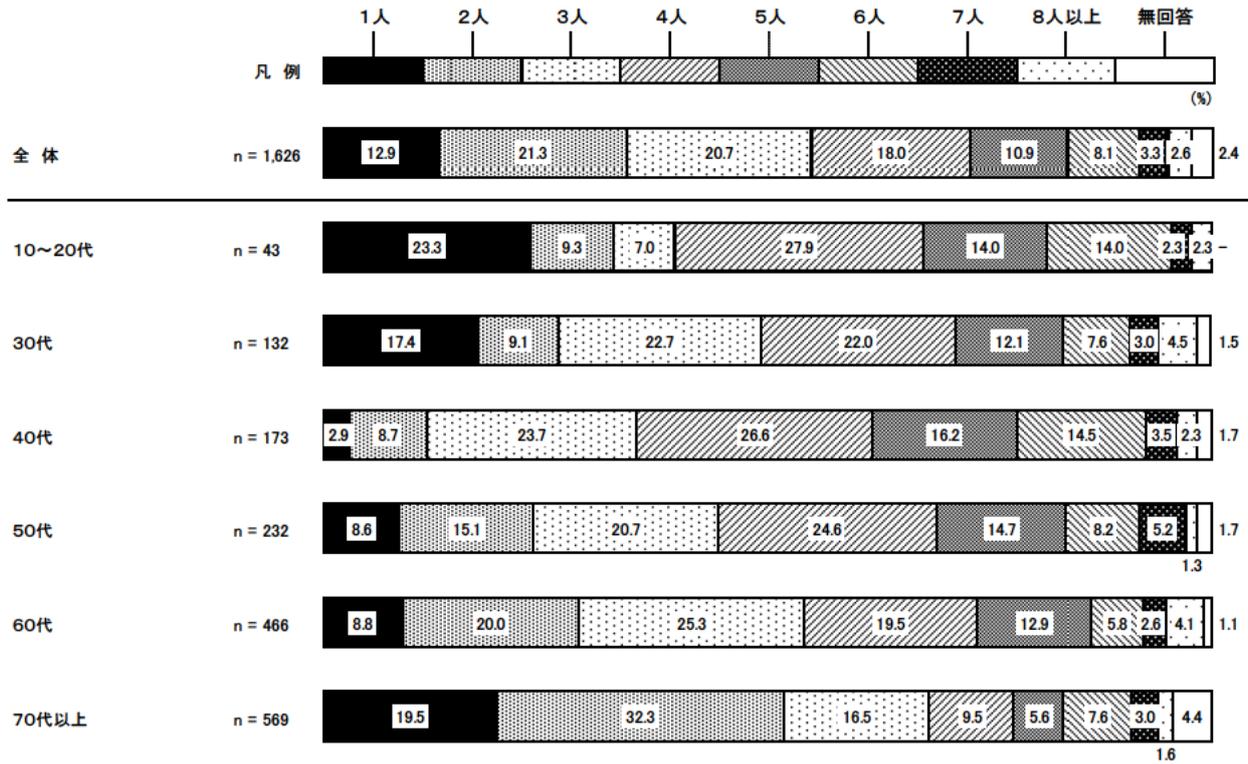


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数については、「2人」が21.3%と最も高く、次いで「3人」が20.7%、「4人」が18.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は40代以上で年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、70代以上で32.3%と最も高くなっている。「3人」は60代で25.3%、「4人」は10~20代で27.9%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

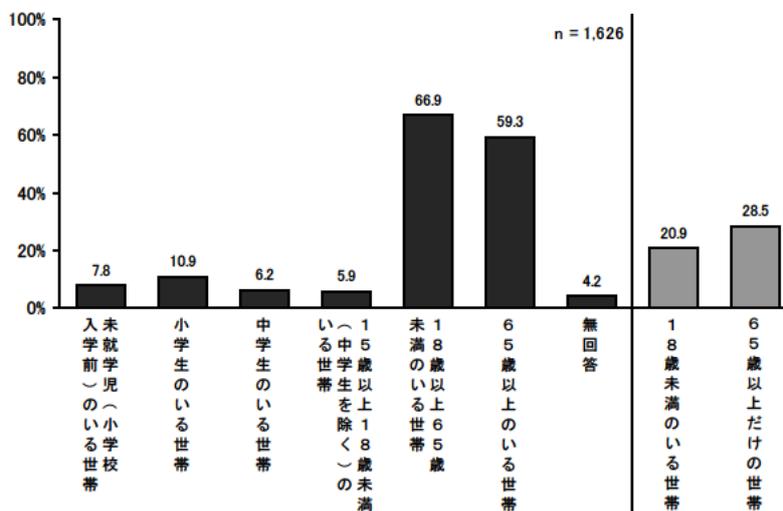
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

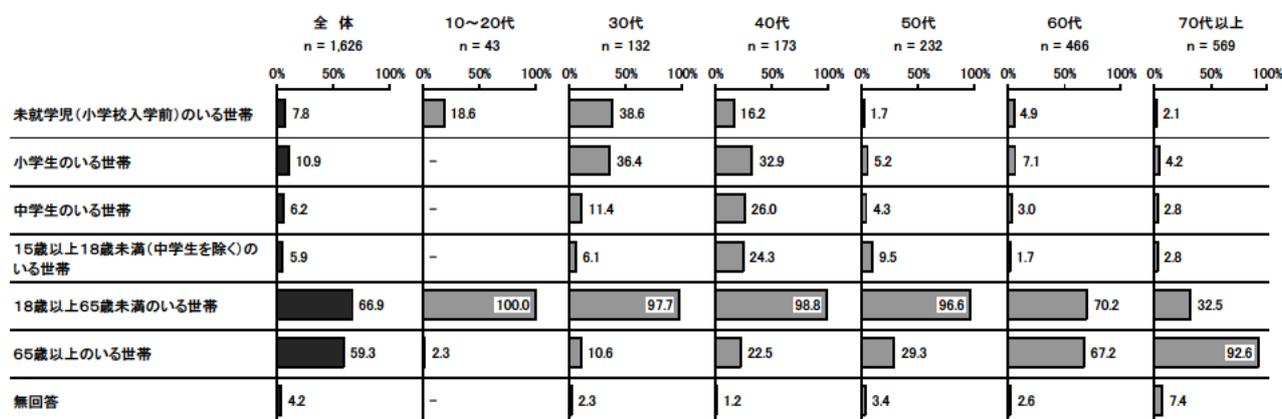
現在の世帯構成については、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が66.9%、「65歳以上のいる世帯」が59.3%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(7.8%)、「小学生のいる世帯」(10.9%)、「中学生のいる世帯」(6.2%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(5.9%)は、いずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

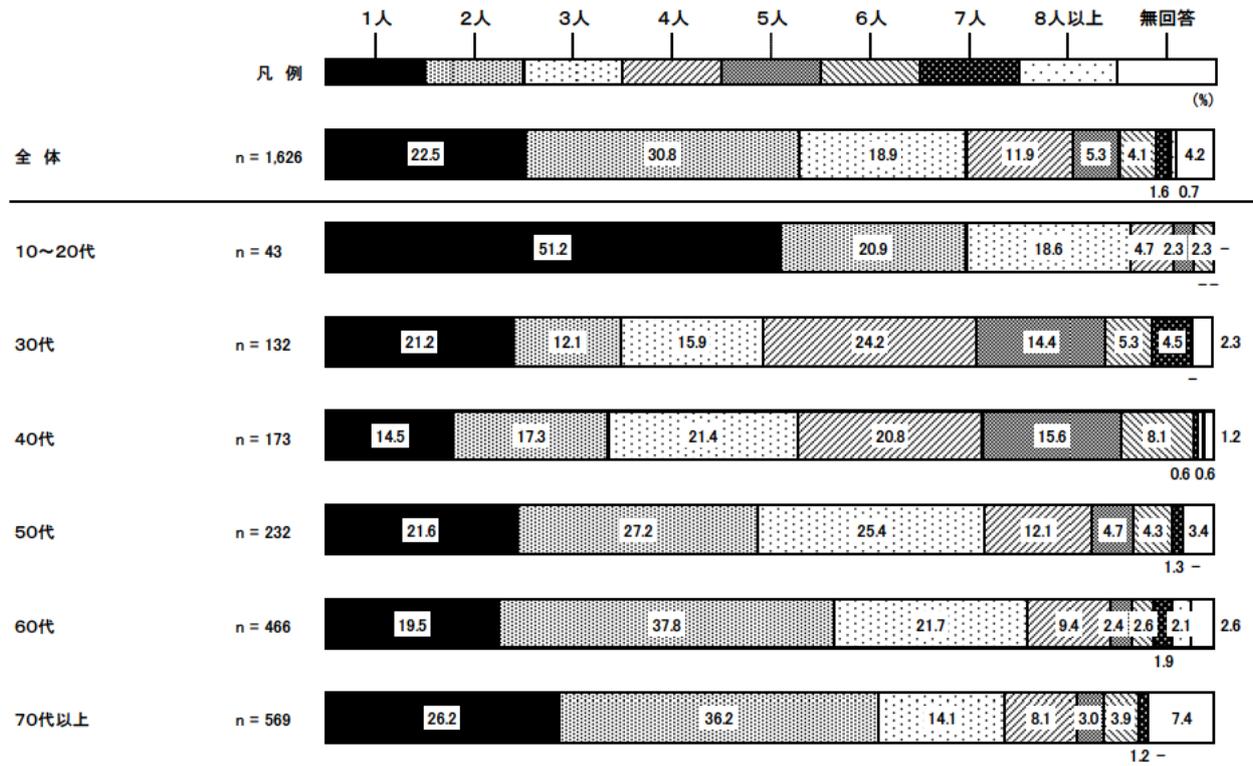


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数については、「2人」が30.8%と最も高く、次いで「1人」が22.5%、「3人」が18.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、60代で37.8%と最も高くなっている。「1人」は10~20代で51.2%と半数以上を占める。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（年齢別）>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

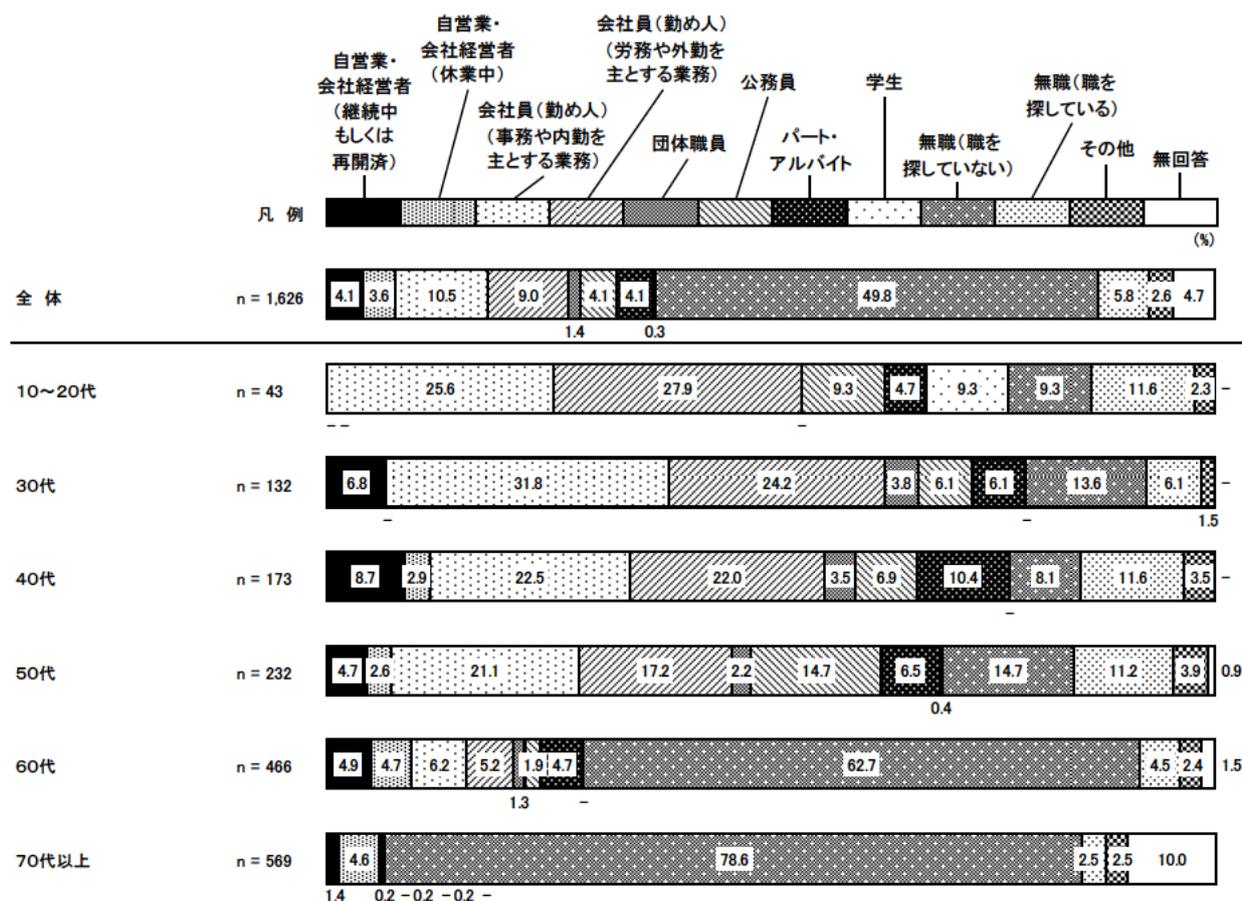
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が10.5%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が9.0%、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」、「公務員」、「パート・アルバイト」がともに4.1%となっている。

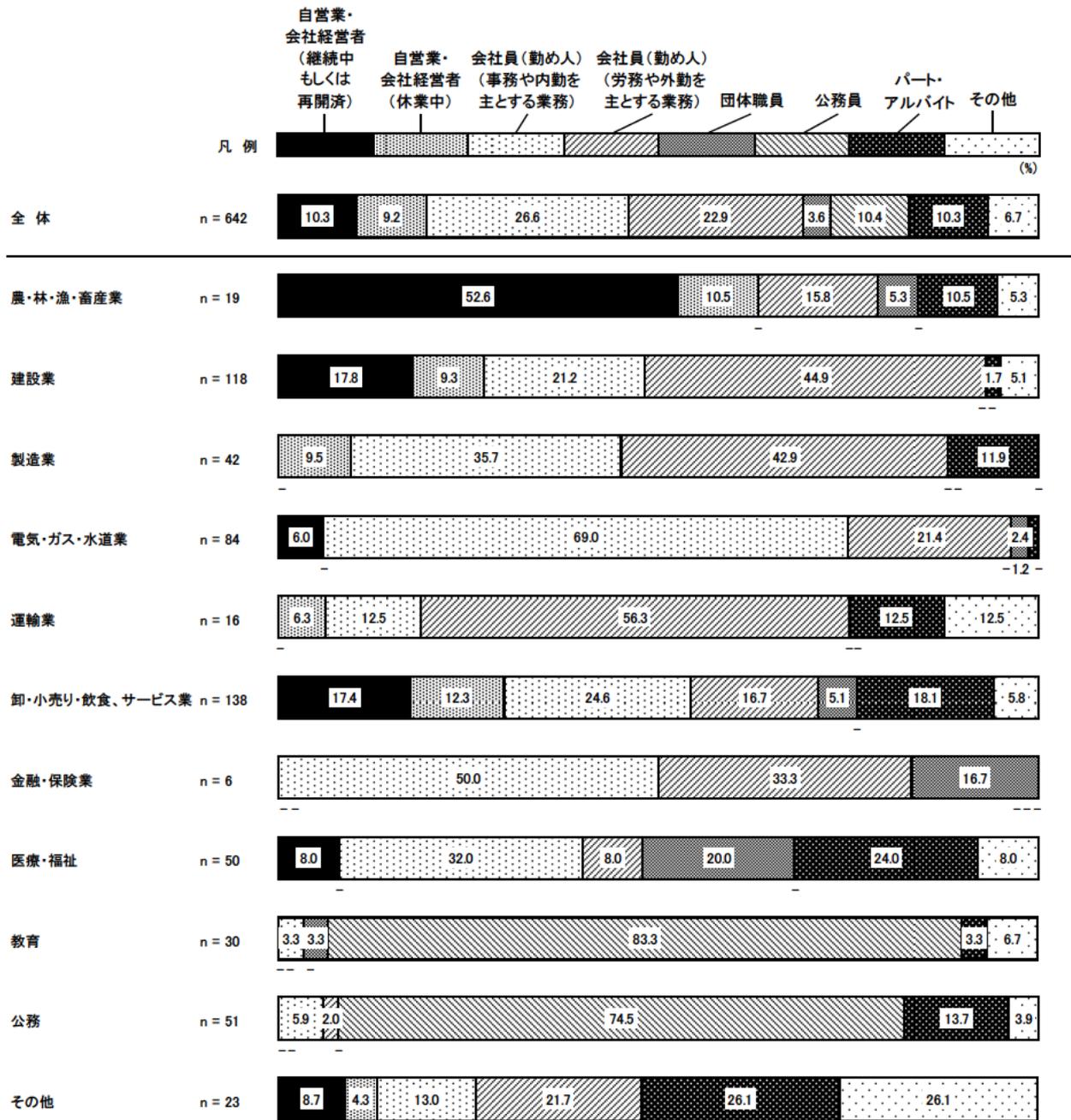
回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占める職業は、10～20代では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が27.9%、30代では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が31.8%、40代では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が22.5%、50代では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が21.1%、60代では「無職（職を探していない）」が62.7%、70代以上では「無職（職を探していない）」が78.6%と最も高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、それぞれ最も高い割合を占める職業は、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が44.9%、製造業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が42.9%、電気・ガス・水道業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が69.0%、卸・小売り・飲食、サービス業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が24.6%、医療・福祉では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が32.0%と最も高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

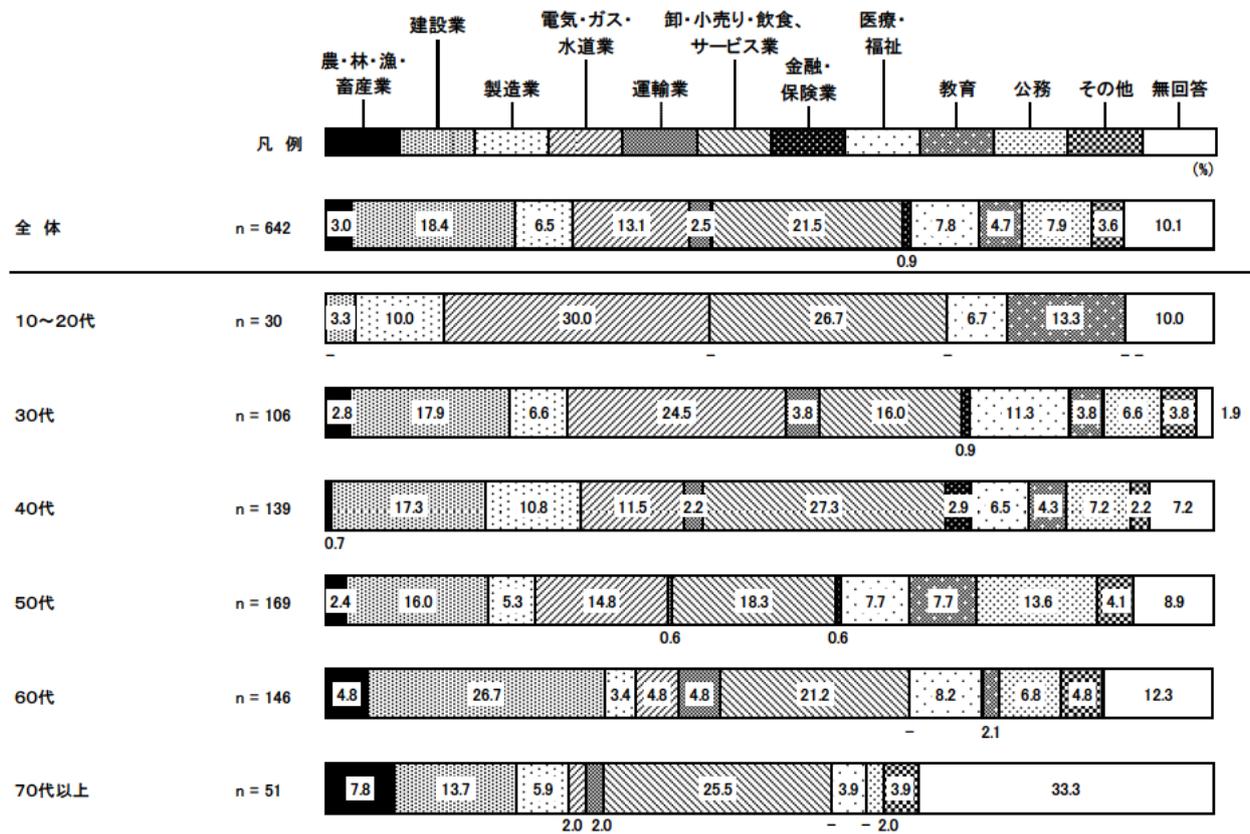
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「卸・小売り・飲食、サービス業」が21.5%と最も高く、次いで「建設業」が18.4%、「電気・ガス・水道業」が13.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「卸・小売り・飲食、サービス業」は10~20代で26.7%、40代で27.3%、70代で25.5%、「建設業」は60代で26.7%、「電気・ガス・水道業」は10~20代で30.0%、30代で24.5%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の業種(年齢別)>



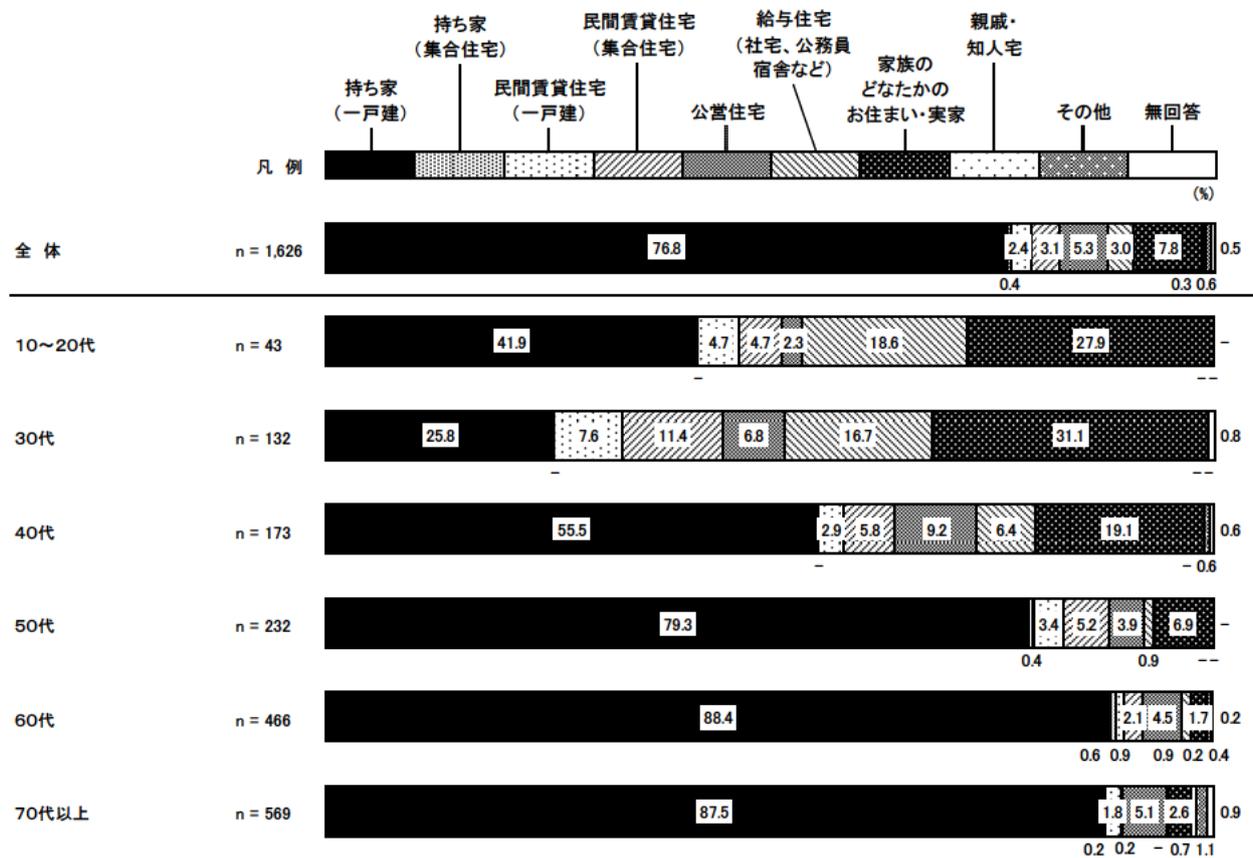
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が76.8%と最も高く、「持ち家（集合住宅）」(0.4%)を合わせた<持ち家>は77.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、60代では88.4%、70代以上では87.5%と9割近くを占める。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代が27.9%、30代が31.1%、「給与住宅（社宅、公務員宿舎など）」は10~20代が18.6%、30代が16.7%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



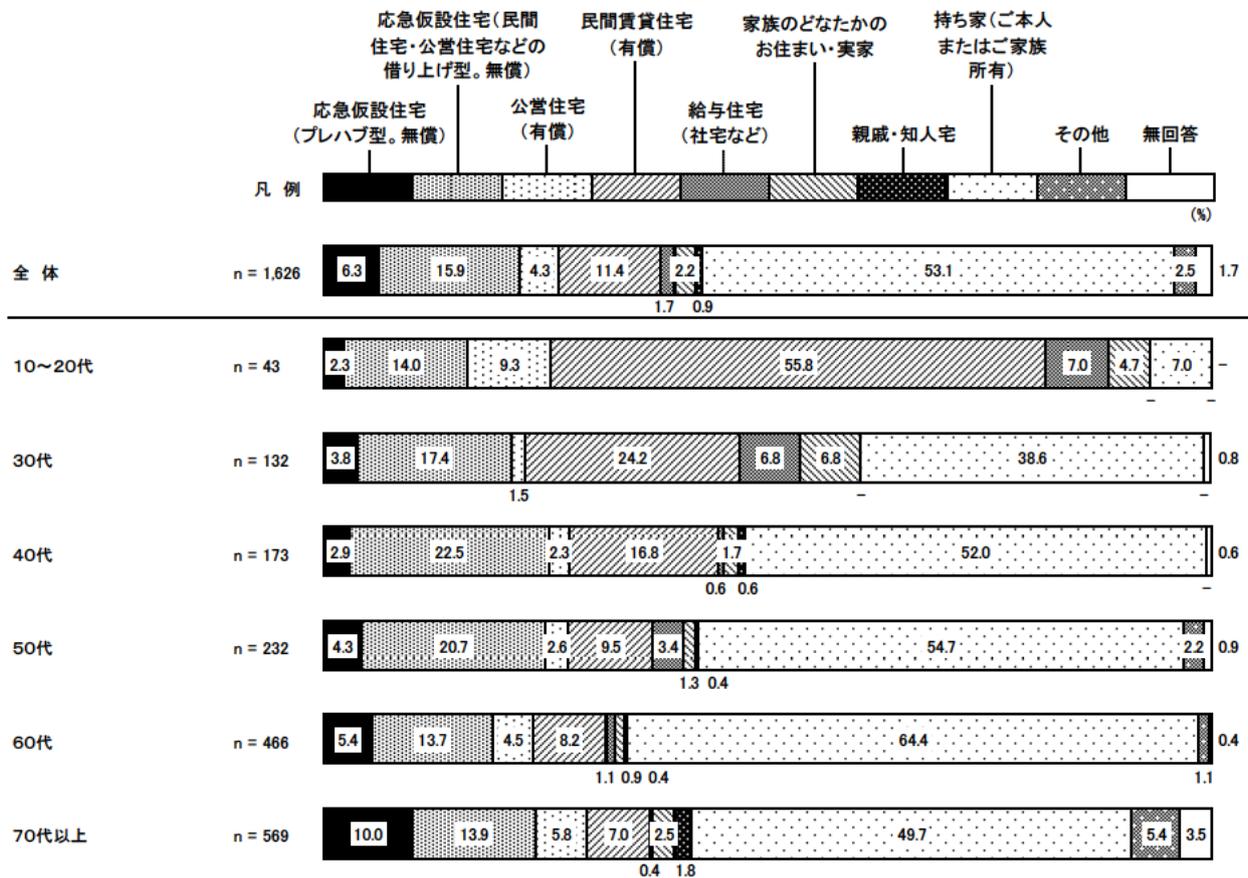
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が53.1%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が15.9%、「民間賃貸住宅（有償）」が11.4%となっている。

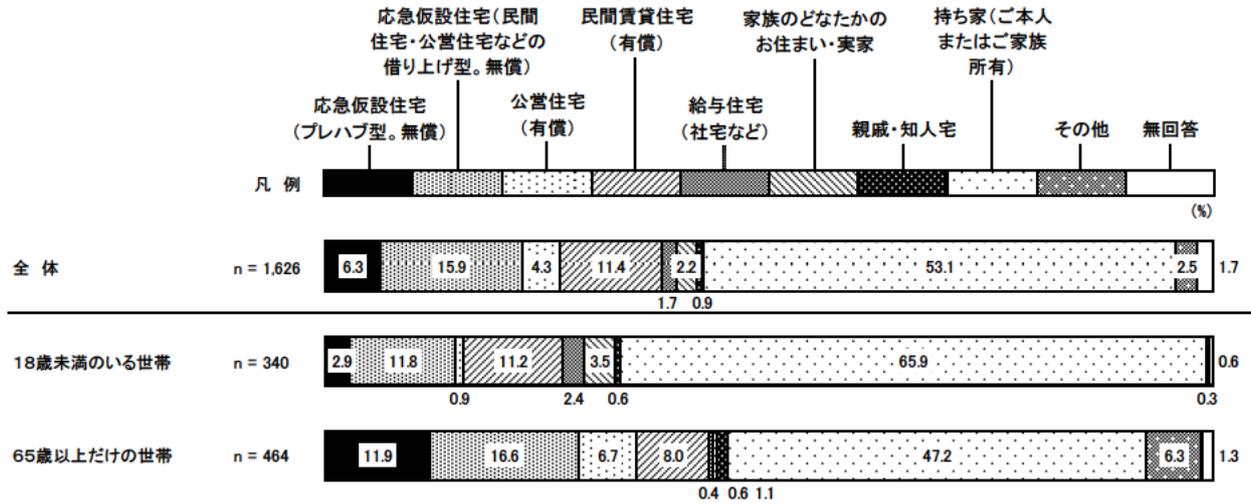
回答者の年齢別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は概ね年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、60代では64.4%と最も高くなっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」は10～20代で55.8%と半数以上を占める。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



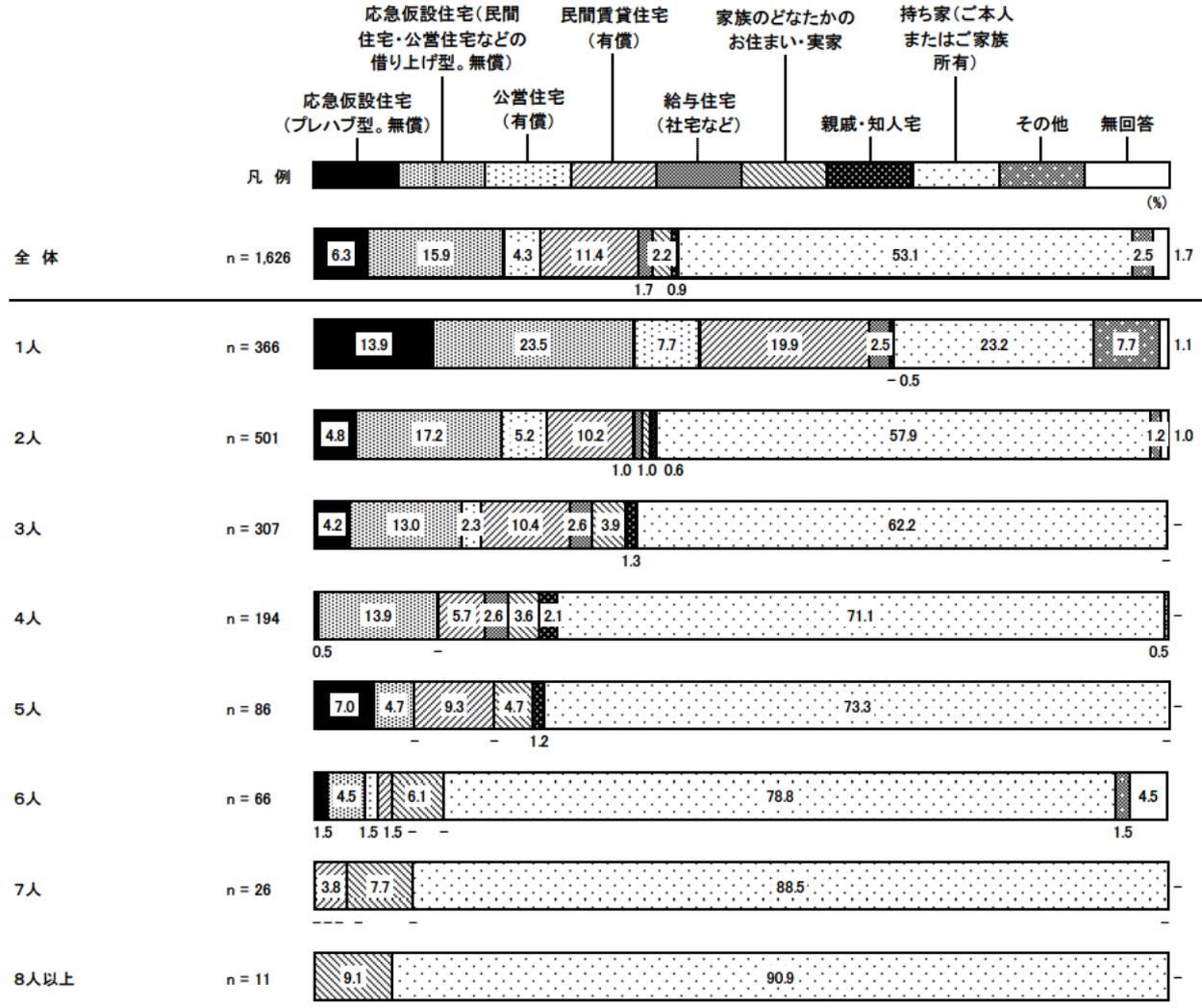
世帯構成別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯で65.9%、65歳以上だけの世帯で47.2%となっている。一方「応急仮設住宅（プレハブ型。無償・民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、18歳未満のいる世帯で14.7%、65歳以上だけの世帯で28.5%となっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



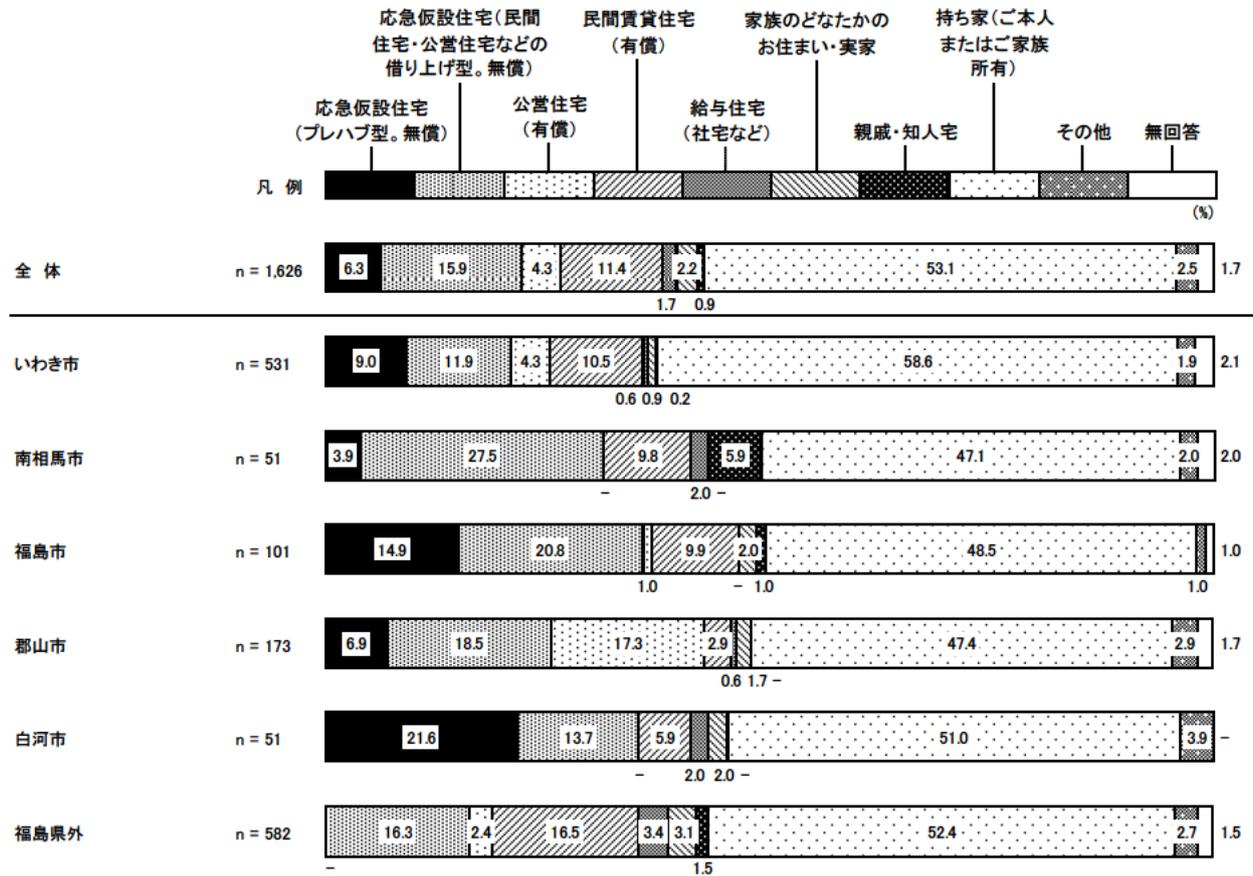
世帯人数別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、世帯人数が多くなるにつれ占める割合が高くなっている。一方、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償・民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ占める割合が低くなっている。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は白河市で21.6%、福島市で14.9%、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は南相馬市で27.5%、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市で58.6%と、他の主な避難先自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>

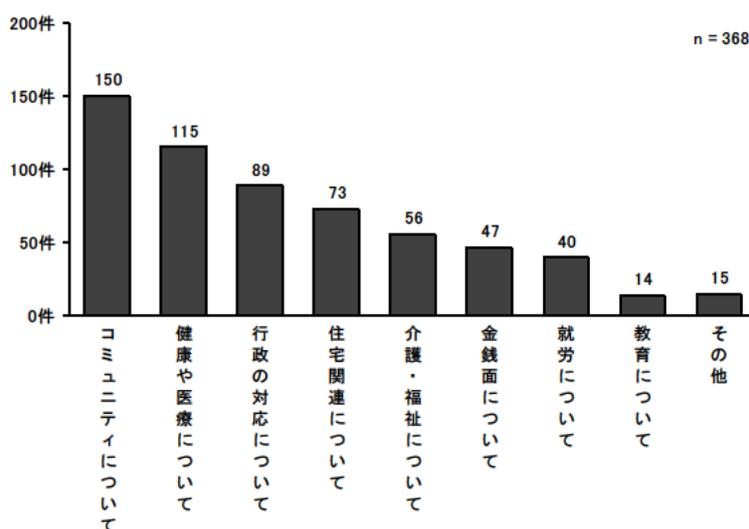


3-1-6 避難期間中の生活において困っていることや改善を求めること

問8 避難期間中の住宅や、生活において困っていること、改善を求めること等があれば、お書きください。
 (医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)。

避難期間中の生活において困っていることや改善を求めることについては、「コミュニティについて」が150件と最も多く、次いで「健康や医療について」が115件、「行政の対応について」が89件となっている。

＜図表3-1-6-1 避難期間中の生活において困っていることや改善を求めること＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【コミュニティについて】

- 子供を連れてサロンに時々参加するが開催場所が遠く行きづらい。様々なことに関しての情報がもっとほしい。(10～20代)
- 近くに友達がいない。同じ団地内で、知り合いも増えましたが、同世代の友達がほしい。(30代)
- 孤立している。職場や、近所でも知らない方ばかりで大変だ。(40代)
- アパートの住人の方とコミュニケーションが図れない。(50代)
- 移住先での人間関係が難しい。(50代)
- 双葉からの避難者であることが分からない様に生活しています。近所の人に声が聞こえない様に小さな声で話し、挨拶以外となり近所との付き合いはないです。(60代)
- 近隣住民に対し、原発事故避難者であることを伝えられず、「真の付き合い」が出来ない。出来てない。(60代)
- コミュニティ活動において、段々と集まってくれる人が少なくなってくる。(60代)
- 私達が避難している所は双葉郡内の方は誰もおらず、相談や、コミュニケーションが取れる人はいないので、半ば諦めている。(70代以上)
- 今までには友達関係などが訪ねて来てくれましたが、最近はお互い足も遠のいてきたように思います。近所(隣組)の人達とのコミュニケーションは良いと思いますが、やはり一時帰宅するたびに昔の生活が思い出されてなりません。これから先の事も考えたらきりがなく不安な気持ちでいっぱいです。(70代以上)

[健康や医療について]

- 福島県の情報が知りたい。これから、子供が生まれる時の医療情報も知りたい。(10～20代)
- 知り合いがいない為、独りであり、孤独との戦いである。どこにかかれば良いかも含め、都内の知らない土地の為、5年間住んでいる今でも病院など場所も分からず、とても不便である。(30代)
- 引越しをしたばかりで、通う病院がどこに行ったら良いのかまだよく分からない。病院に行くのを我慢してしまう事が多い。(40代)
- 1人で暮らしているので、体調が悪くなってしまった時(熱があつたり、自分で運転が出来ない時のひどい時)に、医者に行けない。まれですが、家族と一緒にでないので、もしもが気になります。(40代)
- 家族と離れて生活していることが、精神的負担となっている。(50代)
- 医療、通院の回数が増えて、科目も増え、近くに医療機関があれば良いが通院が大変。今後はもっと高齢となり、考えると本当に大変だと思います。(60代)
- 高齢の両親と別居中で、両親が健康不調となった場合の対応が懸案。(60代)
- 仮住まいのため、気持ちがスッキリしない。双葉への帰還の気持ちも捨てられない。(60代)
- 一人暮らしの為、体調不良の場合不安である。知り合いも少なく、病院に行くのも大変。(70代以上)
- 常磐の復興住宅に入り病院が遠くなり、タクシーに乗るので交通費が高額になり大変になりました。(70代以上)

[行政の対応について]

- 住民票関係の手続きがとても面倒。(10～20代)
- 県外で働き始めたら、東京電力が賠償を打ち切った。ADRに訴えても合意してくれない。そんな人が周りに何人もいる。なんとかしてほしい。(30代)
- 住民票は自分達が悪い事をしていたり、自分達が失敗をしたという事で双葉町を離れたわけではないので、移す予定はないが、住民票を移さないと、何か悪いような雰囲気や学校避難先地域である時もある。もっと国が、きちんと情報を流して、避難している人への配慮を徹底するべき。(30代)
- 主人が体を壊し身障者(福祉)になり、手続き、子供の教育、今後、夫婦揃って少しずつですが就労に向けて前向きに動いていきたいと考えております。不安はありますが、少しでも、どんな情報でも頂ければと考えています。(40代)
- 住民票をどうしたらいいのか困っています。住んでない双葉町の住民票でいつまでいられるのか？郡山市に住民票を移さなくてもいいのか？不安です。妻と子は郡山市に移動しました。まるで別に住んでいるようです。(40代)
- 一時帰宅して墓参り等をする場合、スクリーニング場から自宅又は、墓迄のルートが遠回りになる為、近ルートを検討してほしい。(50代)
- 公的手続き等において、簡単スムーズに行われる様なシステム(仕組み)にして欲しい。住民票住所と避難住所の違いにより、あらゆる届出、手続等がとても複雑でスムーズに行われていない。(60代)
- 双葉町の詳細な情報が入って来ない(新聞(民報)、情報で知らされることが多い)。(60代)
- 双葉町新山地区に代々の墓があるため、墓参り時毎回立入申請が必要な為、常時立入可能なパス等発行できないか(年に数回ではあるが)。(70代以上)
- 医療は今迄通り無償にいただければ助かります。埼玉支所、埼玉いきいきサロンをなくさないで欲しいです。(70代以上)

[住宅関連について]

- 家族の関係が悪くなり、同居は困難。住宅再建も難しく、今後が不安。世帯主には住宅の補助はあるが、避難によって家族関係に影響が出た場合にも補助を検討して欲しい。(30代)
- 震災の頃と家族形態が変わり、一人住まいになったけれど、今後の単身者(高齢者を除いた人)の住まい、やはり民間の賃貸住宅に頼るしかないのでしょうか。(30代)
- すぐ双葉町へ帰れるだろうと、考えなしに適当なアパートを借りてしまい5年、狭く、暑く寒かった。全て困ることばかりだった。(40代)
- 賃貸住宅におりますが、間取りが手狭となっていく一方、子供の学校の通学区を変えないで済むような、間取りが広い賃貸物件又は土地がないことに困っています。(40代)
- 現在、借上げ住宅(3LDK)ですが、やはり部屋が狭く、物を置く場所がない。上の階がうるさい時がある。(50代)
- 新たに住宅を求める際に、補助がどれだけ出るのか不明なこと。(50代)
- 双葉町の自宅は屋根瓦が損傷しシートで養生していますが、シートの劣化もあり雨漏れ。イノシシにも3回入られました。今後いつまで家の修繕、庭木の手入れの為、一時帰宅しなければならないでしょうか。余力があるうちに帰れないなら、住宅を解体してもらった方が良い。(60代)
- 双葉町の住居の扱いが定まらないため、住民票を移せない。いつまでこのように二重の住所で生活しなければならないのだろうか。(60代)
- 避難先の住宅が狭く、双葉町(自宅)の家具類を持ち込めないので困っている。(70代以上)
- 応急仮設住宅の作りの為、隣の生活音(電話の声テレビの音、室内移動時の音、ドアの締める音など)が隣部屋より響き良く聞こえ、自分達の音も聞こえると思うと、なるべく音を出さない様気を使うので精神的に疲労し疲れました。(70代以上)

3-2 将来の意向

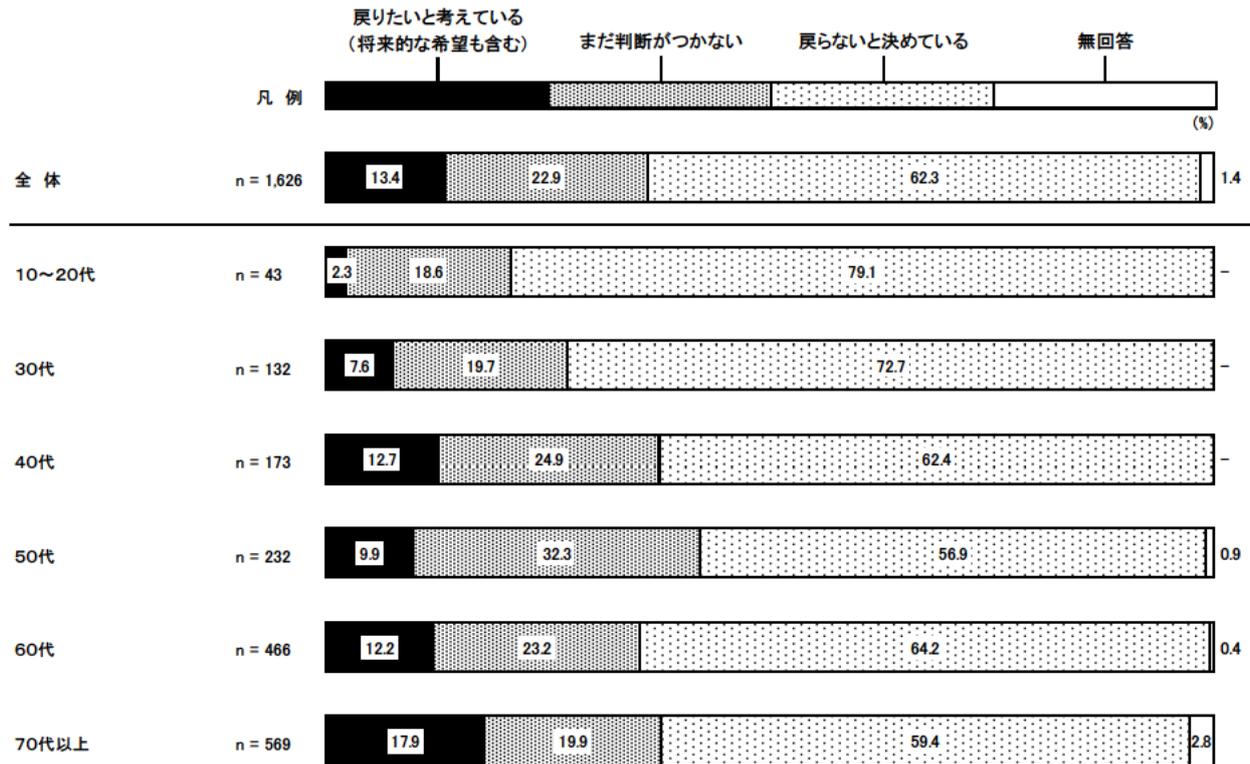
3-2-1 双葉町への帰還意向

問9 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
(〇は1つ)

双葉町への帰還意向については、「戻らないと決めている」が62.3%と最も高く、次いで「まだ判断がつかない」が22.9%、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が13.4%となっている。

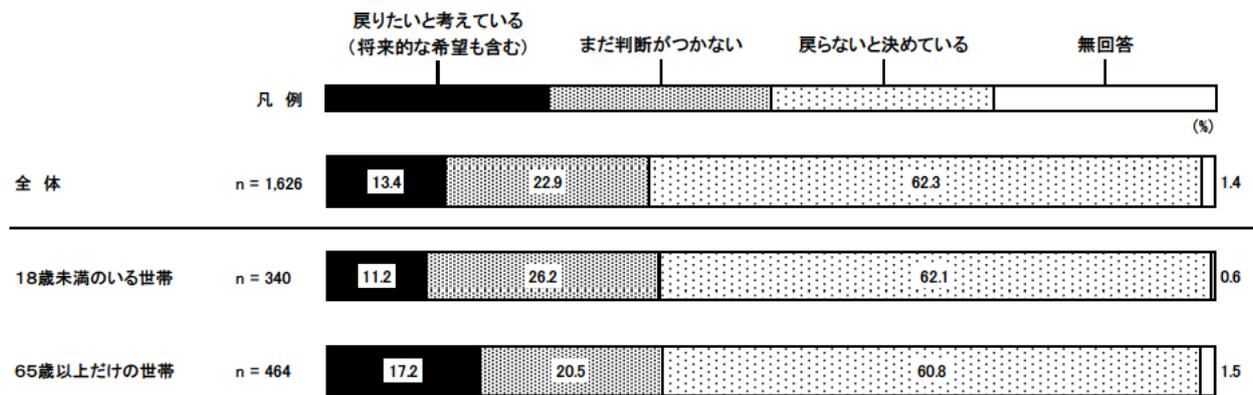
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は70代以上で17.9%となっている。一方、「戻らないと決めている」は10～20代で79.1%、30代で72.7%と7割以上を占め、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-1 双葉町への帰還意向（年齢別）>



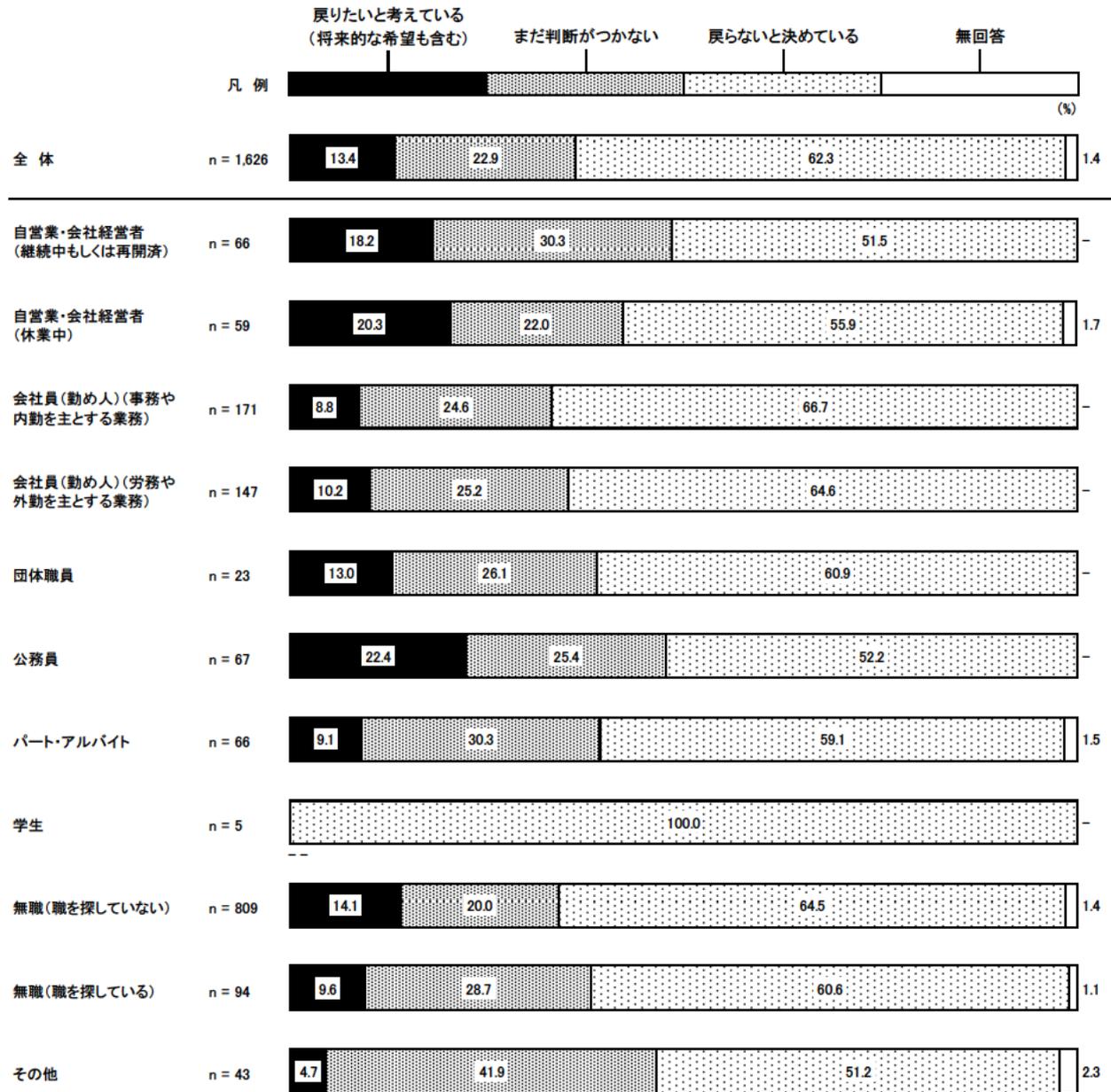
世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は18歳未満のいる世帯で11.2%、65歳以上だけの世帯で17.2%となっている。一方、「戻らないと決めている」は18歳未満のいる世帯で62.1%、65歳以上だけの世帯で60.8%となっている。

<図表3-2-1-2 双葉町への帰還意向（世帯構成別）>



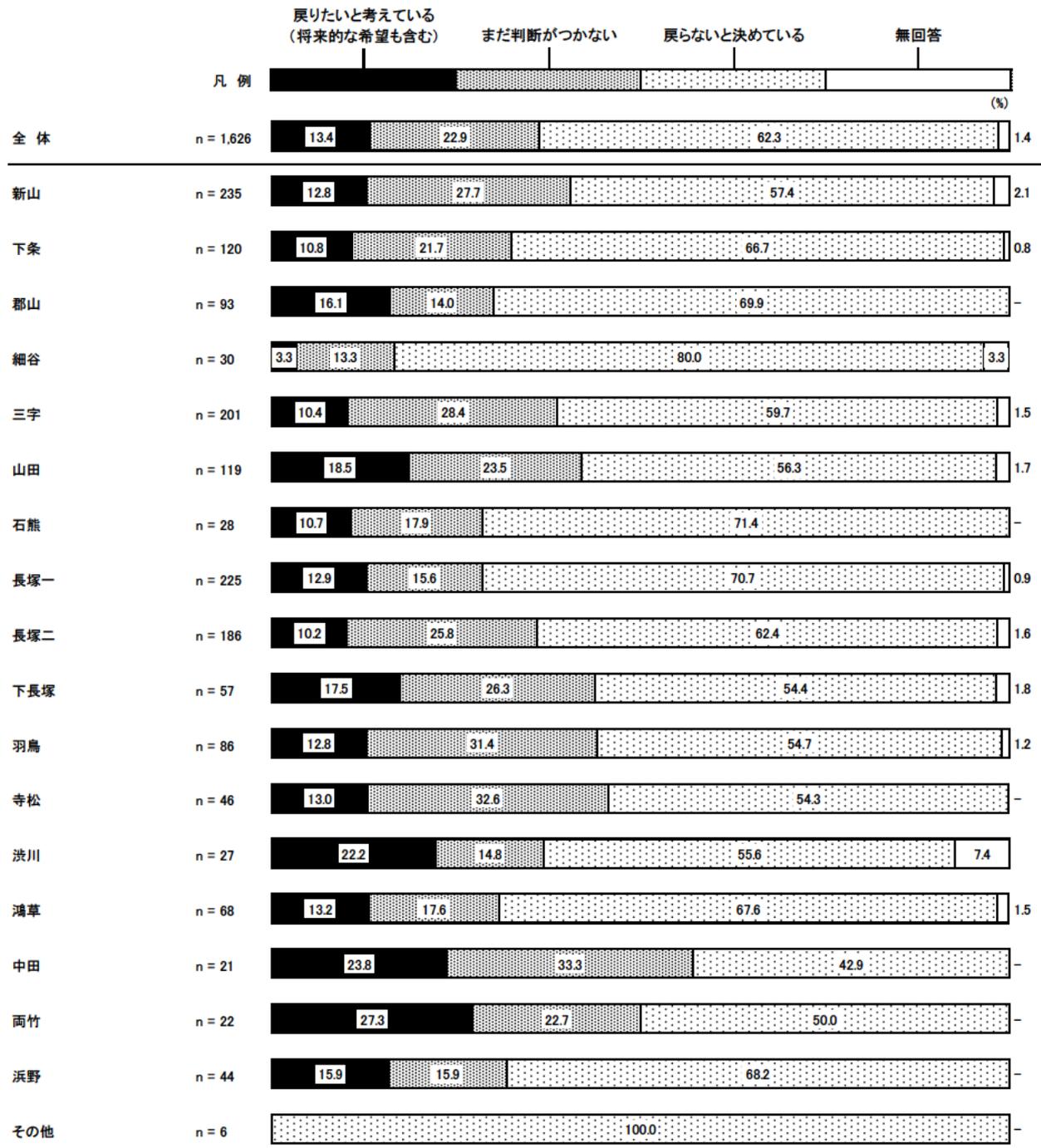
職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、公務員で22.4%、自営業・会社経営者（休業中）で20.3%、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）で18.2%と、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-3 双葉町への帰還意向（職業別）>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は両竹で27.3%、中田で23.8%、渋川で22.2%と2割以上となっており、他の行政区と比べ高くなっている。

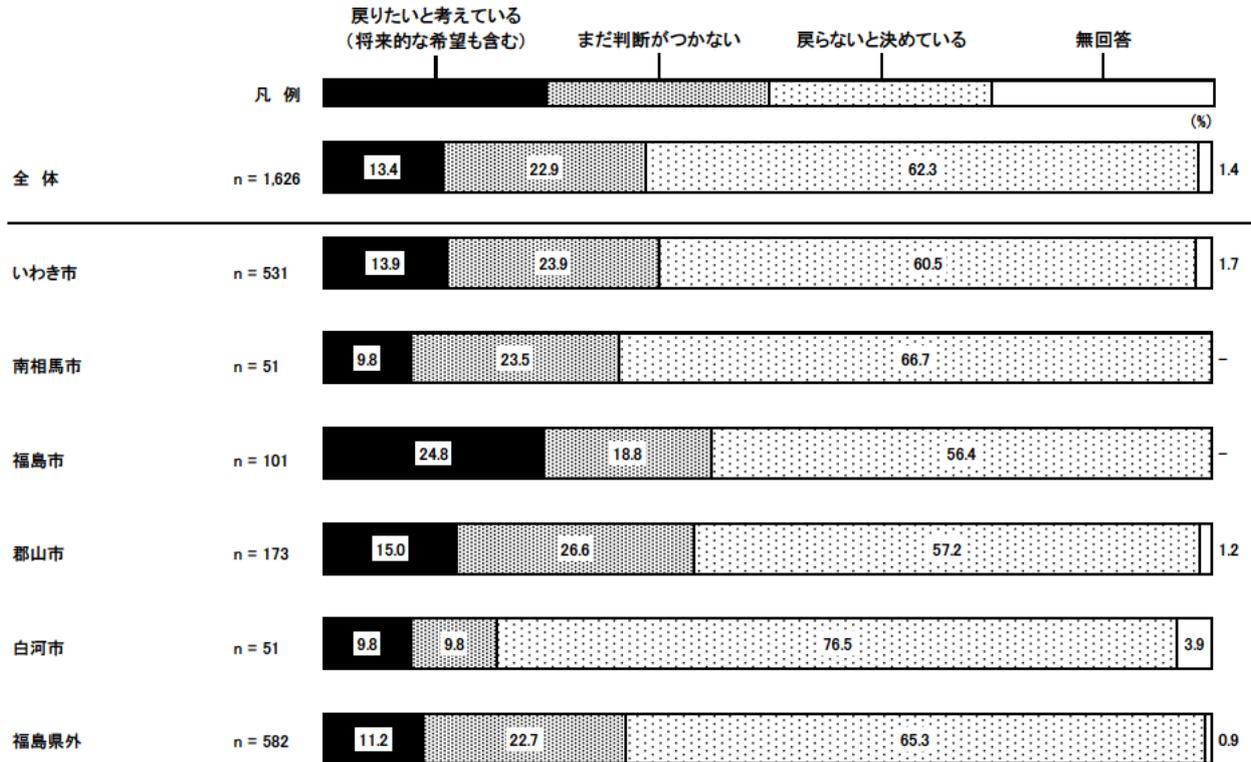
<図表3-2-1-4 双葉町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は福島市では24.8%となっており、他の主な避難先自治体と比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は、白河市では76.5%と7割以上を占め、他の主な避難先自治体と比べ高くなっている。

＜図表3-2-1-5 双葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞



3-2-2 帰還まで待てる年数

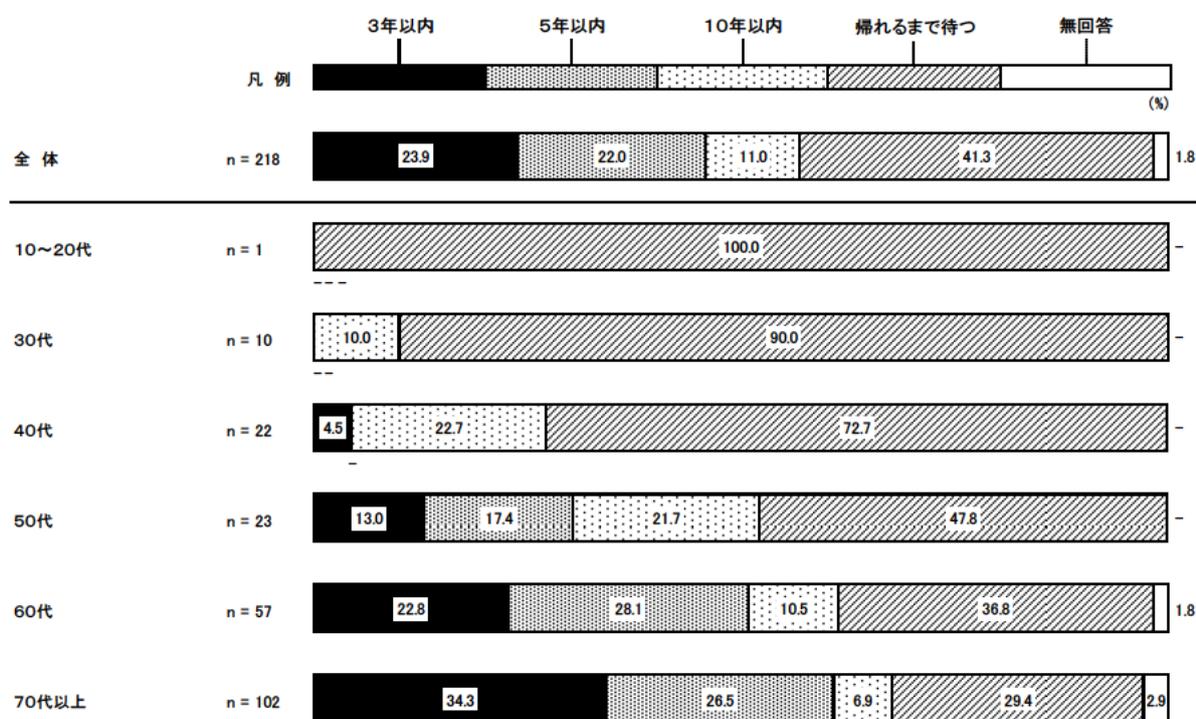
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問10-1-1 何年以内であれば待てますか。（〇は1つ）

帰還まで待てる年数については、「帰れるまで待つ」が41.3%と最も高く、次いで「3年以内」が23.9%、「5年以内」が22.0%となっている。

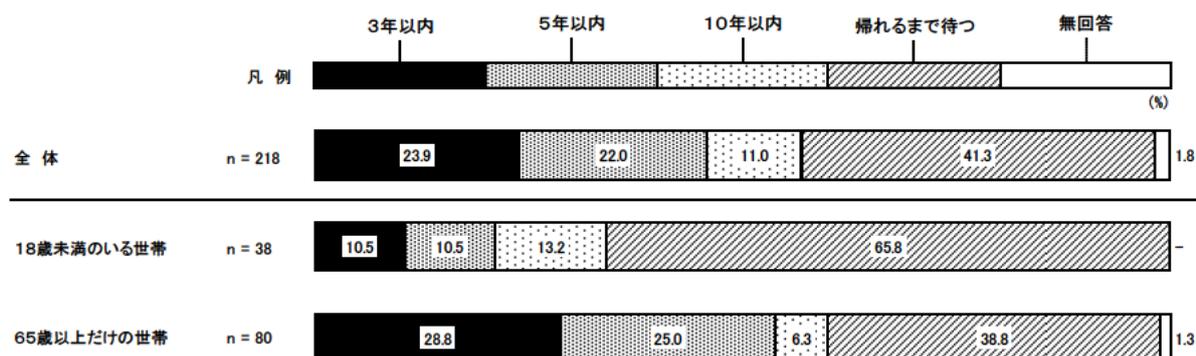
回答者の年齢別にみると、「帰れるまで待つ」は50代で47.8%、60代で36.8%と最も高い割合を占めるが、70代以上では29.4%となり、「3年以内」が34.3%と最も高い割合を占める。

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「帰れるまで待つ」が65.8%と、6割以上を占める。一方、65歳以上だけの世帯では、「帰れるまで待つ」は38.8%にとどまり、「3年以内」が28.8%、「5年以内」が25.0%で、5年以内までの回答が53.8%と5割以上を占める。

<図表3-2-2-1 帰還まで待てる年数（年齢別）>



<図表3-2-2-2 帰還まで待てる年数（世帯構成別）>



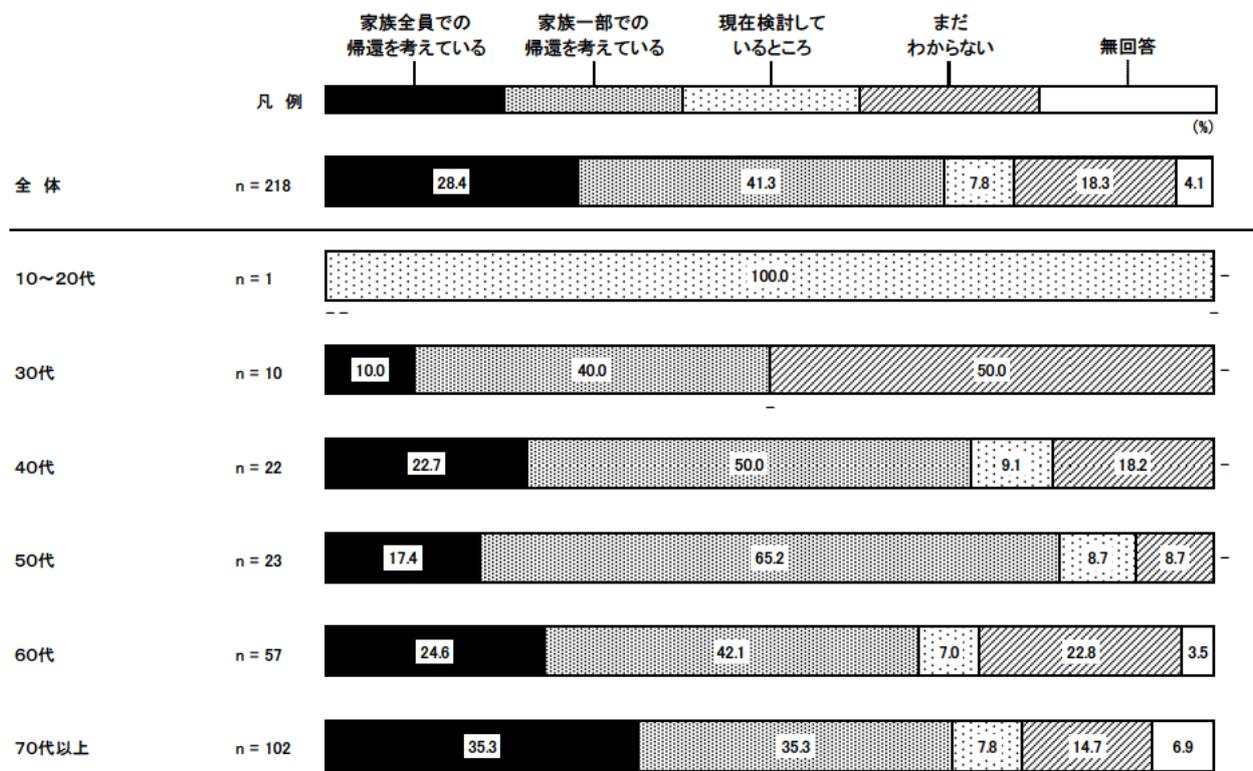
3-2-3 双葉町へ戻る場合の家族

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問10-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

双葉町へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が41.3%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が28.4%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて26.1%となっている。

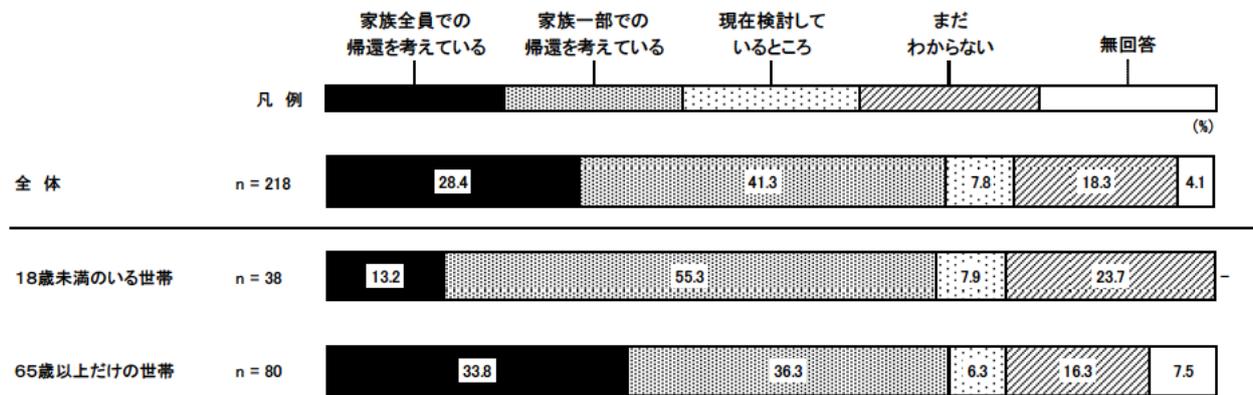
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は70代以上で35.3%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-1 双葉町へ戻る場合の家族（年齢別）>



世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は65歳以上の世帯では33.8%と3割以上となっているが、18歳未満のいる世帯では13.2%にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は18歳未満のいる世帯では55.3%と半数以上を占め、65歳以上の世帯と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-2 双葉町へ戻る場合の家族（世帯構成別）>



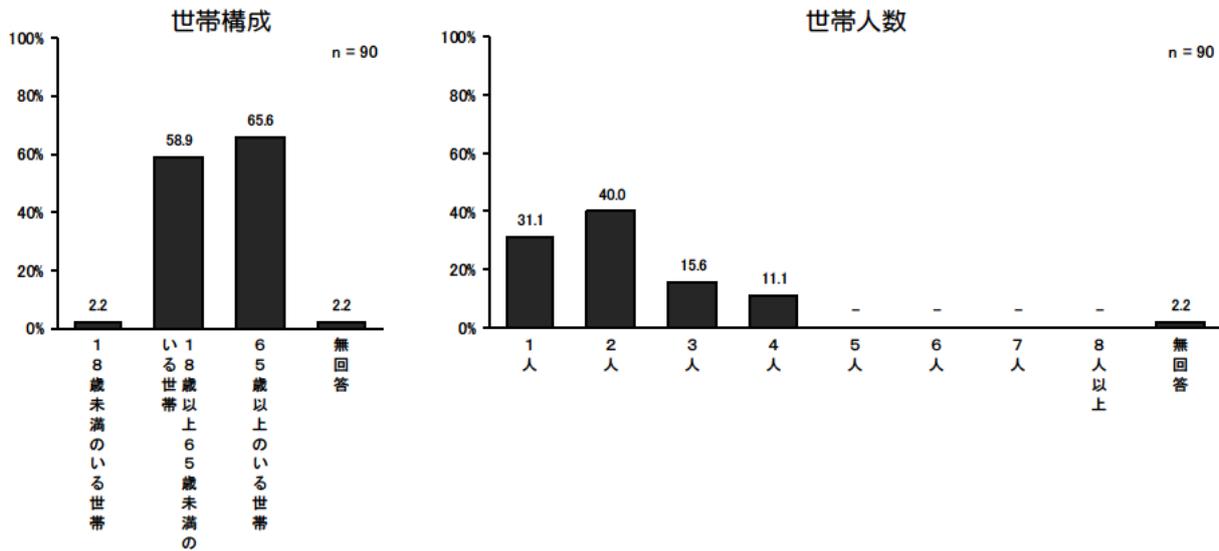
3-2-4 双葉町へ家族の一部が戻る場合の世帯構成・人数

【問 10-1-2 で「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1-3 帰還した場合にはどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

双葉町へ家族の一部が戻る場合の世帯構成については、「65 歳以上のいる世帯」が 65.6%、「18 歳以上 65 歳未満のいる世帯」が 58.9%となっている。「18 歳未満のいる世帯」は 2.2%とほとんどいない。世帯人数については、「2 人」が 40.0%と最も高く、次いで「1 人」が 31.1%、「3 人」が 15.6%となっている。

<図表 3-2-4-1 双葉町へ家族の一部が戻る場合の世帯構成・人数>



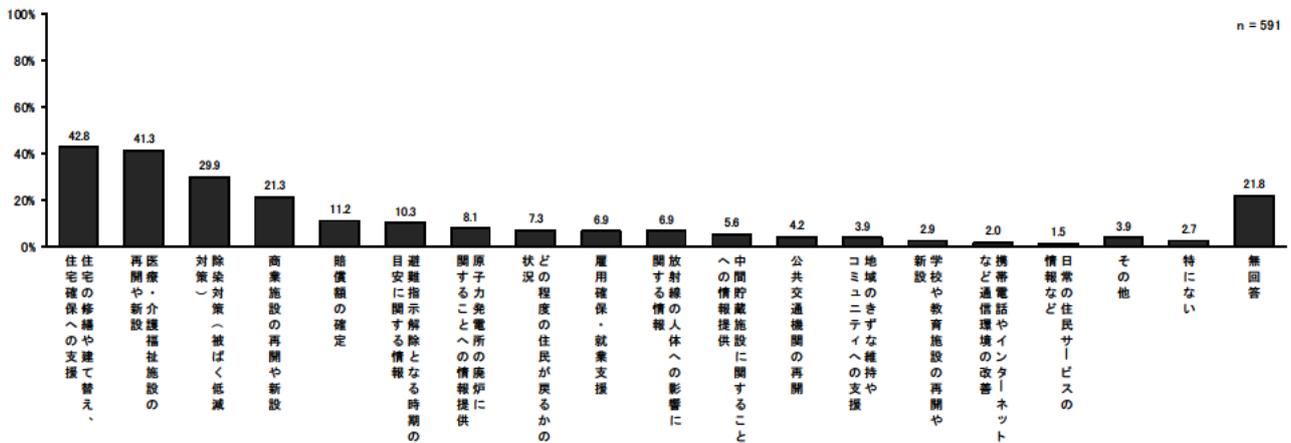
3-2-5 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報

【問9で「1 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがっています。】

問 10-2 帰還する場合、または双葉町へ戻ることを判断するためにどのような支援や情報が必要と考えますか。重視したいものから順に選択肢番号欄に3つまで選び、具体的な内容欄に支援や情報内容をご記入ください。

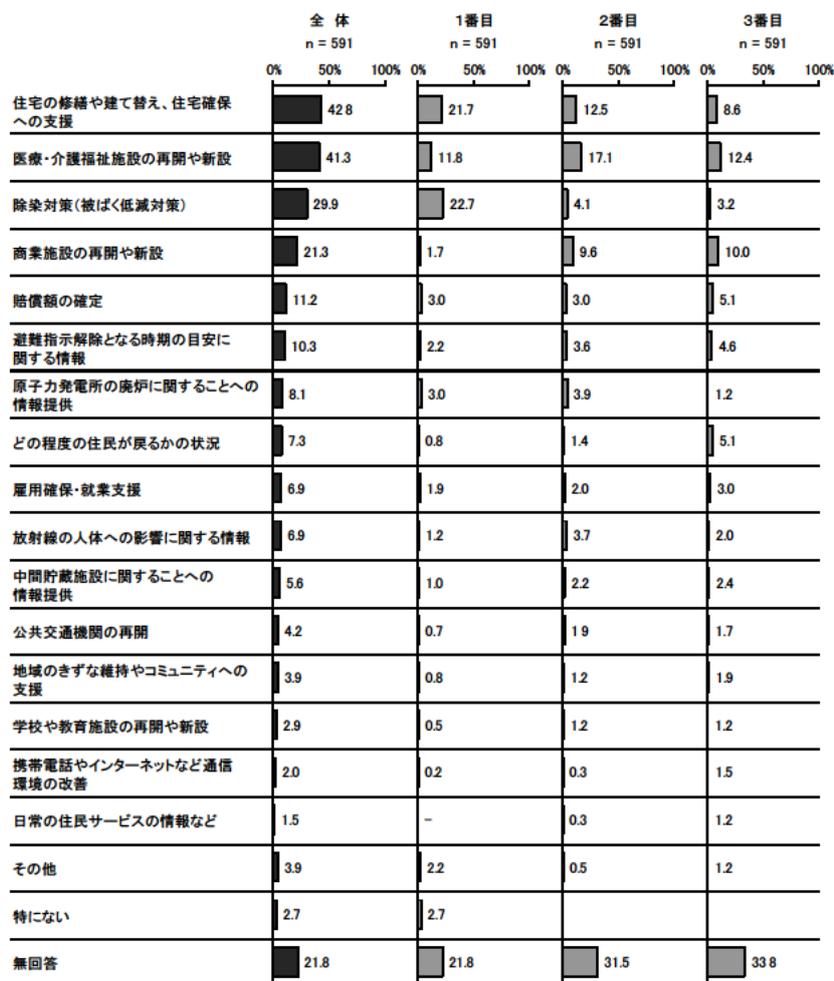
双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報については、「住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援」が42.8%と最も高く、次いで「医療・介護福祉施設の再開や新設」が41.3%、「除染対策（被ばく低減対策）」が29.9%となっている。

＜図表3-2-5-1 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報＞



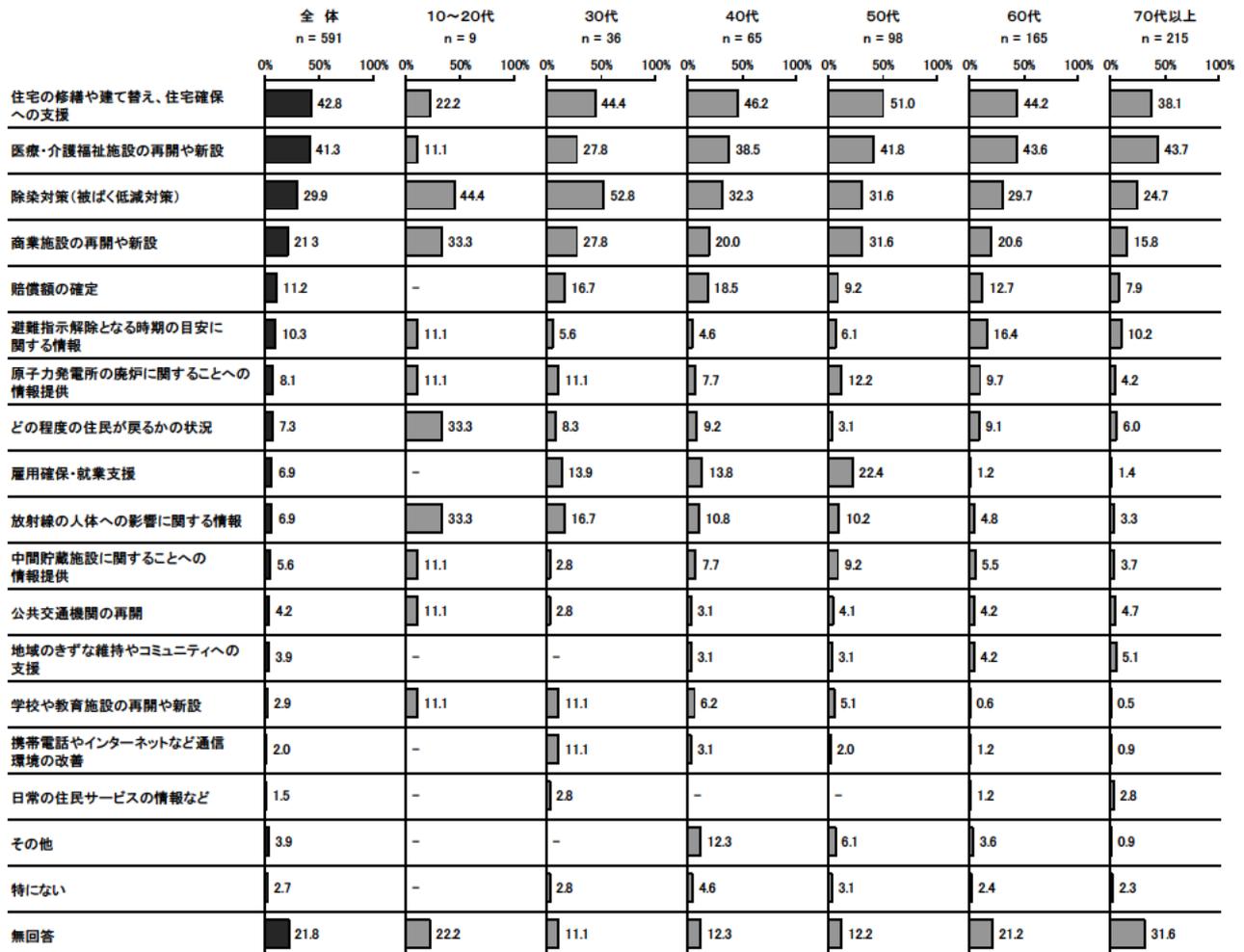
優先順位別にみると、1番目は、「除染対策（被ばく低減対策）」が22.7%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援」が21.7%、「医療・介護福祉施設の再開や新設」が11.8%となっている。2番目は、「医療・介護福祉施設の再開や新設」が17.1%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援」が12.5%、「商業施設の再開や新設」が9.6%となっている。3番目は、「医療・介護福祉施設の再開や新設」が12.4%と最も高く、次いで「商業施設の再開や新設」が10.0%、「住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援」が8.6%となっている。

<図表3-2-5-2 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報（優先順位別）>



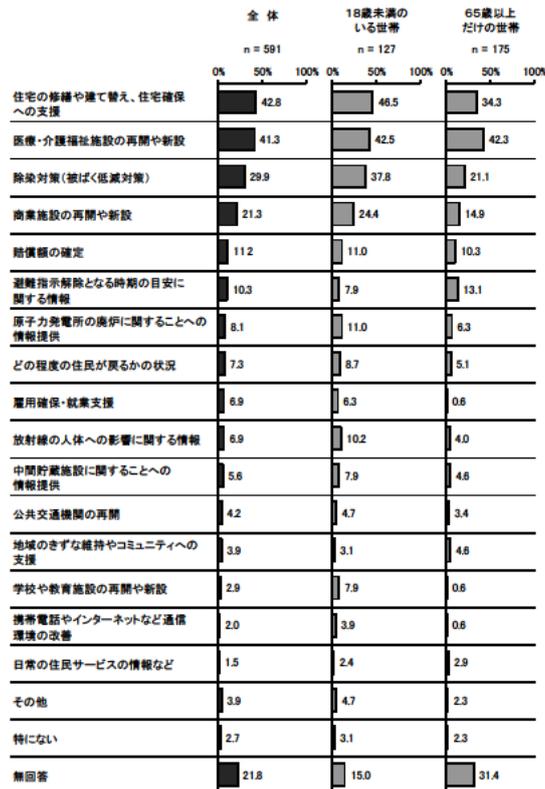
回答者の年齢別にみると、「除染対策（被ばく低減対策）」は30代で52.8%、「商業施設の再開や新設」は50代で31.6%、「雇用確保・就業支援」は50代で22.4%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-5-3 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、「医療・介護福祉施設の再開や新設」は18歳未満のいる世帯、65歳以上の世帯ともに4割以上となっている。一方、18歳未満のいる世帯では、「住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援」が46.5%、「除染対策（被ばく低減対策）」が37.8%、「商業施設の再開や新設」が24.4%と、65歳以上の世帯と比べ高くなっている。

<図表3-2-5-4 双葉町への帰還を判断するために必要な支援・情報（世帯構成別）>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援について]

- 町内での住宅再建に対する支援。(30代)
- 住宅の老朽化による修繕など。(40代)
- 土地家屋を中間貯蔵予定地へ提供したため、代替地が必要。(50代)
- 家の中の悪臭がひどいので、床やクロスなどの貼り替え。(50代)

[医療・介護福祉施設の再開や新設について]

- 双葉厚生病院の再開。(10~20代)
- 病院だけでなく特老まで整えてほしい。(40代)
- 病院（内科、外科、歯科など）。(40代)
- 緊急時のすみやかな対応。(70代以上)

[除染対策（被ばく低減対策）について]

- 居住エリアは限りなく線量を下げる（除染）。(30代)
- 除染の効果、除染後の放射線量率の推移。(30代)
- どのくらいの線量があるかわからないため、スポットの場所など、測定の場所など。(50代)
- 除染がどこまで進められたのか、具体的な場所や線量状況周知。(50代)

3-2-6 双葉町へ帰還する場合の住居形態

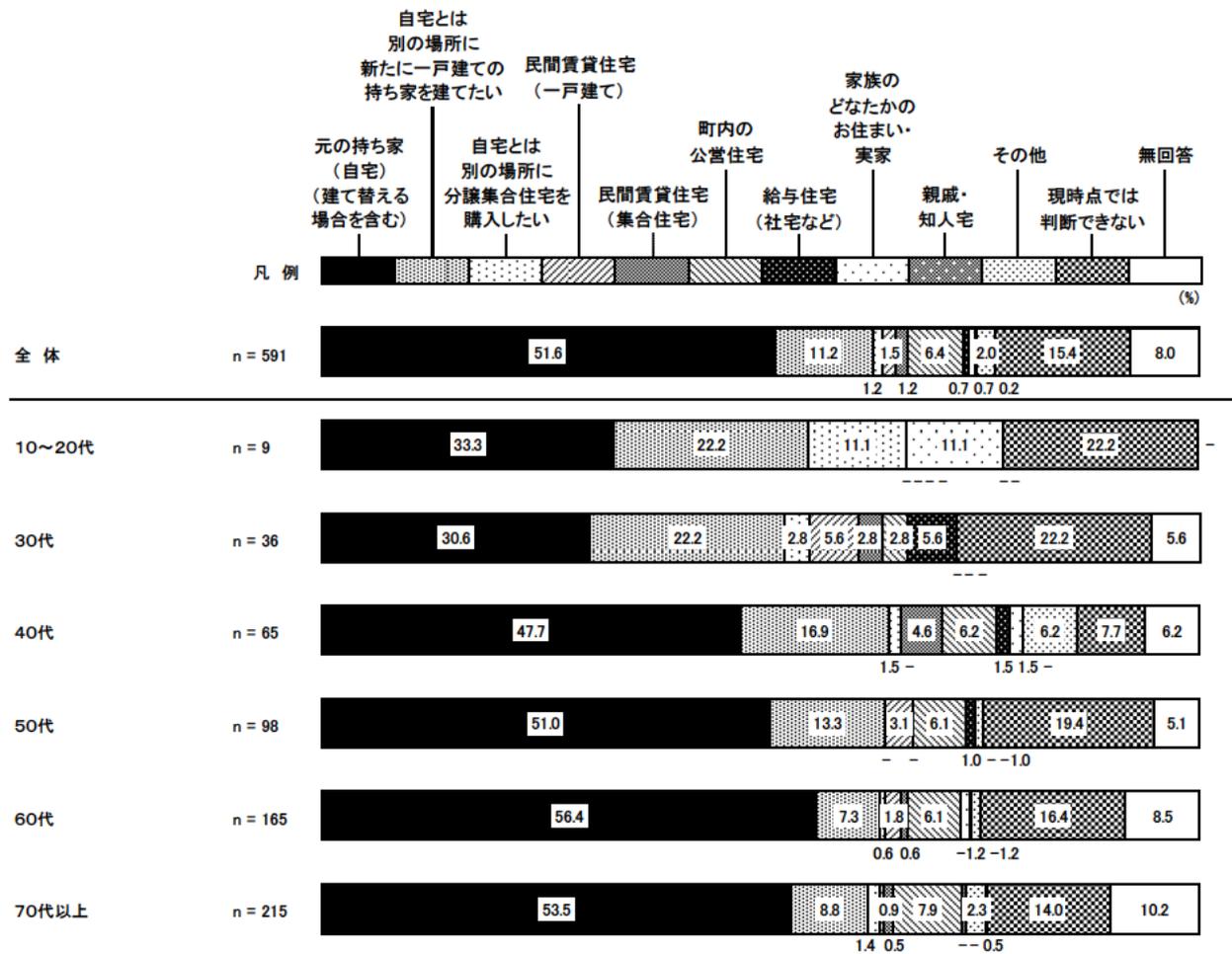
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 帰還した場合のお住まいは、第一希望としてどのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

双葉町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が51.6%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が15.4%、「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が11.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は40代以上では5割前後を占めるが、30代では30.6%にとどまる。

<図表3-2-6-1 双葉町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>

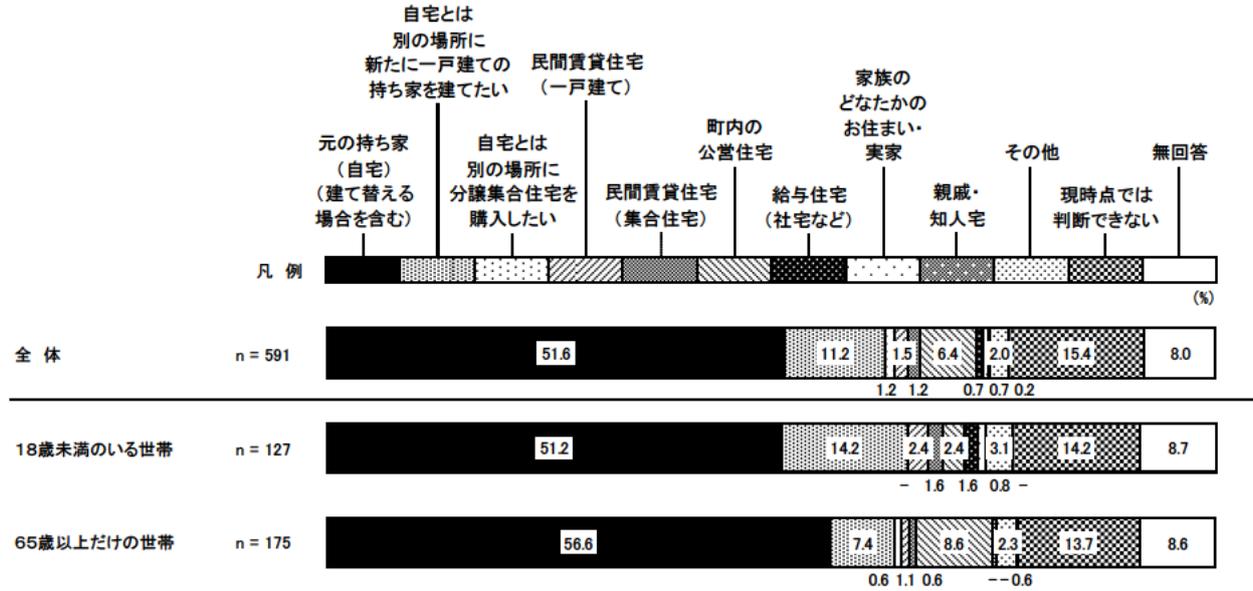


III 調査結果

世帯構成別にみると、いずれの世帯構成でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は最も高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は郡山、浜野以外の全ての行政区で最も高くなっている。

＜図表3-2-6-2 双葉町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-2-6-3 双葉町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

行政区	n	元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）	自宅とは別の場所に新たに戸建ての持ち家を建てたい	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	町内の公営住宅	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答	
全体	591	51.6	11.2	1.2	1.5	1.2	6.4	0.7	0.7	0.2	2.0	15.4	8.0
新山	95	48.4	7.4	2.1	3.2	2.1	6.3	4.2	-	-	3.2	17.9	5.3
下桑	39	46.2	10.3	-	-	-	2.6	-	2.6	-	5.1	23.1	10.3
郡山	28	21.4	32.1	7.1	-	-	3.6	-	-	-	3.6	25.0	7.1
細谷	5	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0
三字	78	52.6	12.8	-	1.3	2.6	11.5	-	-	-	1.3	10.3	7.7
山田	50	66.0	8.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	14.0	10.0
石熊	8	37.5	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	25.0	25.0
長塚一	64	46.9	12.5	-	3.1	-	14.1	-	-	-	4.7	14.1	4.7
長塚二	67	53.7	3.0	4.5	3.0	-	6.0	-	1.5	-	3.0	17.9	7.5
下長塚	25	68.0	4.0	-	-	4.0	-	-	-	-	-	12.0	12.0
羽鳥	38	60.5	23.7	-	-	-	-	-	-	-	-	15.8	-
寺松	21	52.4	23.8	-	4.8	4.8	4.8	-	-	-	-	4.8	4.8
渋川	10	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
涌草	21	66.7	-	-	-	-	4.8	-	-	-	-	14.3	14.3
中田	12	50.0	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	8.3	33.3
両竹	11	72.7	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1	9.1
浜野	14	-	35.7	-	-	-	21.4	-	7.1	7.1	-	14.3	14.3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3-2-7 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居留意向

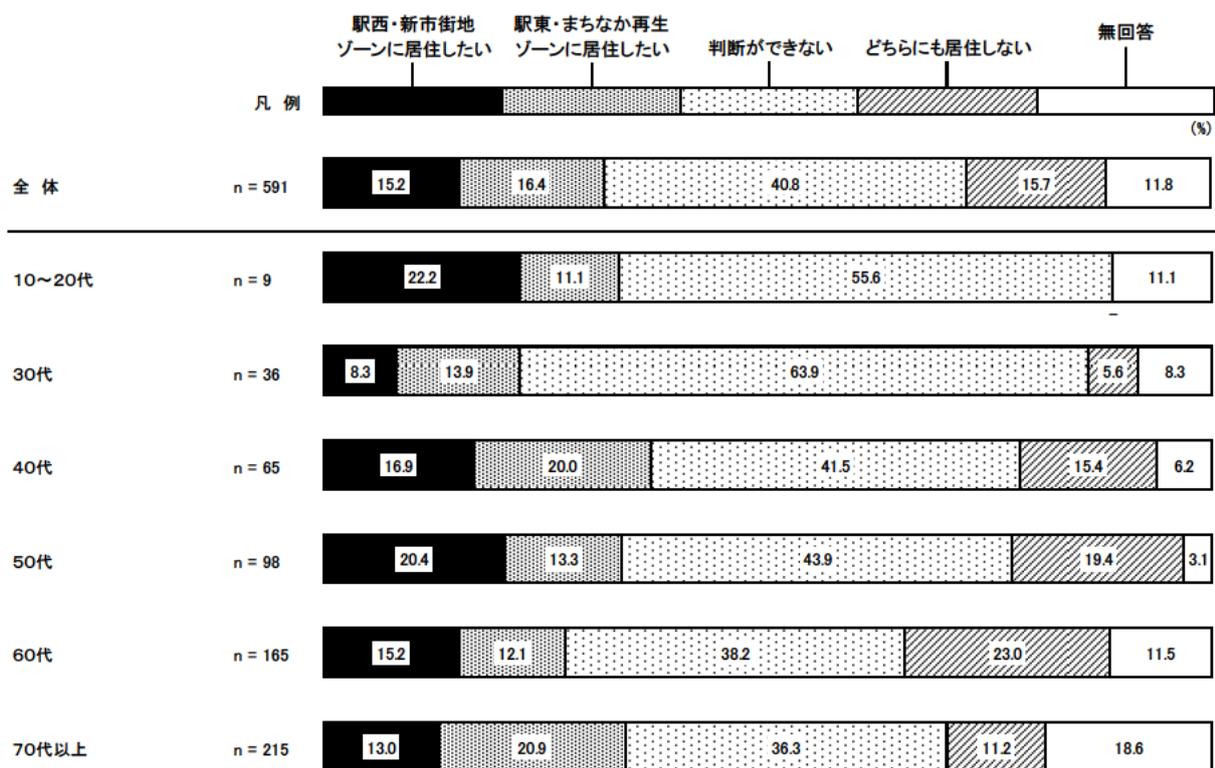
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問10-4 町では、「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」及び「町内復興拠点基本構想」に基づき、JR双葉駅の西側の区域を「新市街地ゾーン」と位置づけ、町が主導して先行的に住宅地や生活関連施設の整備を進めることとしております。また、JR双葉駅の東側の区域については、「まちなか再生ゾーン」と位置づけ、既成市街地の再生を目指すこととしております。「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（○は1つ）
※震災発生当時、駅西地区または駅東地区以外の地区にお住まいの方を含め、皆様、お答えください。

「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居留意向については、「駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」が16.4%、「駅西・新市街地ゾーンに居住したい」が15.2%となっている。「判断ができない」は40.8%、「どちらにも居住しない」は15.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「駅西・新市街地ゾーンに居住したい」は50代で20.4%、「駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」は70代以上で20.9%、40代で20.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-2-7-1 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居留意向（年齢別）＞

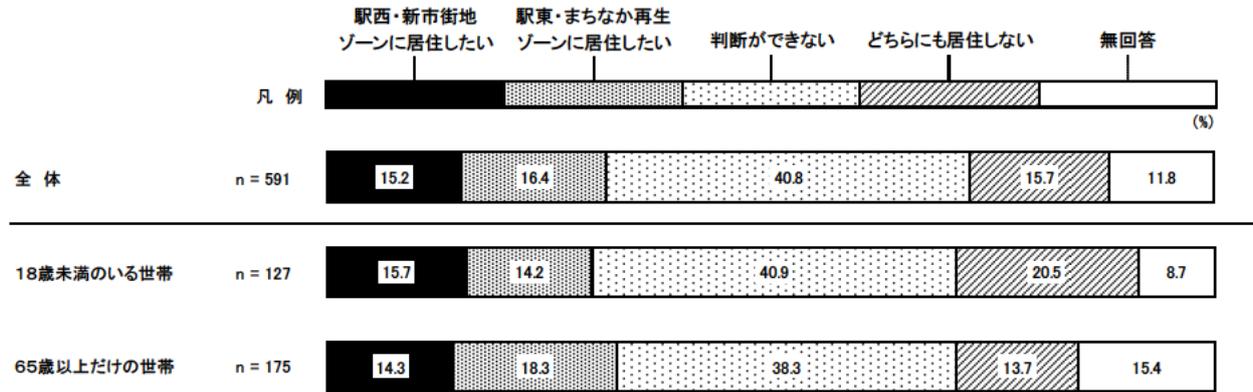


III 調査結果

世帯構成別にみると、「駅西・新市街地ゾーンに居住したい」は、18歳未満のいる世帯で15.7%、65歳以上だけの世帯で14.3%となっている。「駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」は、18歳未満のいる世帯で14.2%、65歳以上だけの世帯で18.3%となっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「駅西・新市街地ゾーンに居住したい」は長塚二で44.8%、「駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」は長塚一で46.9%と、他の行政区と比べ高くなっている。

＜図表3-2-7-2 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向（世帯構成別）＞

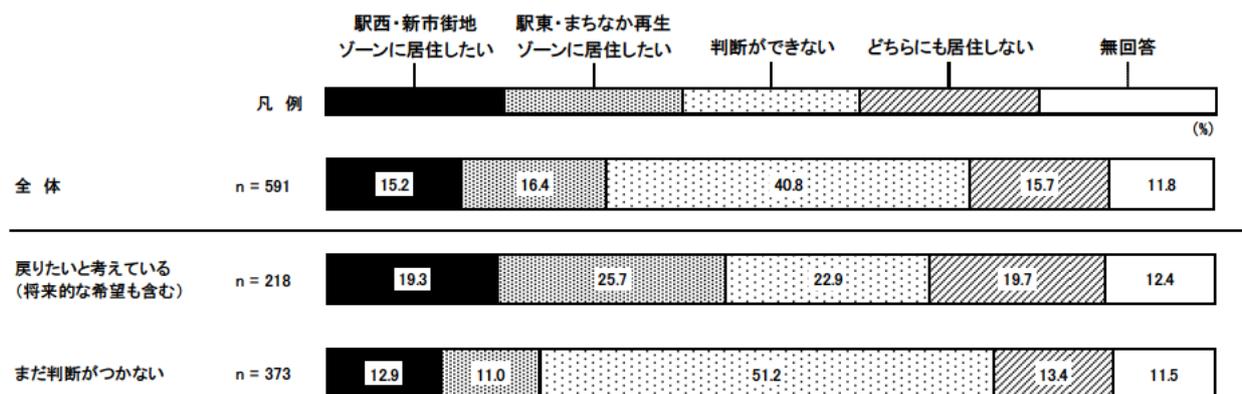


＜図表3-2-7-3 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

	n	駅西・新市街地ゾーンに居住したい (%)	駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい (%)	判断ができない (%)	しどちらにも居住しない (%)	無回答 (%)
全体	591	15.2	16.4	40.8	15.7	11.8
新山	95	6.3	36.8	44.2	4.2	8.4
下条	39	2.6	20.5	59.0	7.7	10.3
郡山	28	7.1	14.3	35.7	21.4	21.4
細谷	5	20.0	-	40.0	40.0	-
三字	78	16.7	2.6	46.2	23.1	11.5
山田	50	8.0	4.0	42.0	30.0	16.0
石熊	8	-	25.0	25.0	25.0	25.0
長塚一	64	14.1	46.9	23.4	4.7	10.9
長塚二	67	44.8	7.5	32.8	6.0	9.0
下長塚	25	8.0	8.0	48.0	28.0	8.0
羽鳥	38	28.9	-	42.1	18.4	10.5
寺松	21	14.3	-	76.2	-	9.5
渋川	10	20.0	-	30.0	20.0	30.0
鴻草	21	9.5	-	23.8	47.6	19.0
中田	12	-	8.3	41.7	33.3	16.7
両竹	11	-	9.1	36.4	45.5	9.1
浜野	14	14.3	35.7	35.7	7.1	7.1
その他	-	-	-	-	-	-

双葉町への帰還意向別にみると、戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）とした回答者は、「駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」が 25.7%、「駅西・新市街地ゾーンに居住したい」が 19.3%となっており、いずれかのゾーンに居住したいとした回答者は 45.0%と半数弱を占める。一方、帰還についてまだ判断ができないとした回答者は、居住意向についても「判断ができない」が 51.2%と半数以上を占める。

<図表3-2-7-4 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向（双葉町への帰還意向別）>



3-2-8 「新市街地ゾーン」に居住する場合の住居形態

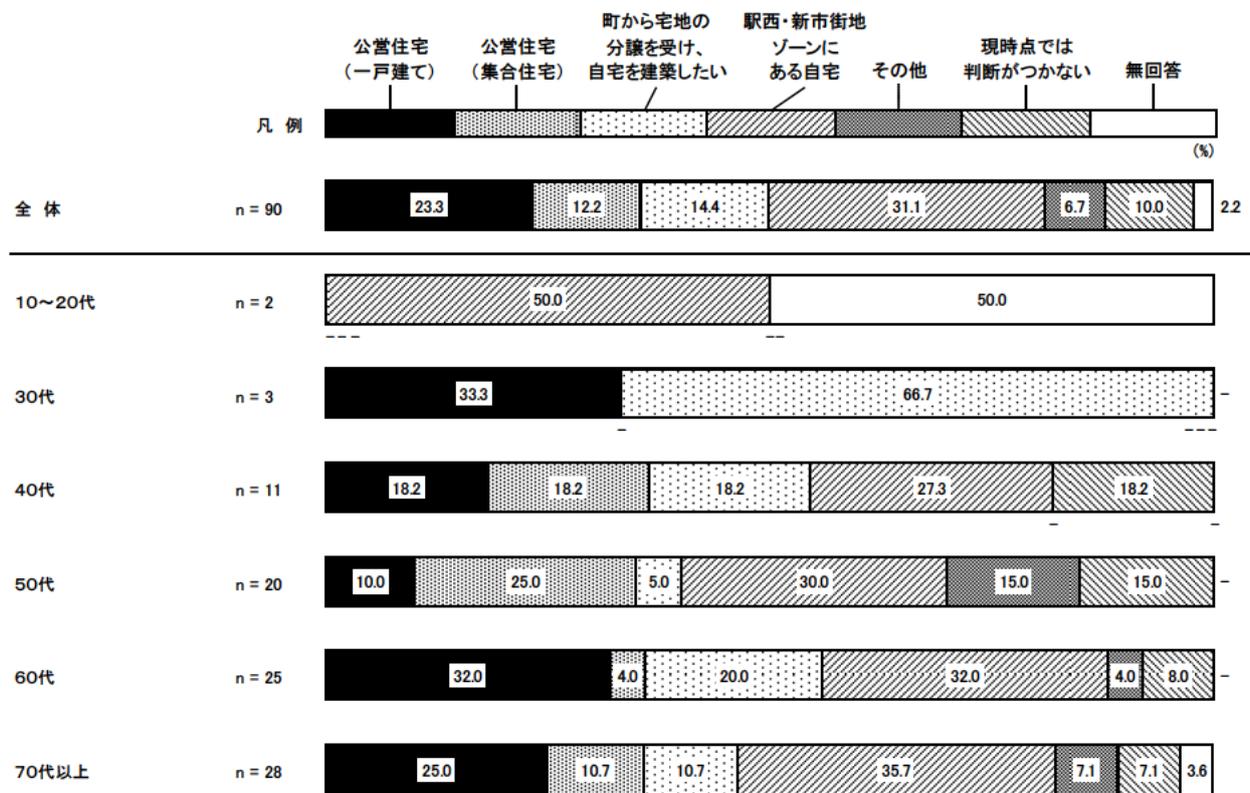
【問 10-4 で「1. 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 町により、JR 双葉駅の西側に住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。
(〇は1つ)

「新市街地ゾーン」に居住する場合の住居形態については、「駅西・新市街地ゾーンにある自宅」が 31.1% と最も高く、次いで「公営住宅（一戸建て）」が 23.3%、「町から宅地の分譲を受け、自宅を建築したい」が 14.4% となっている。

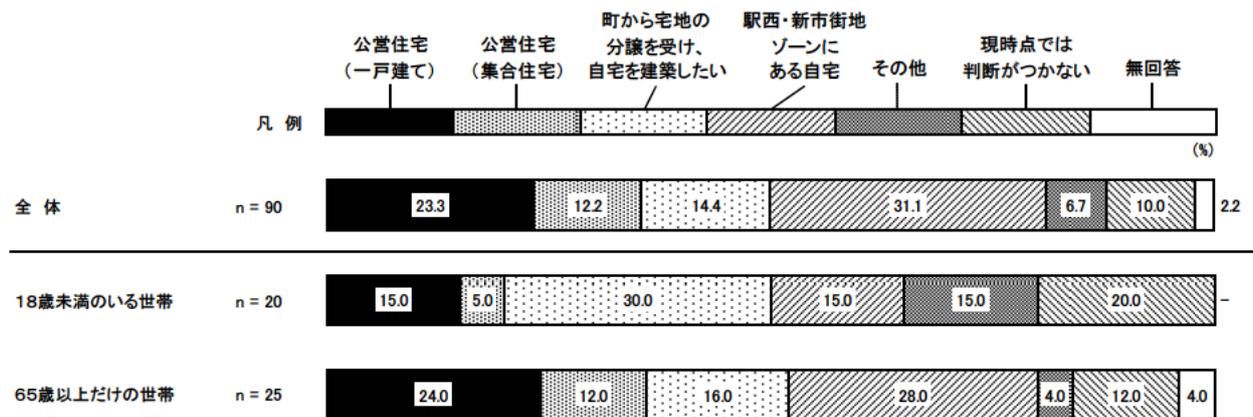
回答者の年齢別にみると、「駅西・新市街地ゾーンにある自宅」は 70 代以上で 35.7%、「公営住宅（一戸建て）」は 60 代で 32.0% となっている。

<図表 3-2-8-1 「新市街地ゾーン」に居住する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「町から宅地の分譲を受け、自宅を建築したい」が30.0%と最も高く、65歳以上だけの世帯では「駅西・新市街地ゾーンにある自宅」が28.0%と最も高くなっている。

<図表3-2-8-2 「新市街地ゾーン」に居住する場合の住居形態（世帯構成別）>



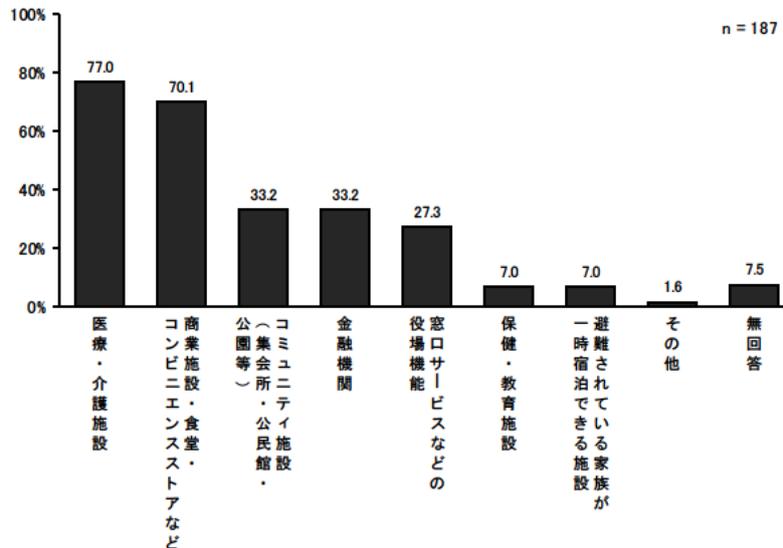
3-2-9 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設

【問 10-4 で「1 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」「2. 駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」と回答した方にうかがいます。】
 問 10-6-1 「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」に、特に必要と考える、生活関連施設を教えてください。(〇は3つまで)

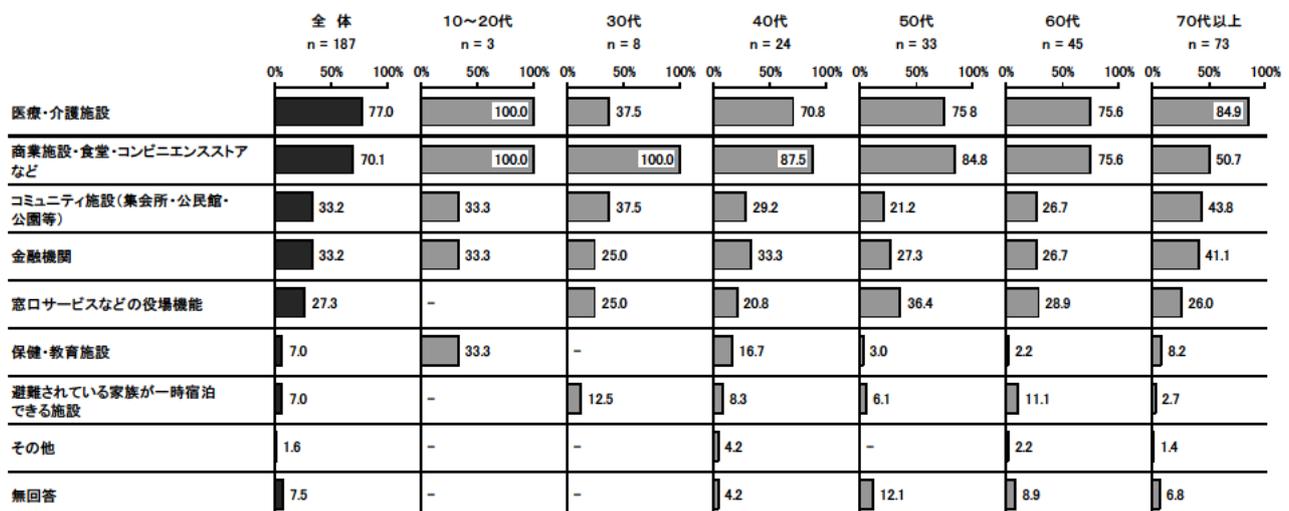
「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設については、「医療・介護施設」が77.0%と最も高く、次いで「商業施設・食堂・コンビニエンスストアなど」が70.1%、「コミュニティ施設（集会所・公民館・公園等）」「金融機関」がともに33.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、40～60代では、「医療・介護施設」「商業施設・食堂・コンビニエンスストアなど」が7～8割と高く、70代以上では、「医療・介護施設」が84.9%と高くなっている。

<図表3-2-9-1 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設>



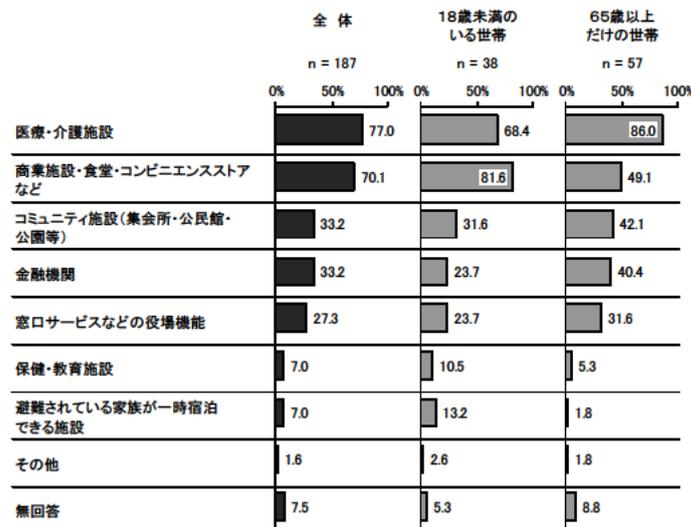
<図表3-2-9-2 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設（年齢別）>



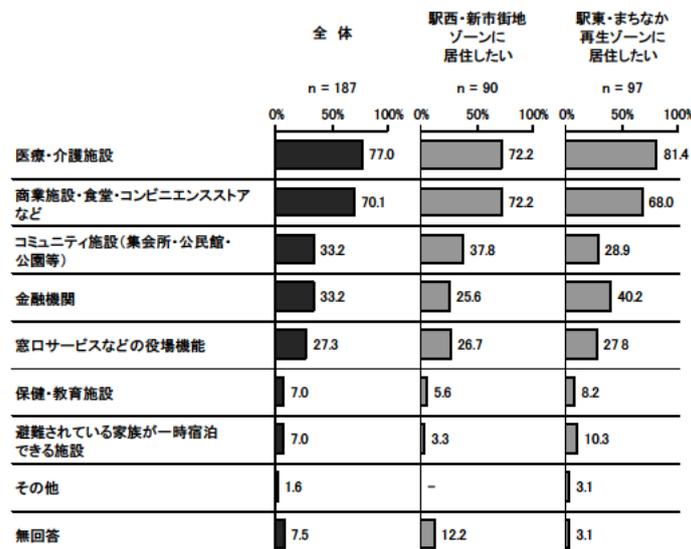
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「商業施設・食堂・コンビニエンスストアなど」が81.6%、65歳以上の世帯では「医療・介護施設」が86.0%と最も高くなっている。

「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別にみると、駅西・新市街地ゾーンに居住したいとした回答者は「医療・介護施設」、「商業施設・食堂・コンビニエンスストアなど」がともに72.2%、駅東・まちなか再生ゾーンに居住したいとした回答者は「医療・介護施設」が81.4%と最も高くなっている。

＜図表3-2-9-3 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設（世帯構成別）＞



＜図表3-2-9-4 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連施設（「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別）＞



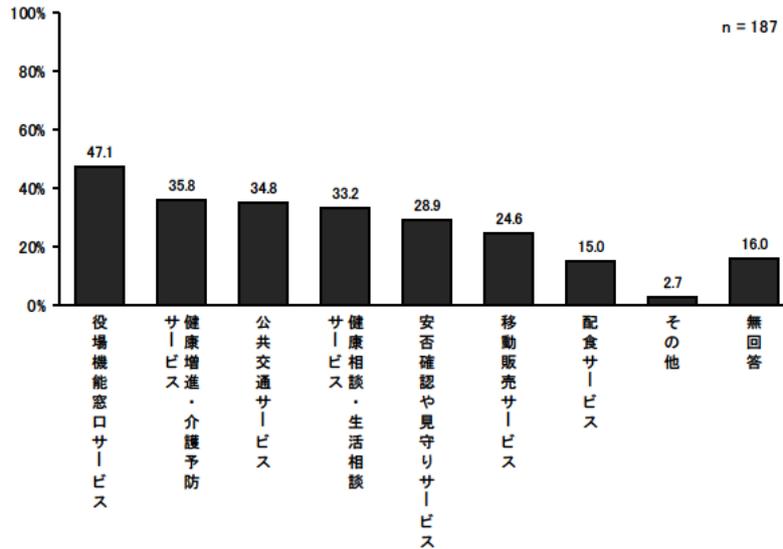
3-2-10 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービス

【問 10-4 で「1 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」「2. 駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」と回答した方にうかがいます。】
 問 10-6-2 「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」に、特に必要と考える、生活関連サービスを教えてください。(〇は3つまで)

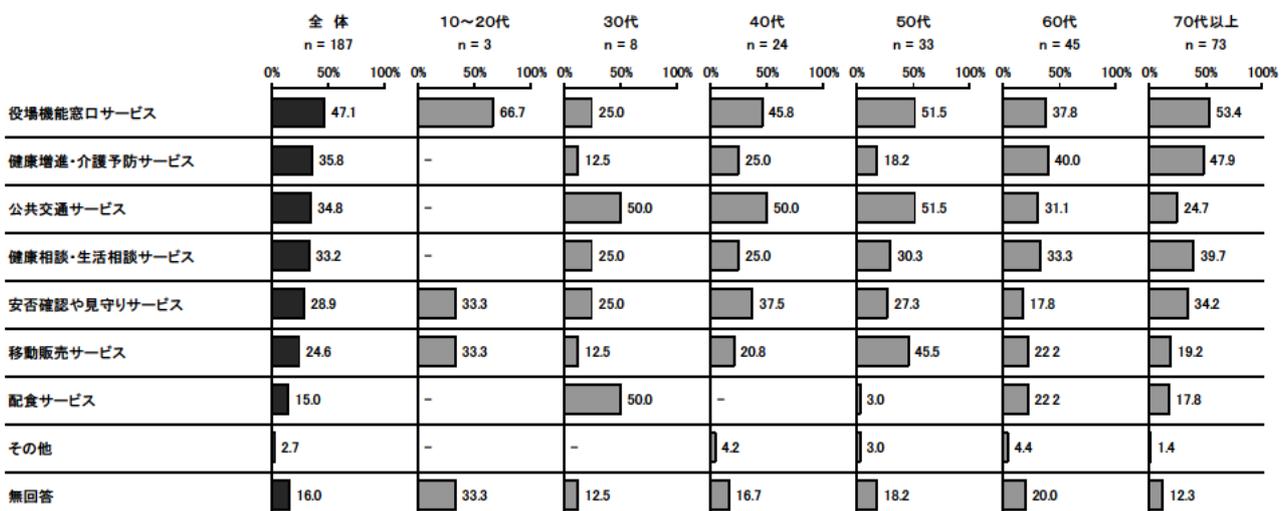
「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービスについては、「役場機能窓口サービス」が47.1%と最も高く、次いで「健康増進・介護予防サービス」が35.8%、「公共交通サービス」が34.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「役場機能窓口サービス」は70代以上で53.4%、50代で51.5%、「健康増進・介護予防サービス」は70代以上で47.9%、60代で40.0%、「公共交通サービス」は50代で51.5%、40代で50.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-10-1 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービス>



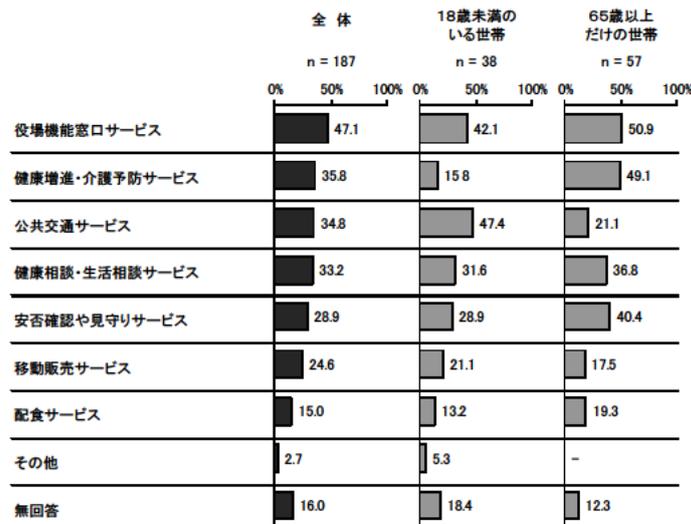
<図表3-2-10-2 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービス（年齢別）>



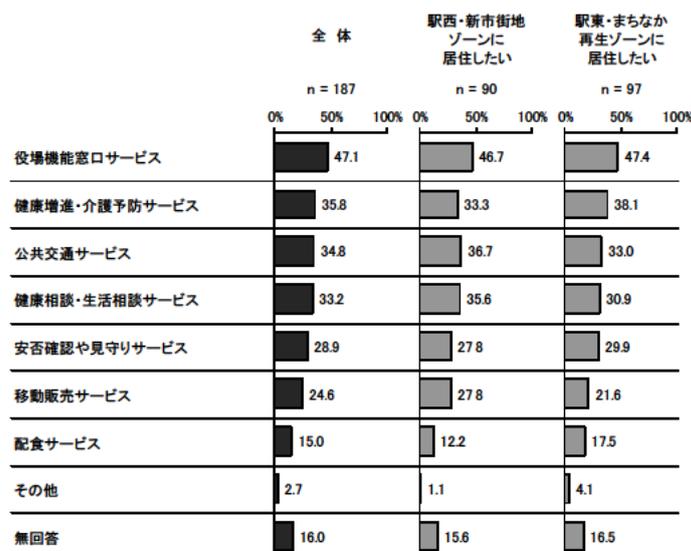
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「公共交通サービス」が47.4%、「役場機能窓口サービス」が42.1%と高く、65歳以上の世帯では、「役場機能窓口サービス」が50.9%、「健康増進・介護予防サービス」が49.1%と高くなっている。

「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別にみると、駅西・新市街地ゾーンに居住したいとした回答者は「役場機能窓口サービス」が46.7%、「公共交通サービス」が36.7%と高く、駅東・まちなか再生ゾーンに居住したいとした回答者は、「役場機能窓口サービス」が47.4%、「健康増進・介護予防サービス」が38.1%となっている。

＜図表3-2-10-3 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービス（世帯構成別）＞



＜図表3-2-10-4 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に必要な生活関連サービス（「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別）＞



3-2-11 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由

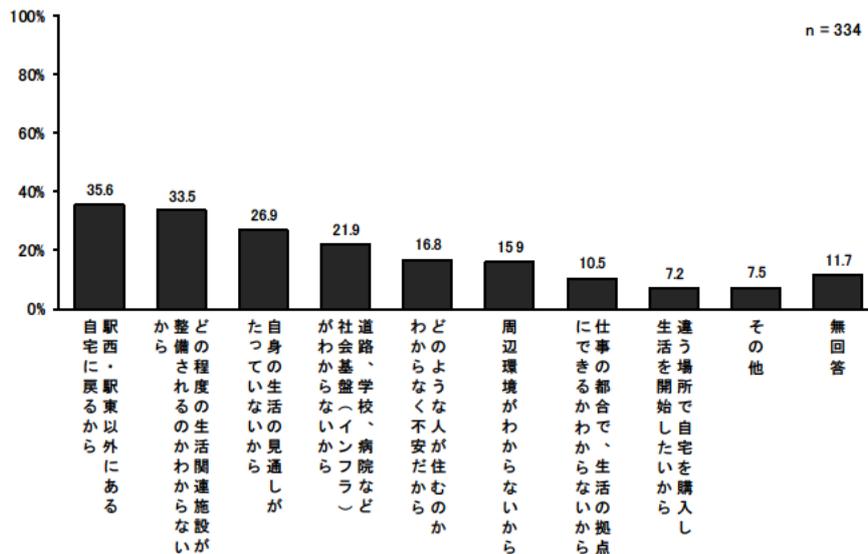
【問 10-4 で「3. 判断ができない」「4. どちらにも居住しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-7 「駅西・新市街地ゾーン」または「駅東・まちなか再生ゾーン」への居住について、現時点で判断ができない、居住しない理由はどのようなことからですか。(〇はいくつでも)

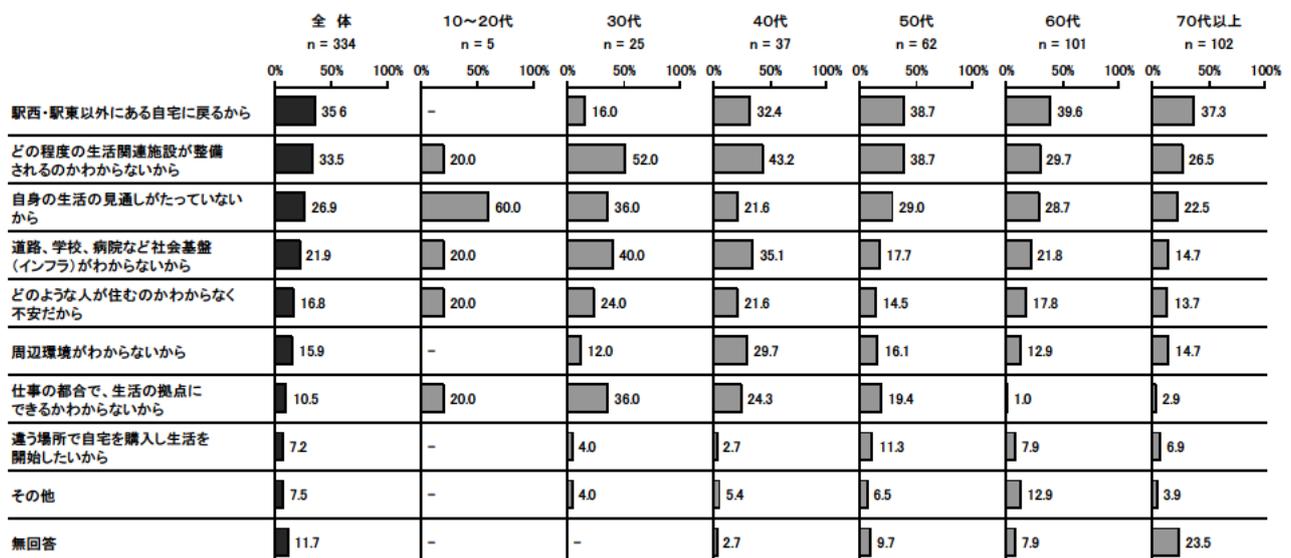
「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由については、「駅西・駅東以外にある自宅に戻るから」が 35.6%と最も高く、次いで「どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから」が 33.5%、「自身の生活の見通しがたっていないから」が 26.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから」は 30 代で 52.0%、40 代で 43.2%、50 代で 38.7%、「道路、学校、病院などの社会基盤（インフラ）がわからないから」は 30 代で 40.0%、40 代で 35.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-11-1 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由>



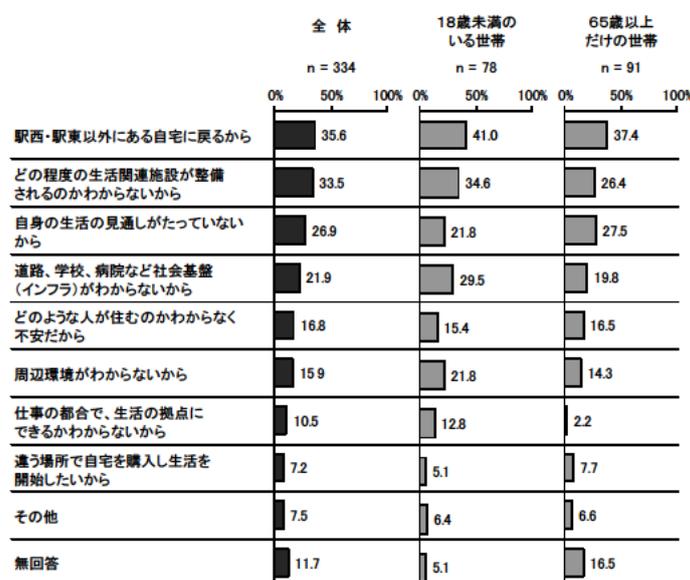
<図表3-2-11-2 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由（年齢別）>



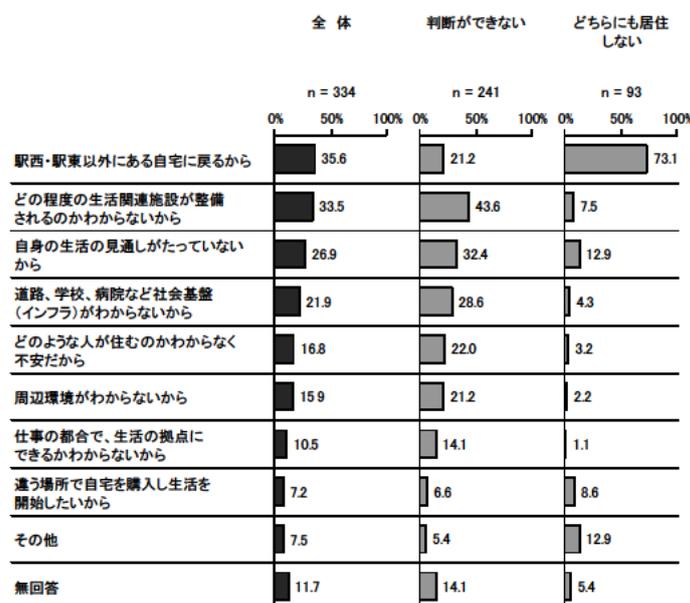
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「駅西・駅東以外にある自宅に戻るから」(41.0%)、「どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから」(34.6%)、「道路、学校、病院など社会基盤(インフラ)がわからないから」(29.5%)、65歳以上だけの世帯では「駅西・駅東以外にある自宅に戻るから」(37.4%)、「自身の生活の見通しがたっていないから」(27.5%)、「どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから」(26.4%)が高くなっている。

「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別にみると、判断ができないとした回答者は「どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから」(43.6%)、「自身の生活の見通しがたっていないから」(32.4%)、「道路、学校、病院など社会基盤(インフラ)がわからないから」(28.6%)が高く、どちらにも居住しないとした回答者は、「駅西・駅東以外にある自宅に戻るから」(73.1%)が高くなっている。

<図表3-2-11-3 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由(世帯構成別)>



<図表3-2-11-4 「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」に居住しない理由(「新市街地ゾーン」「まちなか再生ゾーン」への居住意向別)>



3-2-12 双葉町との“つながり”を保ちたいか

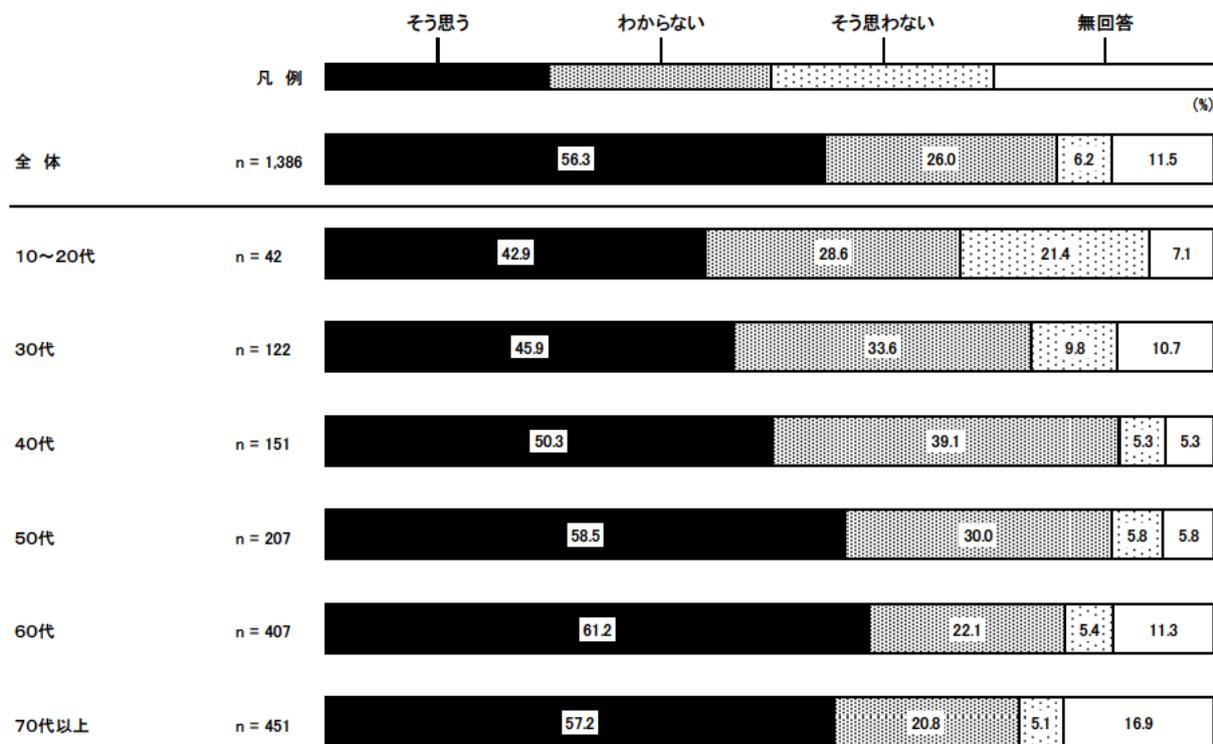
【問9で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

双葉町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が56.3%と最も高く、次いで「わからない」が26.0%、「そう思わない」が6.2%となっている。

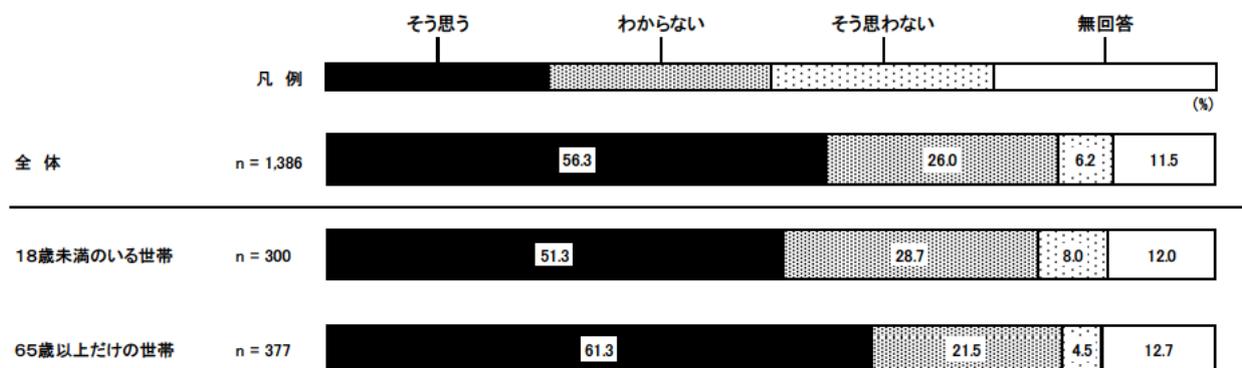
回答者の年齢別にみると、「そう思う」は概ね年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、60代で61.2%と最も高くなっている。一方、「そう思わない」は10~20代で21.4%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-12-1 双葉町との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>

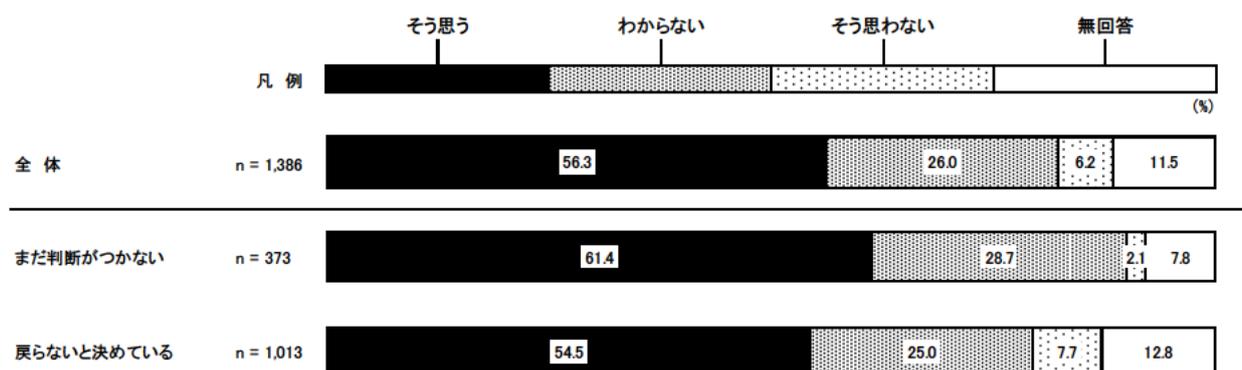


世帯構成別にみると、「そう思う」はいずれの世帯構成でも半数以上を占める。
 双葉町への帰還意向別にみると、「そう思う」はいずれの帰還意向でも半数以上を占める。

<図表3-2-12-2 双葉町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



<図表3-2-12-3 双葉町との“つながり”を保ちたいか（双葉町への帰還意向別）>



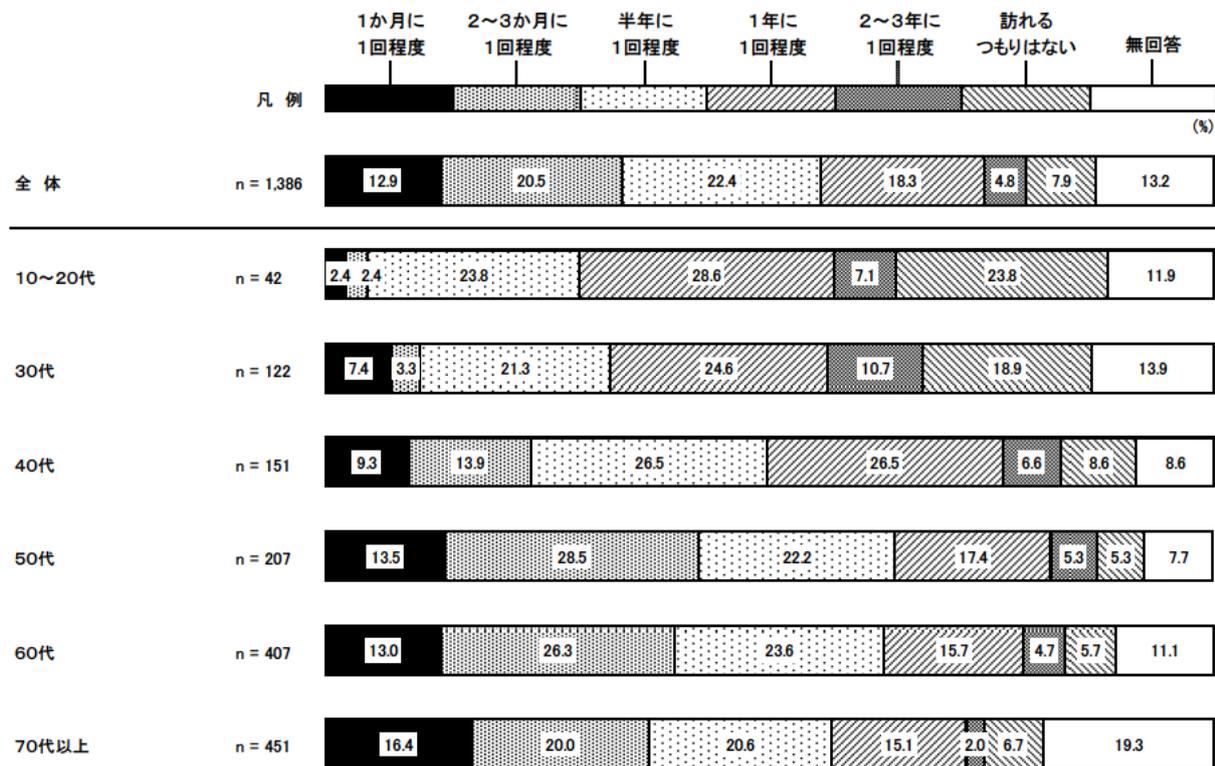
3-2-13 双葉町を訪れたい頻度

【問9で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 11-2 双葉町をどのくらいの頻度で訪れたいと思いますか。(〇は1つ)

双葉町を訪れたい頻度については、「半年に1回程度」が22.4%と最も多く、次いで「2～3か月に1回程度」が20.5%、「1年に1回程度」が18.3%、「1ヶ月に1回程度」が12.9%で、1年に1回以上訪れたいとする回答は74.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～20代では「1年に1回程度」が28.6%、30代では「1年に1回程度」が24.6%と最も高くなっている。40代では「半年に1回程度」「1年に1回程度」がともに26.5%と最も高くなっている。50代では「2～3か月に1回程度」が28.5%、60代では「2～3か月に1回程度」が26.3%、70代以上では「半年に1回程度」が20.6%と最も高くなっている。

＜図表3-2-13-1 双葉町を訪れたい頻度（年齢別）＞



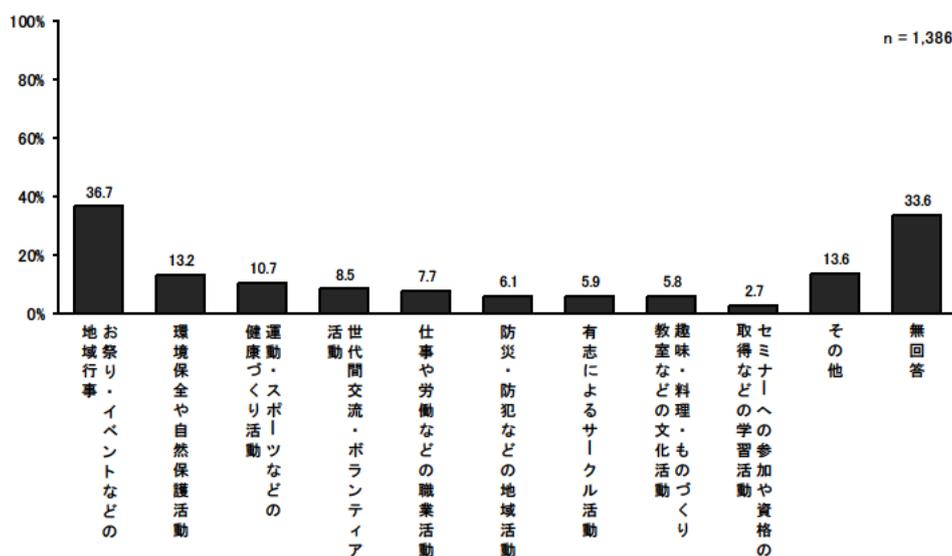
3-2-14 双葉町を訪れてみたいと思う取り組み・行事・イベント

【問9で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問11-3 どのような取り組みや行事、イベントなどがあれば、双葉町を訪れたいと思いますか。(〇はいくつでも)

双葉町を訪れてみたいと思う取り組み・行事・イベントについては、「お祭り・イベントなどの地域行事」が36.7%と最も多く、次いで「環境保全や自然保護活動」が13.2%、「運動・スポーツなどの健康づくり活動」が10.7%となっている。

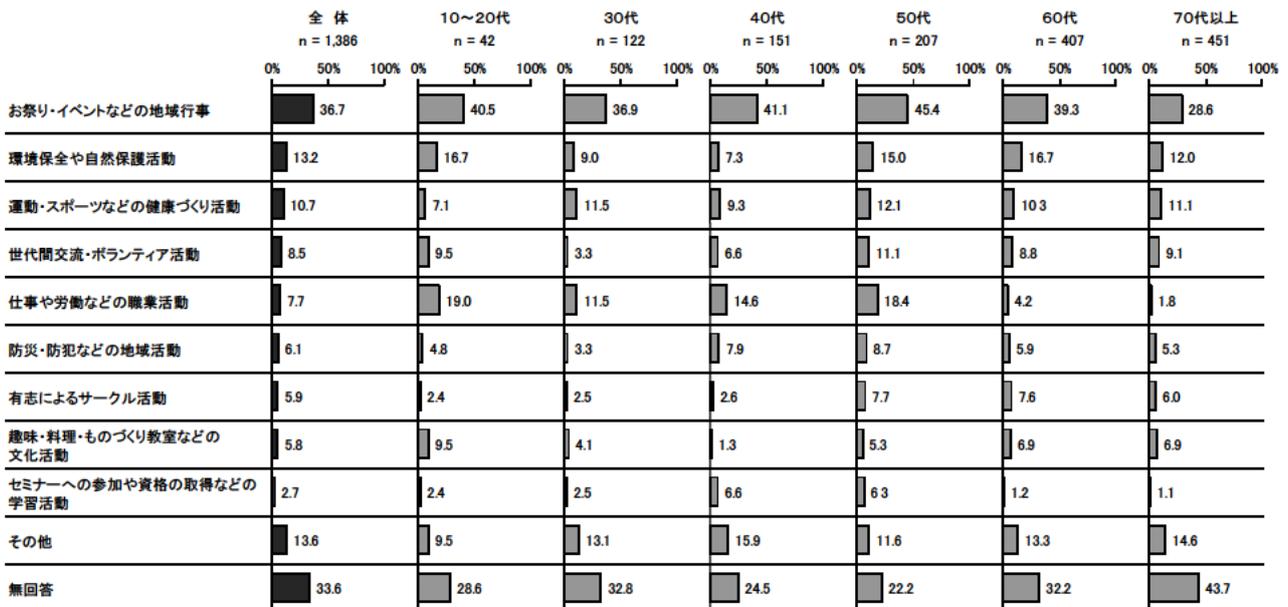
<図表3-2-14-1 双葉町を訪れてみたいと思う取り組み・行事・イベント>



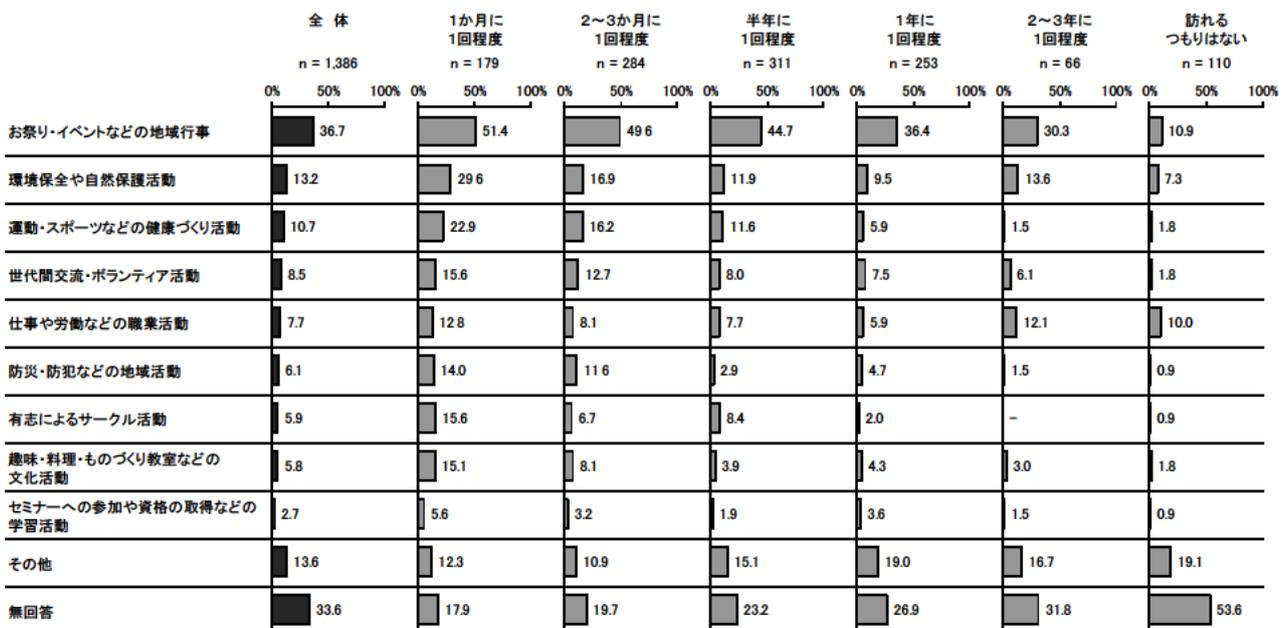
回答者の年齢別にみると、「お祭り・イベントなどの地域行事」は、いずれの年齢でも最も高くなっている。

双葉町を訪れたい頻度別にみると、「お祭り・イベントなどの地域行事」は、訪れたい頻度が高い回答者ほど割合が高く、1か月に1回程度が51.4%と最も高くなっている。また、訪れるつもりはないとした回答者でも10.9%となっており、お祭り・イベントなどの地域行事があれば訪れたいとする回答者が1割程度いる。

＜図表3-2-14-2 双葉町を訪れたいと思う取り組み・行事・イベント（年齢別）＞



＜図表3-2-14-3 双葉町を訪れたいと思う取り組み・行事・イベント（双葉町を訪れたい頻度別）＞



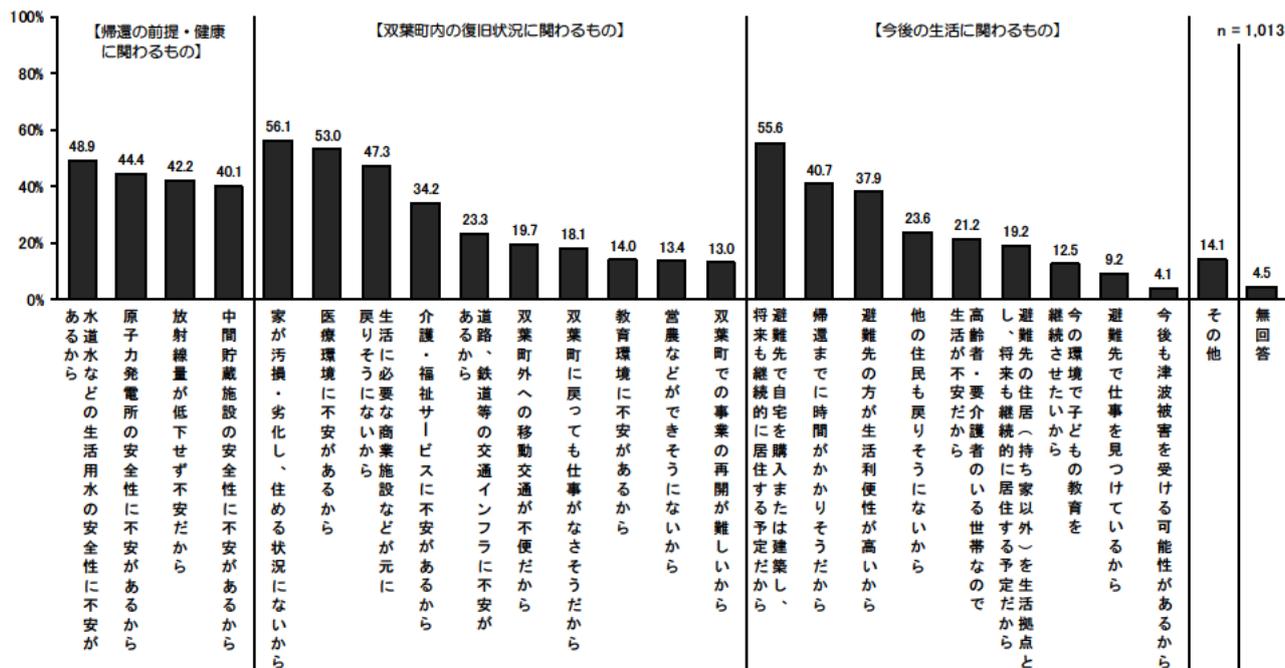
3-2-15 現時点で戻らないと決めている理由

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方うかがいます。】

問 12-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が48.9%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性に不安があるから」が44.4%、「放射線量が低下せず不安だから」が42.2%となっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況にないから」が56.1%と最も高く、次いで「医療環境に不安があるから」が53.0%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が47.3%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから」が55.6%と最も高く、次いで「帰還までに時間がかかりそうだから」が40.7%、「避難先の方が生活利便性が高いから」が37.9%となっている。

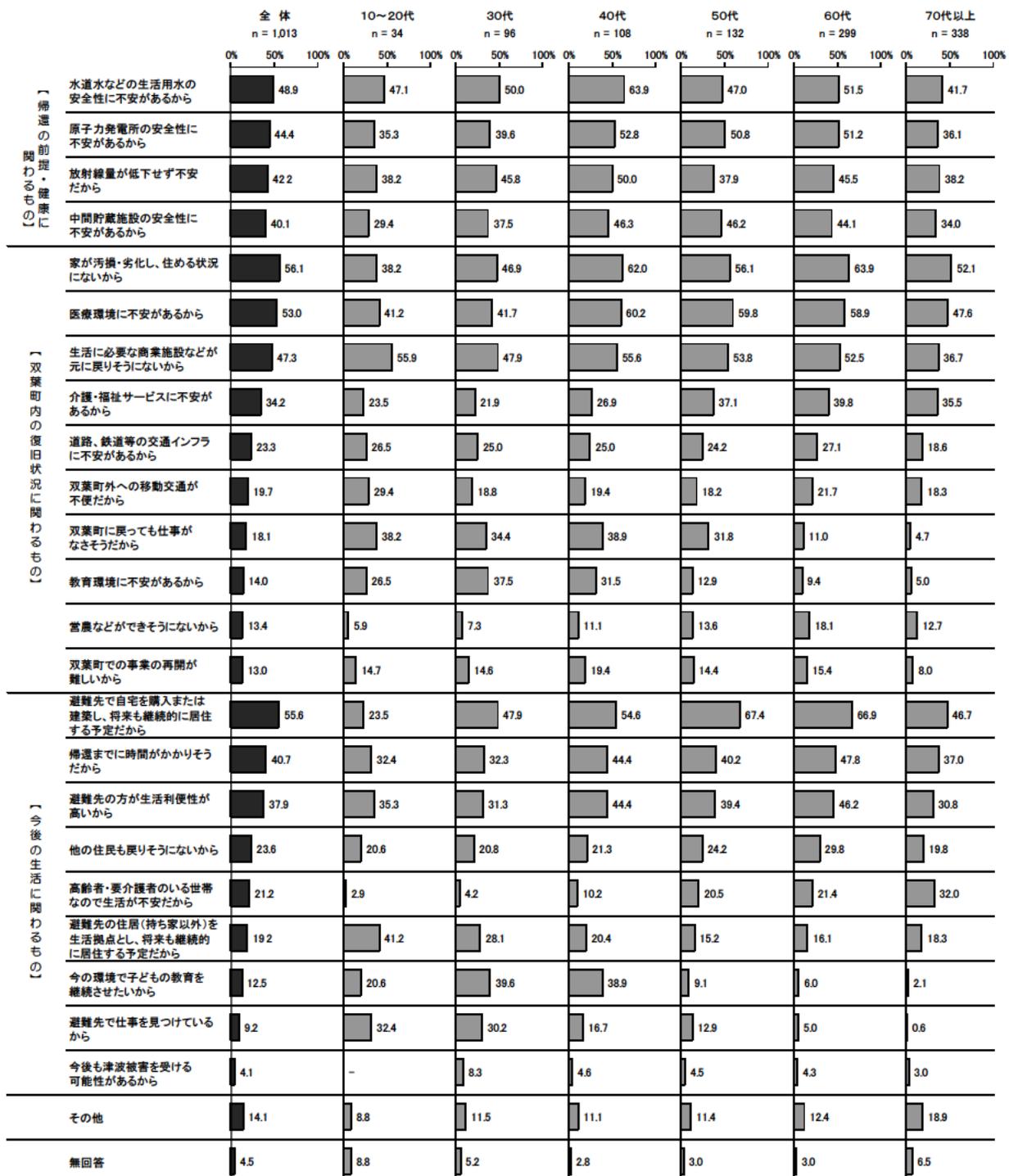
<図表3-2-15-1 現時点で戻らないと決めている理由>



III 調査結果

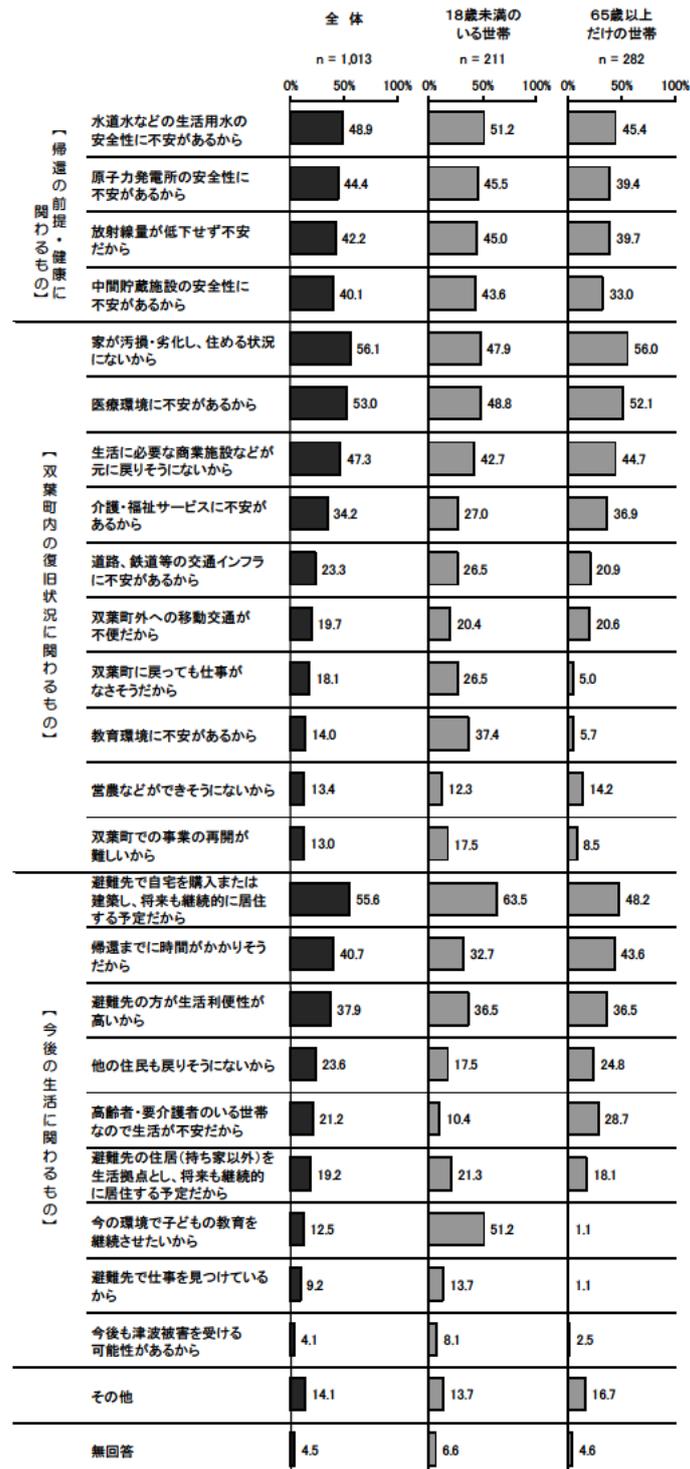
回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」は40代でいずれも半数以上となっており、他の年齢と比べ高くなっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況にないから」は40代（62.0%）、60代（63.9%）、「医療環境に不安があるから」は40代（60.2%）、50代（59.8%）、60代（58.9%）が、他の年齢と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから」は50代（67.4%）、60代（66.9%）、「帰還までに時間がかかりそうだから」は40代（44.4%）、60代（47.8%）が、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-15-2 現時点度戻らないと決めている理由（年齢別）>



世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯では、いずれの理由も4割を超えている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯では、「双葉町に戻っても仕事がなさそうだから」が26.5%、「教育環境に不安があるから」が37.4%となっており、65歳以上の世帯と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯では「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が51.2%となっており、65歳以上の世帯と比べ高くなっている。

<図表3-2-15-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



3-2-16 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

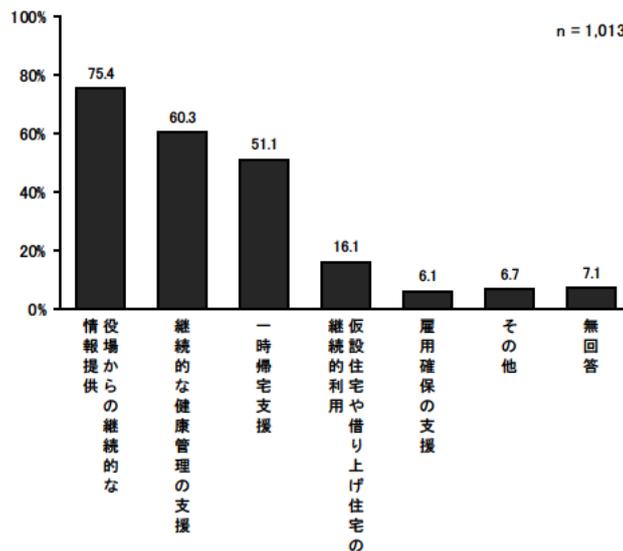
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問 12-2 帰還しない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

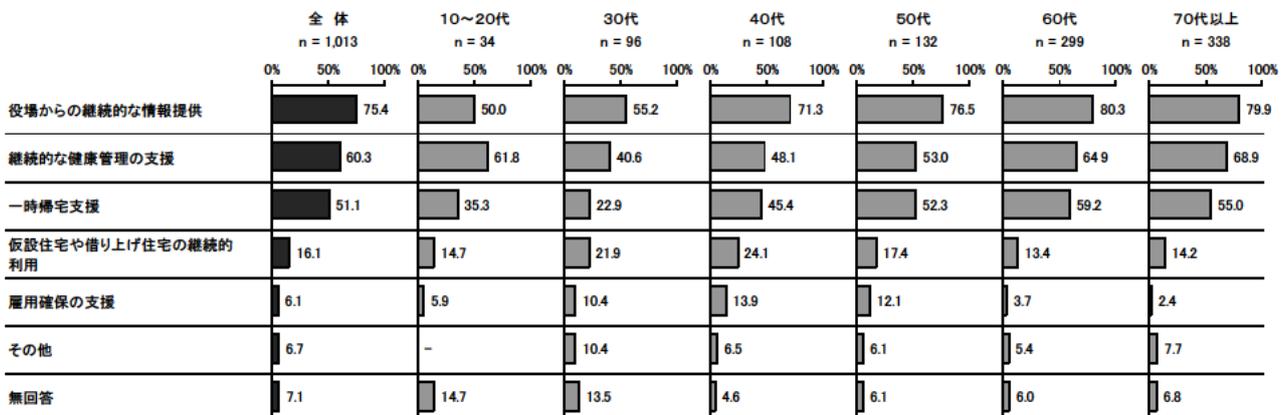
帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「役所からの継続的な情報提供」が75.4%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が60.3%、「一時帰宅支援」が51.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「役場からの継続的な情報提供」は40代(71.3%)、50代(76.5%)、60代(80.3%)、70代以上(79.9%)、「継続的な健康管理の支援」は10~20代(61.8%)、60代(64.9%)、70代以上(68.9%)、「一時帰宅支援」は40代(45.4%)、50代(52.3%)、60代(59.2%)、70代以上(55.0%)が、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-16-1 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>

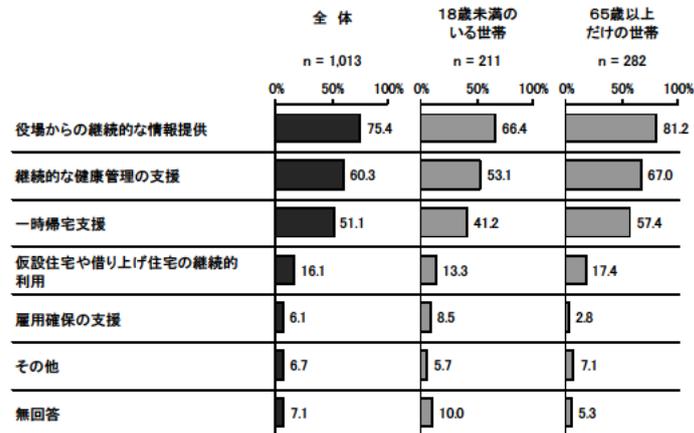


<図表3-2-16-2 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では、「役場からの継続的な情報提供」が81.2%、「継続的な健康管理の支援」が67.0%、「一時帰宅支援」が57.4%がとなっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

<図表3-2-16-3 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



3-2-17 帰還しない場合に居住を希望する自治体

(1) 帰還しない場合に居住を希望する自治体

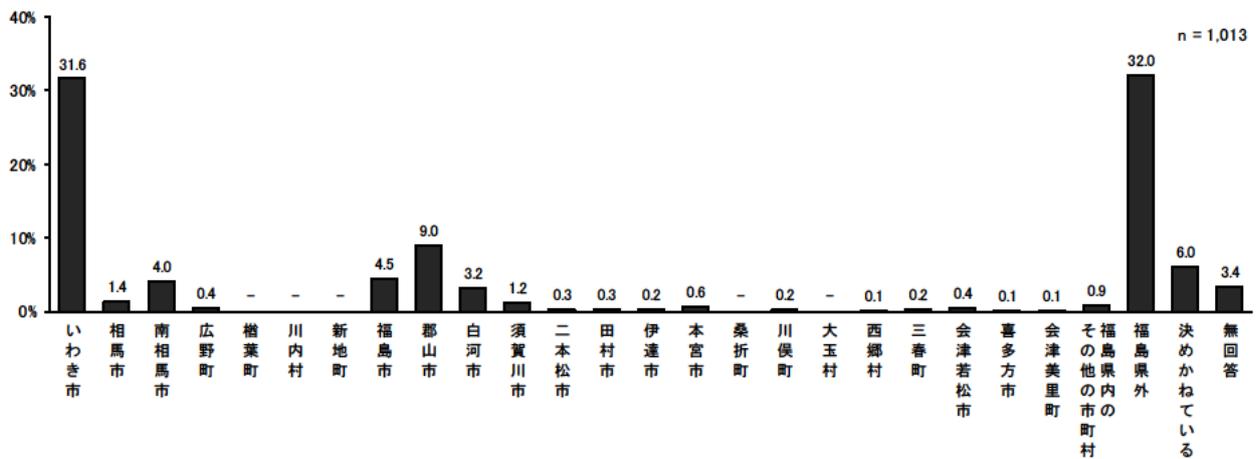
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問12-3 帰還しない場合に、今後、居住を希望する（既に居住している場合を含む）自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（〇は1つ）

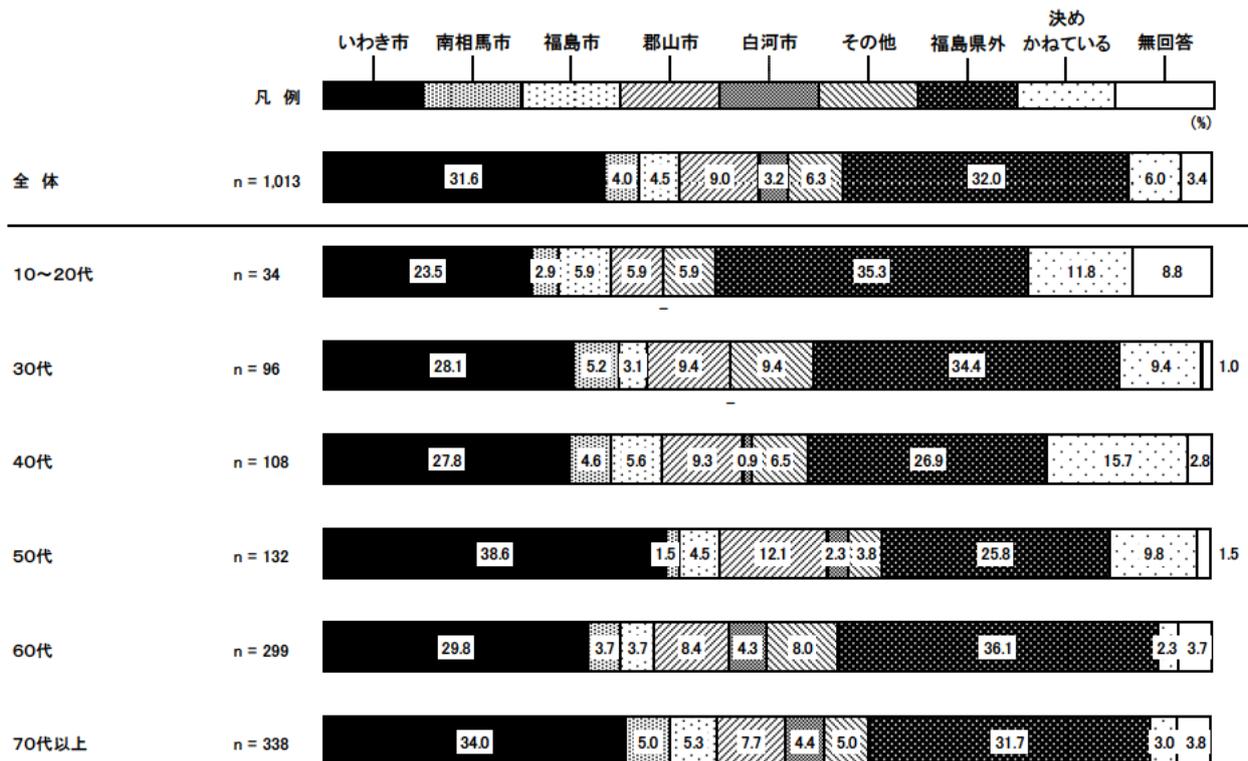
帰還しない場合に居住を希望する自治体については、「福島県外」が32.0%と最も高く、次いで「いわき市」が31.6%、「郡山市」が9.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「福島県外」は10~20代(35.3%)、30代(34.4%)、60代以上(36.1%)、「いわき市」は50代(38.6%)、70代以上(34.0%)で、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-17-1 帰還しない場合に居住を希望する自治体>



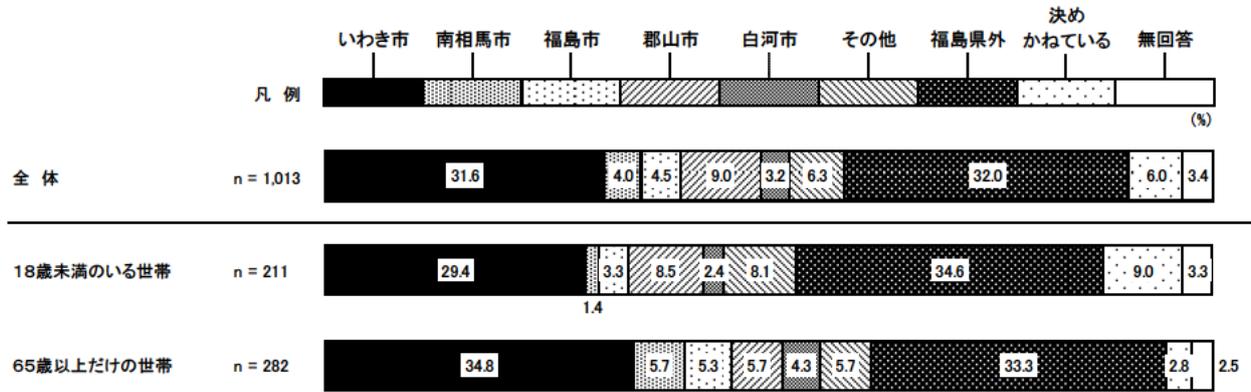
<図表3-2-17-2 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（年齢別）>



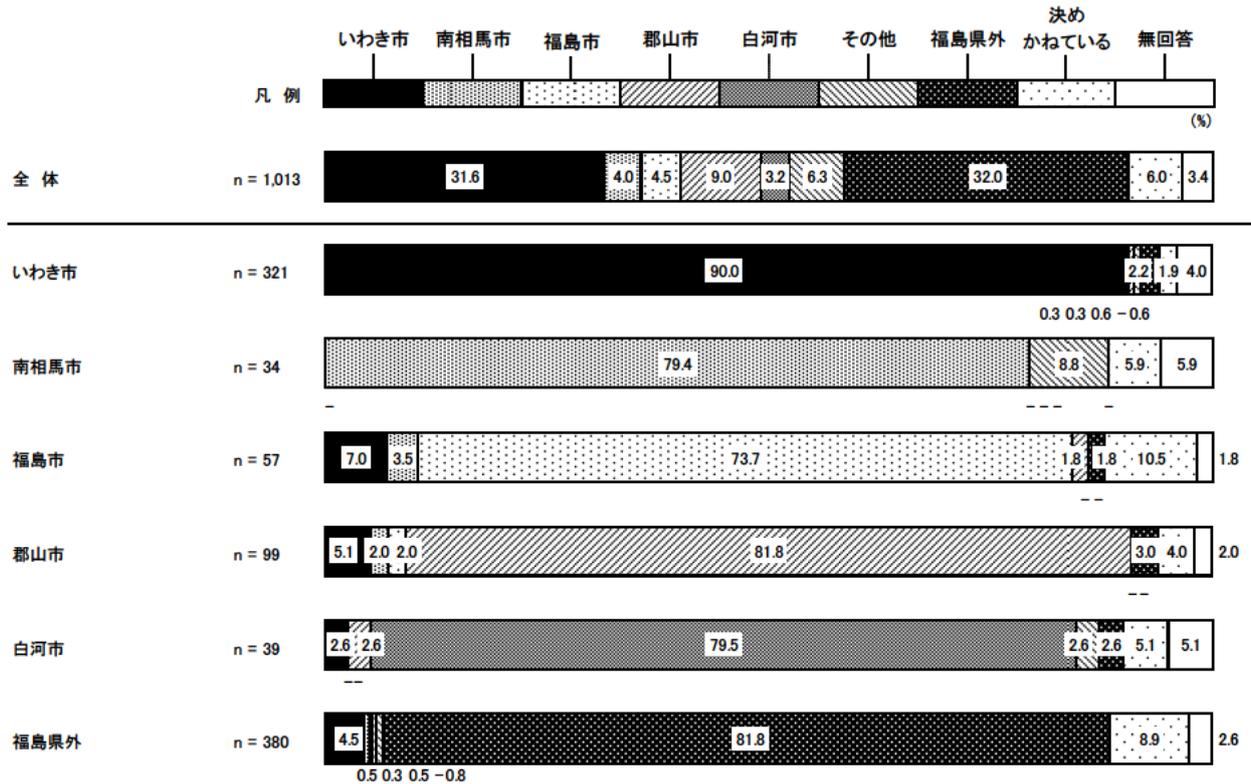
世帯構成別にみると、「いわき市」が、65歳以上だけの世帯で34.8%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、全ての自治体で同じ自治体での居住を希望する割合が高くなっている。

<図表3-2-17-3 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（世帯構成別）>



<図表3-2-17-4 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）>



(2) 帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名

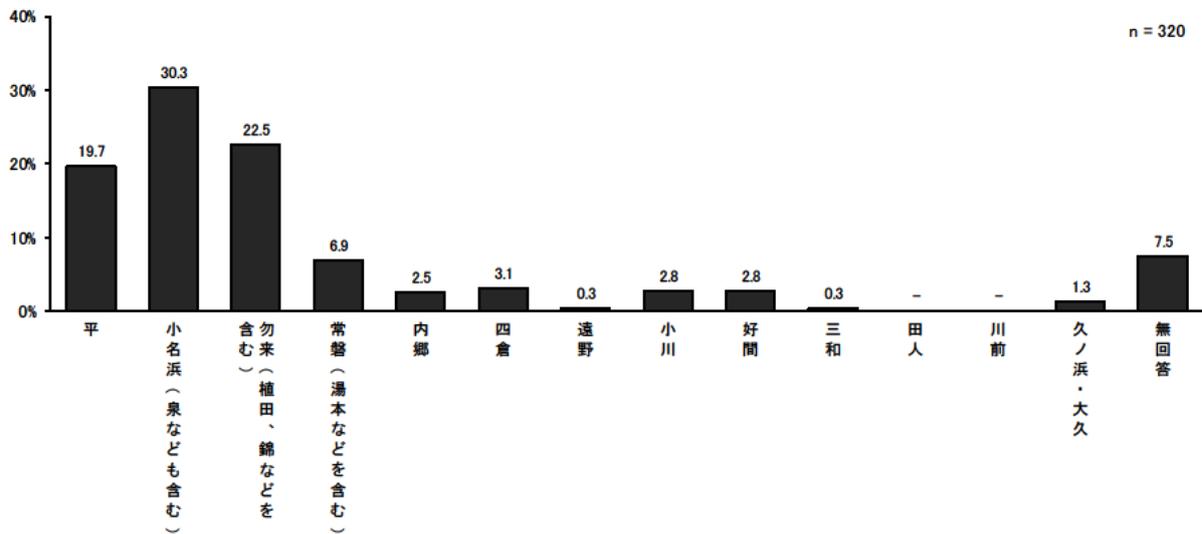
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問12-3 帰還しない場合に、今後、居住を希望する（既に居住している場合を含む）自治体はどちらですか。

※ いわき市については地区名を教えてください。（〇は1つ）

帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名については、「小名浜（泉なども含む）」が30.3%と最も高く、次いで「勿来（植田、錦などを含む）」が22.5%、「平」が19.7%となっている。

<図表3-2-17-5 帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名>



<図表3-2-17-6 帰還しない場合に居住を希望する主ないわき市の地区名（主な避難先自治体別）>

	n	平	小名浜 (泉なども含む)	勿来 (植田、錦などを含む)	常磐 (湯本などを含む)	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	久ノ浜・大久	無回答
全体	320	19.7	30.3	22.5	6.9	2.5	3.1	0.3	2.8	2.8	0.3	1.3	7.5
いわき市	289	19.4	31.5	21.8	6.9	2.4	2.8	0.3	2.4	2.8	0.3	1.0	8.3
南相馬市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島市	4	25.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-
郡山市	5	40.0	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-
白河市	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県外	17	11.8	23.5	35.3	11.8	-	5.9	-	5.9	5.9	-	-	-

3-2-18 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

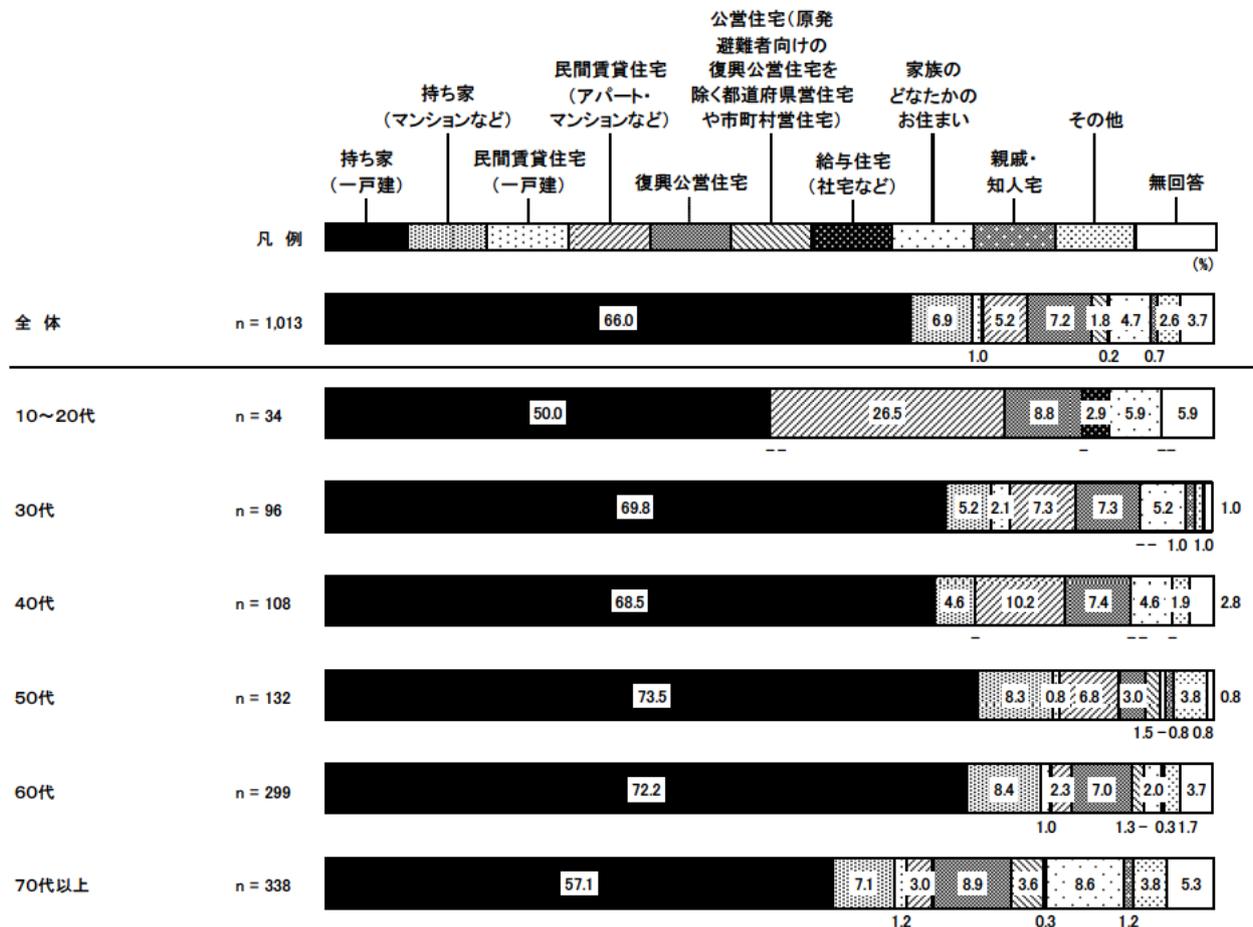
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問 12-4 帰還しない場合に、今後のお住まいとして希望する（既に居住している場合を含む）住宅は、どのような形態ですか。（〇は1つ）

帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が66.0%と最も高く、「持ち家（マンションなど）」（6.9%）を合わせた<持ち家>は72.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、30～60代では7割前後を占める。一方、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」は、10～20代では26.5%と、他の年齢と比べ高くなっている。

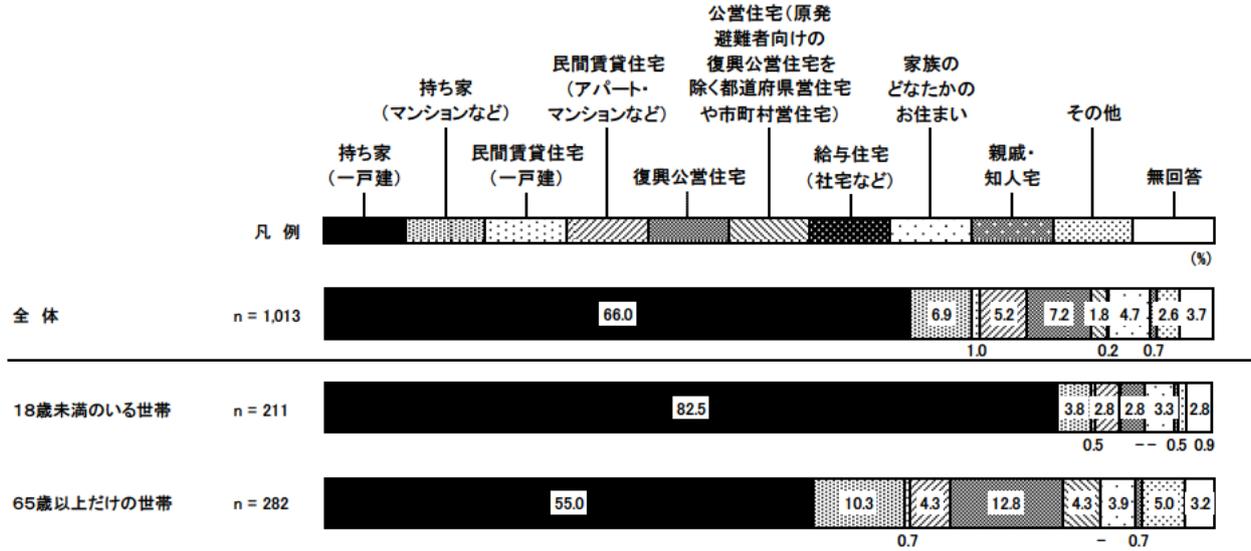
<図表3-2-18-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、「持ち家（一戸建）」は18歳未満のいる世帯が82.5%となっており、65歳以上だけの世帯（55.0%）と比べ高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、全ての行政区で「持ち家（一戸建）」の割合が最も高くなっている。

＜図表3-2-18-2 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-2-18-3 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

	n	持ち家(一戸建)	持ち家(マンションなど)	民間賃貸住宅(一戸建)	民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)	復興公営住宅	市町村営住宅	公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く都道府県営住宅や市町村営住宅)	給与住宅(社宅など)	家族のどなたかのお住まい	親戚・知人宅	その他	無回答
全体	1,013	66.0	6.9	1.0	5.2	7.2	1.8	0.2	4.7	0.7	2.6	3.7	
新山	135	61.5	9.6	1.5	7.4	7.4	-	-	4.4	0.7	2.2	5.2	
下条	80	77.5	11.3	-	-	7.5	-	-	2.5	-	-	1.3	
郡山	65	75.4	-	-	3.1	6.2	-	1.5	4.6	3.1	1.5	4.6	
細谷	24	62.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	-	8.3	-	4.2	4.2	
三字	120	57.5	5.8	1.7	11.7	10.0	2.5	-	4.2	-	4.2	2.5	
山田	67	65.7	4.5	1.5	4.5	10.4	1.5	-	4.5	-	1.5	6.0	
石熊	20	85.0	-	-	-	5.0	5.0	-	5.0	-	-	-	
長塚一	159	60.4	6.3	2.5	4.4	8.8	3.8	-	6.9	1.3	2.5	3.1	
長塚二	116	59.5	12.9	-	7.8	6.9	0.9	-	3.4	-	4.3	4.3	
下長塚	31	71.0	6.5	-	12.9	-	-	-	-	3.2	3.2	3.2	
羽鳥	47	76.6	12.8	-	-	6.4	-	-	4.3	-	-	-	
寺松	25	60.0	8.0	-	4.0	4.0	8.0	-	4.0	-	12.0	-	
渋川	15	80.0	-	-	-	-	-	6.7	6.7	-	-	6.7	
鴻草	46	69.6	4.3	-	-	6.5	4.3	-	8.7	-	-	6.5	
中田	9	77.8	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1	
両竹	11	90.9	-	-	-	-	-	-	9.1	-	-	-	
浜野	30	80.0	-	-	-	6.7	3.3	-	3.3	-	3.3	3.3	
その他	6	66.7	-	-	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	

3-2-19 帰還後の双葉町での事業の再開

(1) 帰還後の双葉町での事業の再開意向

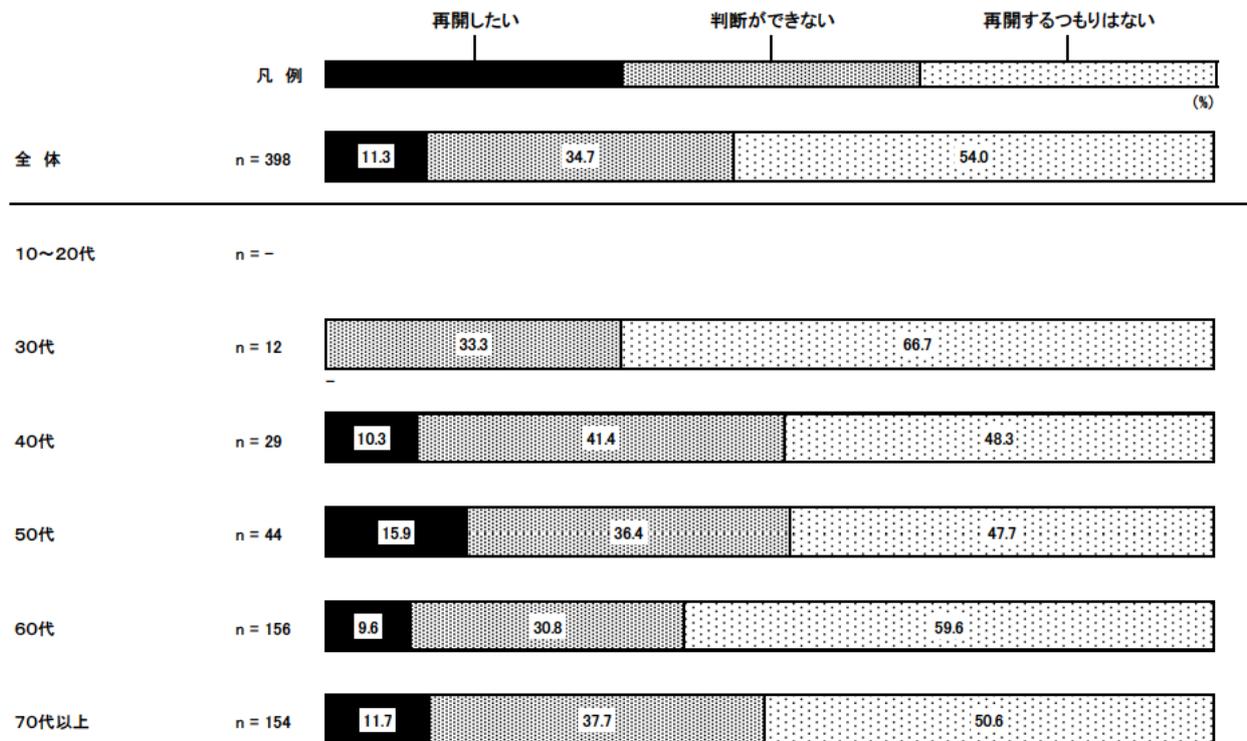
【震災発生当時に双葉町で自営業（農業・林業・漁業・畜産業・商業・工業など）を営んでいた方にうかがいます。】

問 13 避難指示が解除となり帰還した場合、町内で事業を再開したいと思いますか。（〇は1つ）

帰還後の双葉町での事業の再開意向については、「再開するつもりはない」が54.0%と最も高く、次いで「判断ができない」が34.7%、「再開したい」が11.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「再開するつもりはない」が60代では59.6%とおよそ6割を占め、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-19-1 帰還後の双葉町での事業の再開意向（年齢別）>



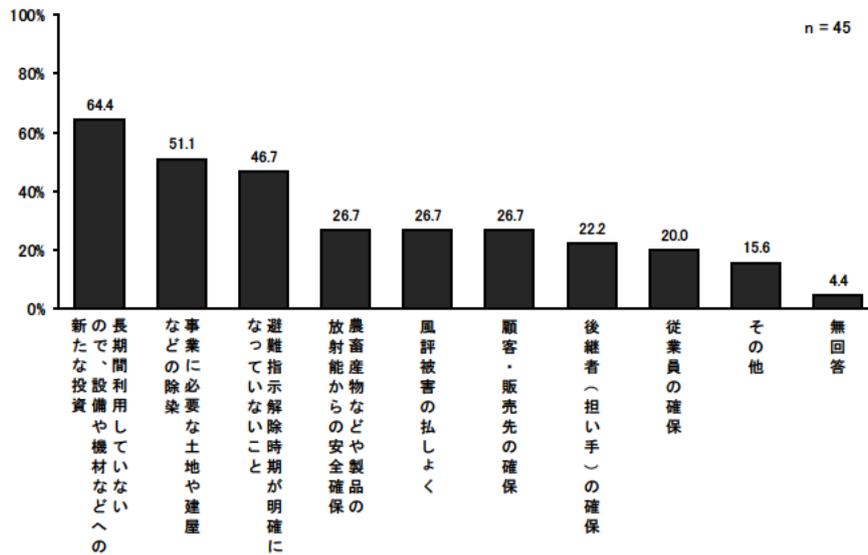
(2) 事業再開時の課題

【問 13 で「1. 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14 町内で事業を再開する際の課題があればお教えてください。(〇はいくつでも)

事業再開時の課題については、「長期間利用していないので、設備や機材などへの新たな投資」が64.4%と最も高く、次いで「事業に必要な土地や建屋などの除染」が51.1%、「避難指示解除時期が明確になっていないこと」が46.7%となっている。

<図表3-2-19-2 事業再開時の課題>



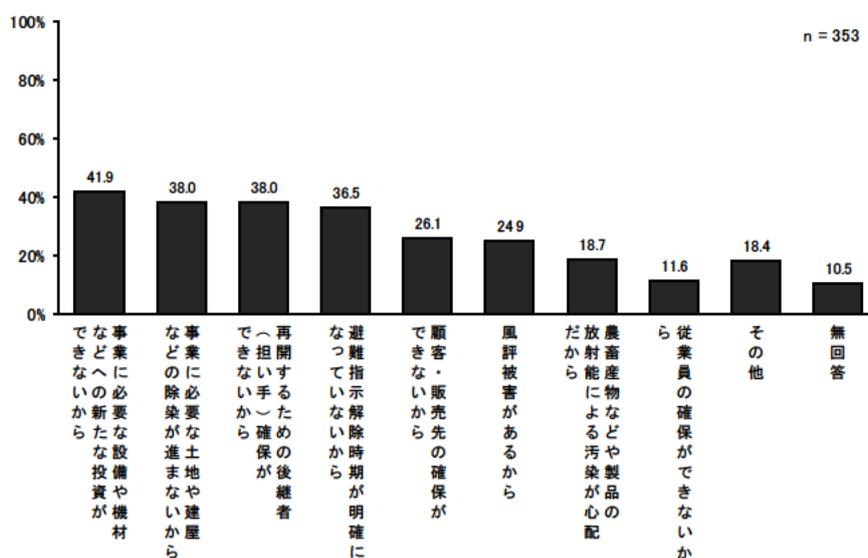
(3) 事業を再開しない理由

【問 13 で「2. 判断ができない」「3. 再開するつもりはない」と回答した方にうかがいます。】

問 15 事業を再開しない理由、判断ができない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

事業を再開しない理由については、「事業に必要な設備や機材などへの新たな投資ができないから」が 41.9%と最も高く、次いで「事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから」、「再開するための後継者(担い手)確保ができないから」がともに 38.0%、「避難指示解除時期が明確になっていないから」が 36.5%となっている。

<図表3-2-19-3 事業を再開しない理由>



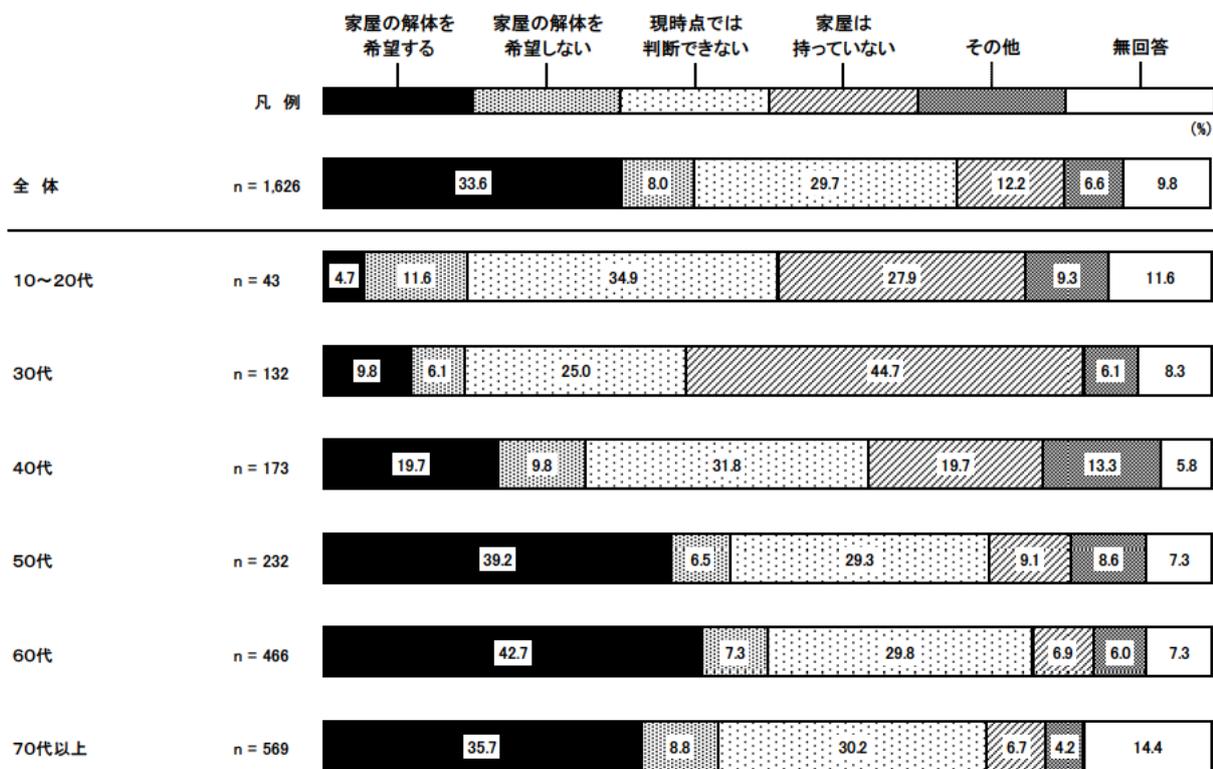
3-2-20 被災した家屋の解体意向

問 16 東日本大震災により被災した家屋の、現時点での解体のご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。
 (〇は1つ)
 ※この質問で解体の申し込みを行うものではありません。また、現在の制度上、町内のすべての家屋が解体対象となっているわけではありません。

被災した家屋の解体意向については、「家屋の解体を希望する」が33.6%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が29.7%、「家屋は持っていない」が12.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家屋の解体を希望する」は、50代以上では4割前後を占め、他の年齢と比べ高くなっている。

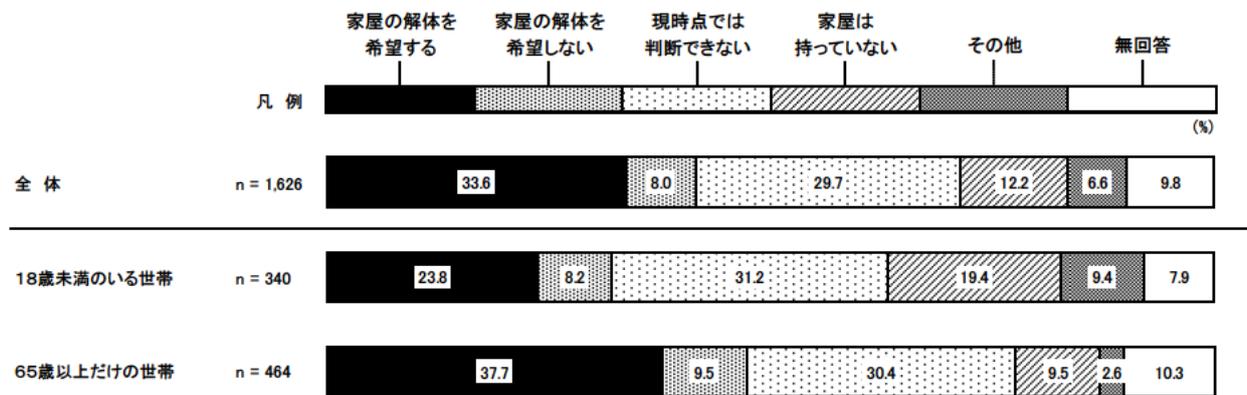
<図表3-2-20-1 被災した家屋の解体意向（年齢別）>



世帯構成別にみると、「家屋の解体を希望する」は、65歳以上だけの世帯で37.7%となっており、18歳未満のいる世帯（23.8%）と比べ高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「家屋の解体を希望する」は、羽鳥で50.0%、中田で52.4%、両竹で59.1%となっており、他の行政区と比べ高くなっている。

<図表3-2-20-2 被災した家屋の解体意向（世帯構成別）>



<図表3-2-20-3 被災した家屋の解体意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>

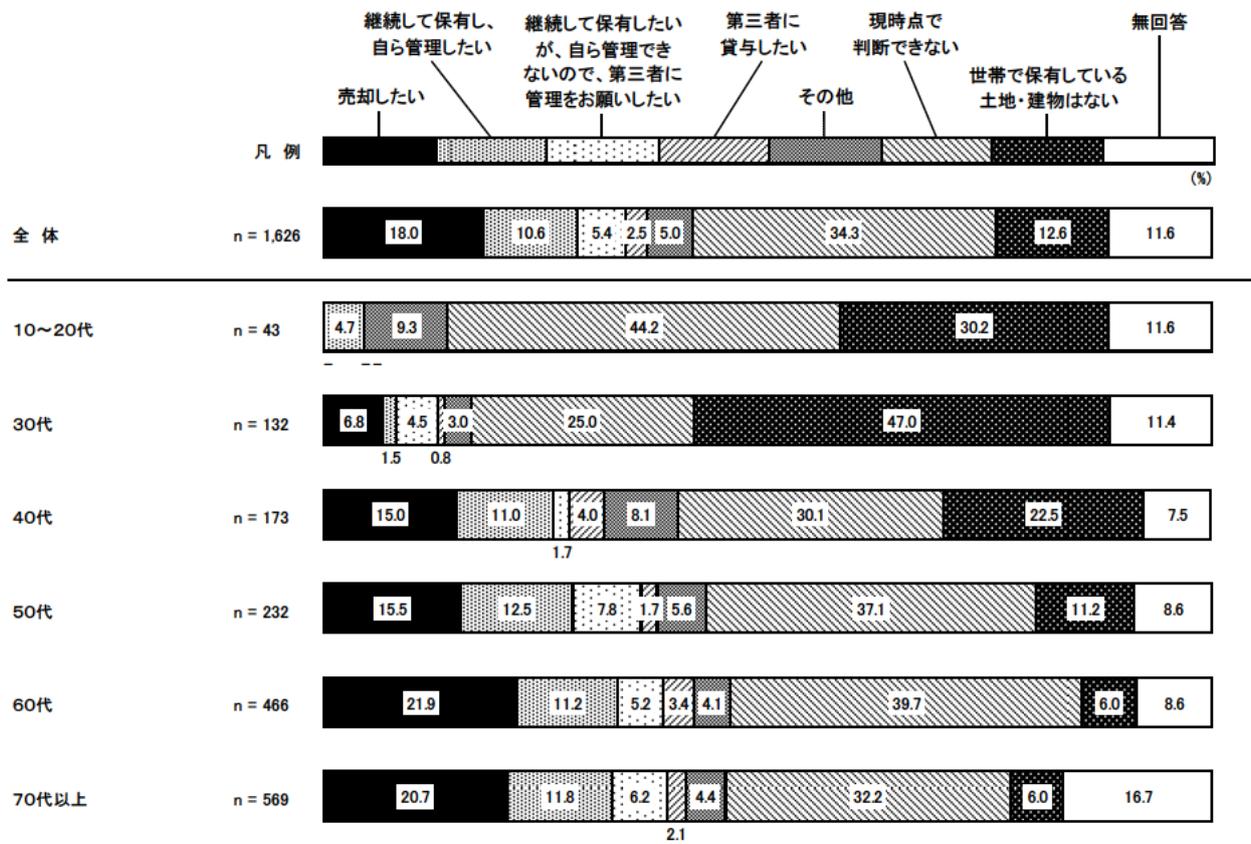
	n	希望する (%)	希望しない (%)	現時点では判断できない (%)	家は持っていない (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	1,626	33.6	8.0	29.7	12.2	6.6	9.8
新山	235	31.1	8.9	28.9	18.7	4.7	7.7
下条	120	30.8	7.5	31.7	10.0	14.2	5.8
郡山	93	18.3	9.7	22.6	6.5	24.7	18.3
細谷	30	30.0	10.0	23.3	3.3	20.0	13.3
三字	201	28.4	10.0	28.9	19.9	2.5	10.4
山田	119	41.2	8.4	31.1	6.7	0.8	11.8
石熊	28	39.3	3.6	28.6	-	14.3	14.3
長塚一	225	34.7	10.2	26.2	18.7	3.6	6.7
長塚二	186	34.4	4.8	37.1	11.3	3.2	9.1
下長塚	57	42.1	3.5	38.6	3.5	-	12.3
羽鳥	86	50.0	5.8	31.4	2.3	2.3	8.1
寺松	46	32.6	8.7	43.5	4.3	2.2	8.7
渋川	27	40.7	11.1	37.0	3.7	-	7.4
鴻草	68	42.6	4.4	35.3	2.9	2.9	11.8
中田	21	52.4	14.3	23.8	9.5	-	-
両竹	22	59.1	4.5	13.6	9.1	4.5	9.1
浜野	44	6.8	2.3	11.4	11.4	43.2	25.0
その他	6	16.7	33.3	-	16.7	16.7	16.7

3-2-21 双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向

問 17 町内に保有している土地・建物の今後の取り扱いについて、もっとも意向に近いものはどれですか。
(〇は1つ)

双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向については、「現時点で判断できない」が34.3%と最も高く、次いで「売却したい」が18.0%、「世帯で保有している土地・建物はない」が12.6%となっている。

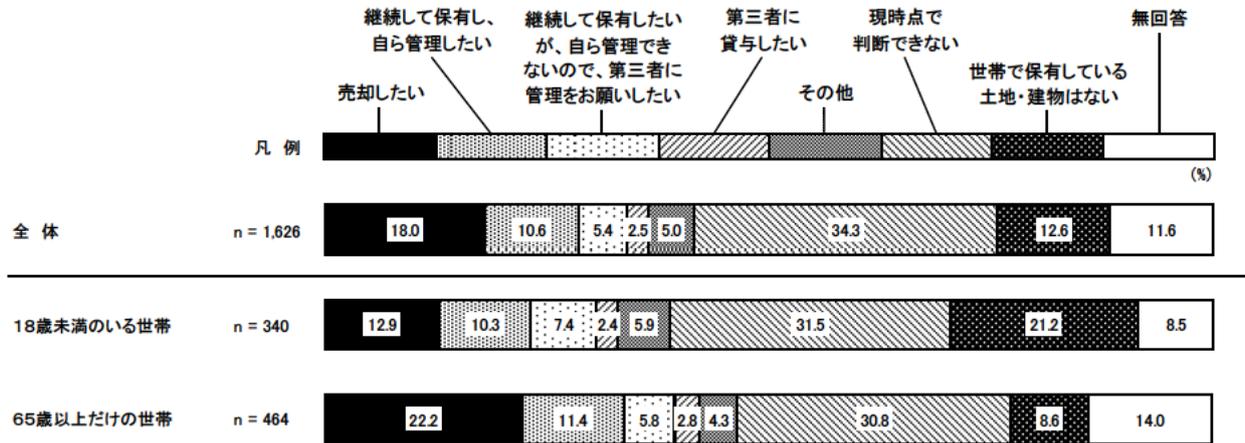
<図表3-2-21-1 双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向（年齢別）>



世帯構成別にみると、「売却したい」は、65歳以上だけの世帯で22.2%となっており、18歳未満のいる世帯（12.9%）と比べ高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「売却したい」は細谷で33.3%、長塚二で26.9%、浜野で45.5%となっており、他の行政区と比べ高くなっている。

＜図表3-2-21-2 双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向（世帯構成別）＞



＜図表3-2-21-3 双葉町に保有している土地・建物の今後の取り扱い意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

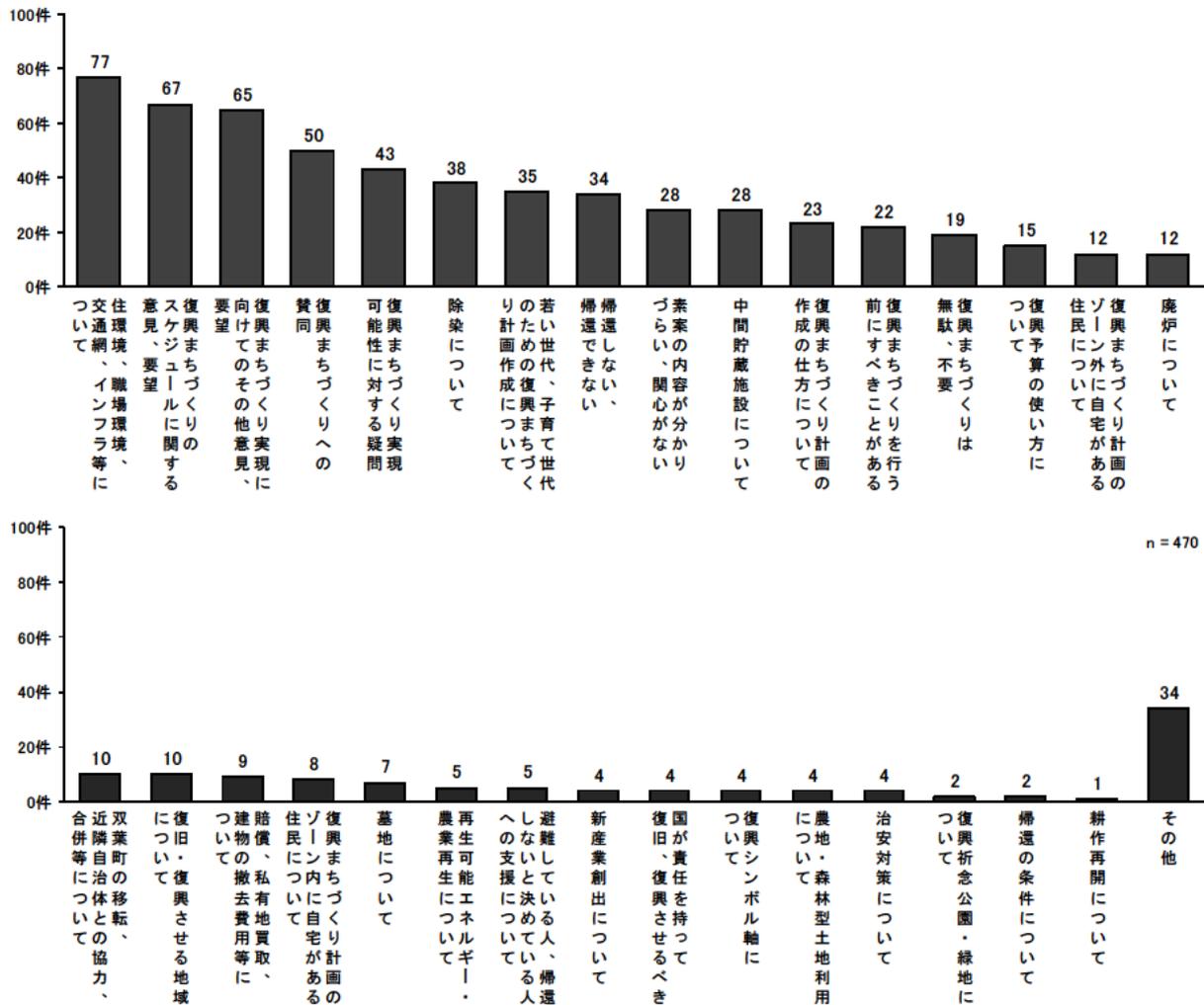
	n	売却したい	継続して保有し、自ら管理したい	継続して保有したいが、自ら管理できないので、第三者に管理をお願いしたい	第三者に貸与したい	その他	現時点で判断できない	世帯で保有している土地・建物はない	無回答
全体	1,626	18.0	10.6	5.4	2.5	5.0	34.3	12.6	11.6
新山	235	15.7	15.3	5.1	1.3	3.8	28.9	21.3	8.5
下条	120	22.5	11.7	2.5	2.5	9.2	30.8	11.7	9.2
郡山	93	20.4	8.6	1.1	2.2	18.3	24.7	4.3	20.4
細谷	30	33.3	6.7	-	-	10.0	30.0	3.3	16.7
三字	201	10.4	8.5	5.0	1.5	5.0	35.3	20.9	13.4
山田	119	15.1	14.3	9.2	3.4	-	41.2	5.9	10.9
石熊	28	10.7	3.6	3.6	3.6	7.1	50.0	-	21.4
長塚一	225	19.1	7.6	4.4	3.1	4.4	32.4	16.0	12.9
長塚二	186	26.9	3.8	2.2	0.5	3.8	36.0	15.1	11.8
下長塚	57	17.5	10.5	8.8	5.3	3.5	38.6	3.5	12.3
羽鳥	86	16.3	17.4	9.3	5.8	2.3	34.9	3.5	10.5
寺松	46	10.9	8.7	8.7	4.3	2.2	52.2	2.2	10.9
浜川	27	3.7	18.5	18.5	-	-	44.4	7.4	7.4
鴻草	68	13.2	16.2	11.8	-	4.4	39.7	2.9	11.8
中田	21	9.5	19.0	14.3	4.8	4.8	38.1	9.5	-
両竹	22	13.6	22.7	4.5	9.1	4.5	31.8	9.1	4.5
浜野	44	45.5	4.5	2.3	6.8	2.3	27.3	4.5	6.8
その他	6	16.7	-	-	-	16.7	33.3	16.7	16.7

3-2-22 「双葉町復興まちづくり計画（第二次案）」策定に向けての意見・要望

問 22 『「双葉町復興まちづくり計画（第二次）」の策定に向けた検討について（素案）』『JR双葉駅周辺のまちづくりイメージ（素案）』『「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠（素案）』について、今後、町が計画として具体化していくにあたり、あなたのご意見・ご感想など、ご自由にお書きください。

「双葉町復興まちづくり計画（第二次案）」策定に向けての意見・要望については、「住環境、職場環境、交通網、インフラ等について」が77件と最も多く、次いで「復興まちづくりのスケジュールに関する意見、要望」が67件、「復興まちづくり実現に向けてのその他意見、要望」が65件となっている。

<図表3-2-22-1 「双葉町復興まちづくり計画（第二次案）」策定に向けての意見・要望>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[住環境、職場環境、交通網、インフラ等について]

- 震災前の駅を、できれば復元して欲しい。これからの子供達のことを考え、アスレチック（公園）が近くにあるとありがたい。利便性、バスの本数などを考えて作ってほしい。（10～20代）
- 県中地区など中通りから双葉町に向かう道路の構築・整備。（30代）
- 新しい双葉町は、他の町からも集まるような商業施設を計画してほしい。中途半端なまちづくり計画はやめてほしい。（30代）
- ステーションビルをはじめ、町民の立ち寄り所や、集まれる場所の整備、災害記念館、避難区域再編に伴い、（今後）宿泊施設等ができれば有難く思います。（50代）
- 他の市町村では解除になったり準備宿泊が認められているようですが、宿泊は認められなくても、できるだけ早く常磐線が再開できるように願っています。（50代）
- 「町内復興拠点の整備」には、「双葉駅周辺は、自然減衰により放射線量が比較的少なくなっています。そのため、避難指示解除準備区域から双葉駅周辺にかけて、既存中心市街地を活かしつつ、その周辺を整備し」とあるが、避難指示解除準備区域から順次インフラを整備して双葉駅周辺部へ、生活できる環境を整え拡張していくべきではないか。両竹地区が「再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーン」として拠点になる計画だが、田畑のみの整備利用だけではなく、そこに住民が住めるようにインフラが整備されてこそ避難解除準備区域としての意味がある。そのあたりのインフラ整備を伴った両竹・中野・中浜地区の環境整備が文言として示されていないように感じる。（60代）
- 双葉町の復興が進んで戻れる時が訪れたなら、小さな町になっても心は落ち着くように思います。商店、病院（診療所）、勿来町にあるふたばーくのような町民コミュニティ施設、それだけでも戻れるように思います。（60代）
- 新たな雇用も、他の町が実施しているものを後から追いかけても、遅れを取るだけかと思います。帰還者のみを期待するのではなく、新たな人を入れる事も一つの方法かと思います。中間貯蔵についても厄介者とばかり考えず、雇用場所としての考え方もあります。（60代）
- 20代、30代の家族の方々が、できるだけ多く帰還し、そして生活できる仕事の確保。また子どもの教育、病院など具体的な計画をお願いしたいと思います。30年後に、第一原発が安心出来るようになるとするならば、30代の夫婦が60才代になり、その子どもが30才代になる将来の様子を想定して、復興の計画をと思います。（70代以上）
- 老人でも障害者でも双葉へ帰って安心して暮らしたい。そのためには介護福祉施設は、必ず再開又は新たに造ってほしい。双葉町に帰りたいです。（70代以上）

[復興まちづくりのスケジュールに関する意見、要望について]

- 双葉町は、他の避難町村から比べると、復興も遅れている、遅いと聞きます。なぜでしょうか。何だか、取り残されているような気がします。もっと足並み揃えてがんばってほしいです。（30代）
- 復興とはどこまでの状況を指してそう言うのでしょうか。時間がかかりすぎて、私達の世代までで帰還できなければ、私達の子供の代になったら町の復興はしても戻る人は少ないのではないのでしょうか。早く帰りたいという中年～高齢者の世代が間に合うように、復興のスピードを加速してほしいです。（40代）
- まちづくりイメージ→具体化→実現化→現実となるまですごく時間がかかること…。たぶん想像以上かもしれない。私たちの世代には無理かもしれない。でもいつか町に戻れる世代のため、考えていかなければいけない。若い世代の関わりも大事。若い人達の積極的な参加が望まれます。（40代）
- そもそも何時避難解除になるか、そのプロセスと時期が不明確すぎる。計画が無くては何も始まらないが、今後どうなるか。結局、現計画は状況が理想通りに進んだ上での事という気がする。（40代）
- 除染作業次第で、早くもなるし、遅くもなると思います。まずもって、先発隊として事業者による事業しやすい土地の提供と、利便性が最優先であると思います。その次に、現実の双葉町復興まちづくりに繋がると思っています。第一に事業者、第二に除染、第三に道路計画、第四にライフライン計画の整備。次に、本設のまちづくりの連携に繋がればと考えています。（50代）

- 双葉町復興拠点基本構想を一日も早く、実現に向けて取り組むべき。町民 7000 人、双葉町、住んでいた行政区に誇りを持っているはず。拠点外地区にしても、それぞれの行政区内にも拠点を設け、希望につながる寄り拠点を整備してほしい。(50 代)
- スピード感をもって対応していくことと、細かな説明を行うことが必要。時間の経過と共に人の気持ちも変化する。双葉町へ帰町定住、別な拠点との二拠点生活等いろんなケースを考えていかなければならない。(60 代)
- まちづくり計画において、段階的にそれぞれおおよその時期(目途)を示して欲しい。駅周辺に住居がある事から、自宅がまちづくり計画によってどのような扱いになるのか知りたい。(60 代)
- どこに住んでいても、双葉町が一番良い所だと思っています。本当に帰って生活が出来るのなら、自分の家で生活する事が出来たとき復興が出来たと思います。本当に戻れるなら、戻って双葉町で暮らしたいですが、駅周辺にまちが出来るのは何年先でしょうか?(60 代)
- 復旧、復興への時間軸が見えにくい。町民としての関わり、関心度が薄れていくのを感じている。町としては難しい対応、優先順位があるとは思いますが、町民の関心、双葉町を思う心を引き止める施策をお願いしたい。時間軸(具体的数字のある)のない復興まちづくりは、関心度が低くなり、諦めに繋がる。関心度を高める方策をお願いする。(70 代以上)

[復興まちづくり実現に向けてのその他意見、要望について]

- 住むために安全かどうかの基準をクリアしてから、商業施設・公共機関・医療施設などの建設・人材確保を進めていく必要があります。安全に暮らせる環境が整うまで、とても長い時間を要すると思いますが、復興を願っています。(10~20 代)
- どの程度帰還を望んでいるのか不明ではありますが、住民と町との思いがかけ離れるような計画ではもったいないと感じてしまいます。ただ双葉町に一時帰宅をしたり、公共機関を利用するのに便利になるような整備は大切かと思っています。(30 代)
- 住民の安心安全を大前提で復興を進めていただきたい。(30 代)
- 避難先より魅力的なまちになれば、戻りたいと思う人が多くなるような気がします。(40 代)
- 双葉町は、若い世代の思いがある場所で、貴重な経験をしていたと思うが、年齢を重ねてこそ懐かしさや思いをはせる事ができるのではないかと思う。新たな復興計画で出来た町に、20 代未満の若い世代には何の思いも生まれないのではないだろうか?幼稚園、小学校、中学校で貴重な経験をし、懐かしさや思いをはせる時期は、年を重ねて感じるものなので、長い年月がかかると思われる。町は誰の為に町を残そうとしているのか、今現在すべき事と双葉町の未来の為にすべき事をもう 1 度整理し、進めていく方が良いと思う。(40 代)
- まちづくり計画を進めるに当たり、再生された双葉町に住むと思われる、想定される年代はいくつ位になるか。その方たちが満足できる町として復興することが重要と思う。また、駅周辺から外れた地区に住む人も暮らしやすい町となるかも考える必要があると思います。(50 代)
- 魅力ある町づくりのプランを提示して欲しい。特に若い人々が住むたくなるような、そして町民以外の人達も住みたいくなるような発想を持つべき。ありきたりのプランでは、とても住みたいとは思わないだろう。(60 代)
- 町の約半分以下の面積になる将来を考えると希望がもてない。又中間貯蓄施設が隣接しているので、子供たち若い世代が住むとは考えられない。一時的な、先行的な計画であると思うので、住民が期待の持てる計画になってほしい。(60 代)
- 中野地区に復興拠点として「アーカイブセンター」を設置し、復興産業拠点として位置付け「新産業創出」の拠点とする基本的な計画が策定されたことは、評価されるべきと考えております。更に「自然エネルギー開発拠点」としての研究開発センターを設置し、自然エネルギーを有効活用の手段としての、蓄電装置、更には水素エネルギー利用の問題点説明などを集中的に行い、短期間に成果を上げることである。これに成功すれば、避難民の悲願である「脱原発」が可能となり、故郷での生活が可能となります。真の復興は「避難者が故郷での生活」を取り戻すことであり、これを肝に銘じて欲しい(70 代以上)。

3-3 情報入手・コミュニケーション

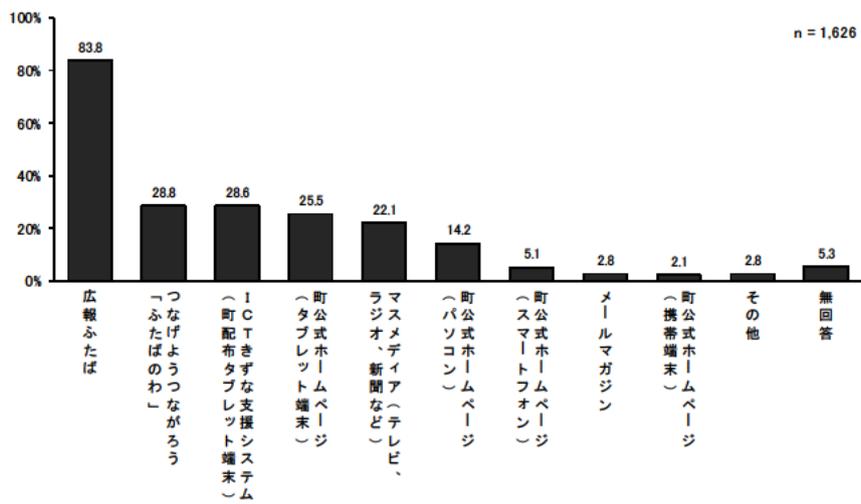
3-3-1 双葉町からの情報の入手経路

問 18 あなたは町からの情報を主にどのような方法で入手していますか。(〇は3つまで)

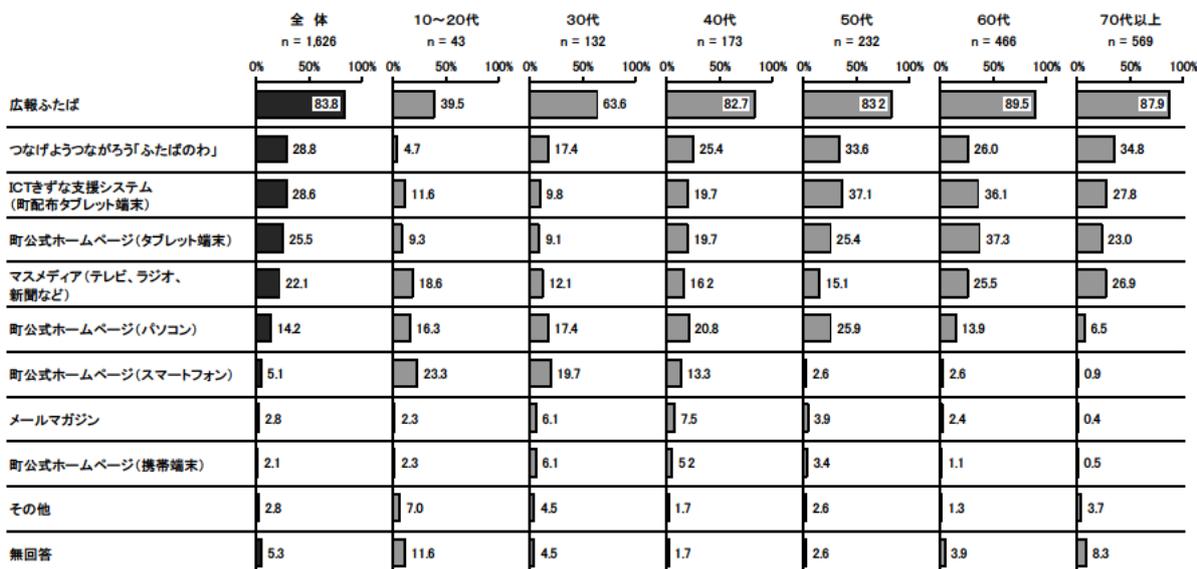
双葉町からの情報の入手経路については、「広報ふたば」が83.8%と最も高く、次いで「つなげようつながろう「ふたばのわ」」が28.8%、「ICTきずな支援システム(町配布タブレット端末)」が28.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「広報ふたば」は40代以上が8割以上となっているが、10~20代は39.5%にとどまる。「つなげようつながろう「ふたばのわ」」は50代、70代以上が3割以上となっているが、10~20代は4.7%にとどまる。「ICTきずな支援システム(町配布タブレット端末)」は50~60代が3割以上となっているが、30代以下は1割前後にとどまる。

<図表3-3-1-1 双葉町からの情報の入手経路>



<図表3-3-1-2 双葉町からの情報の入手経路(年齢別)>



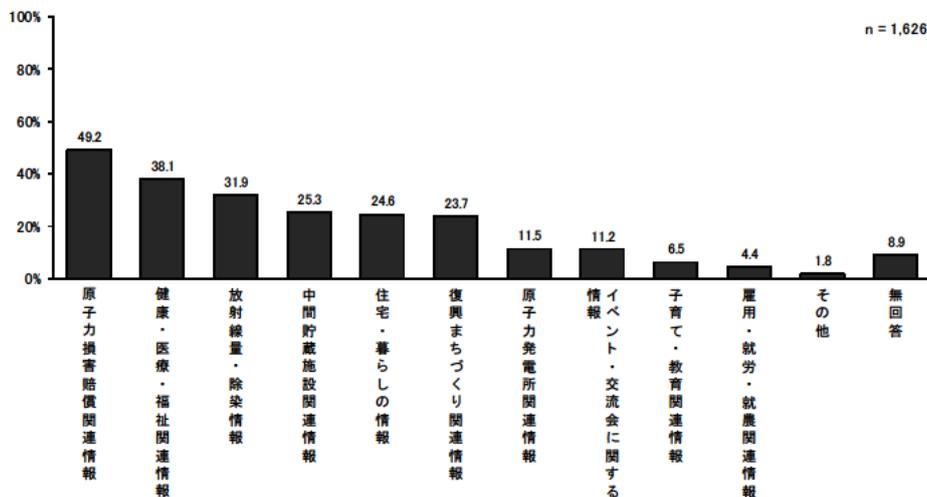
3-3-2 知りたい・関心がある情報

問 19 あなたが特に知りたい、関心がある情報は何か。(〇は3つまで)

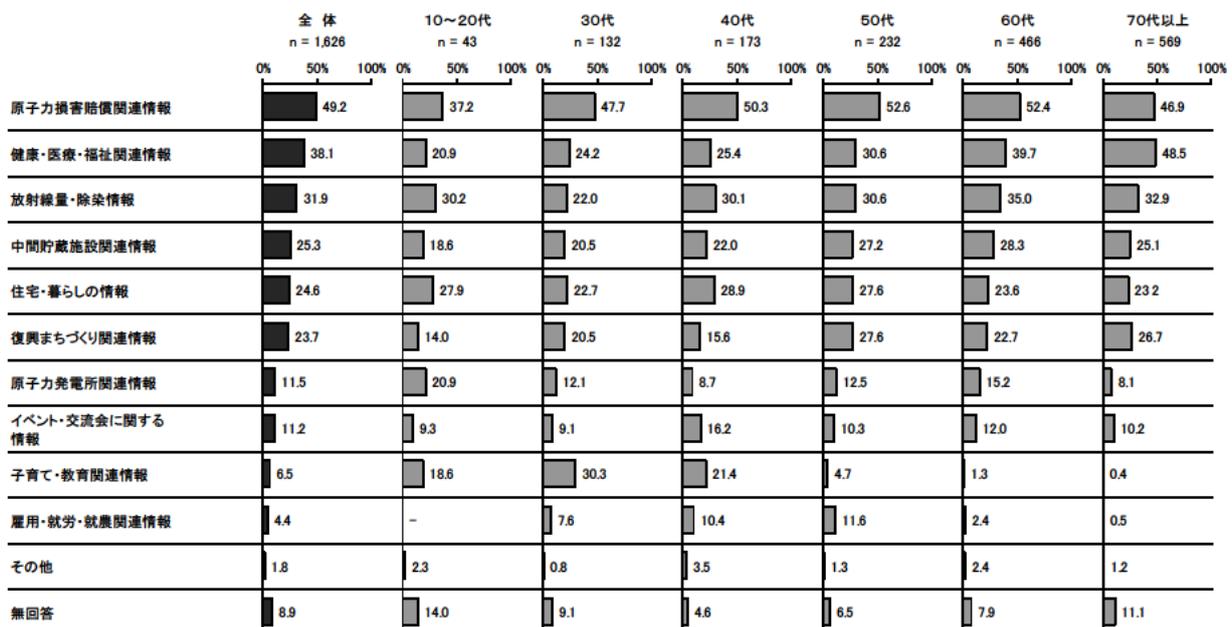
知りたい・関心がある情報については、「原子力損害賠償関連情報」が49.2%と最も高く、次いで「健康・医療・福祉関連情報」が38.1%、「放射線量・除染情報」が31.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「原子力損害賠償関連情報」は、60代以下で最も高く、「健康・医療・福祉関連情報」は、70代以上で最も高くなっている。「子育て・教育関連情報」は、10~20代で18.6%、30代で30.3%、40代で21.4%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-2-1 知りたい・関心がある情報>



<図表3-3-2-2 知りたい・関心がある情報（年齢別）>



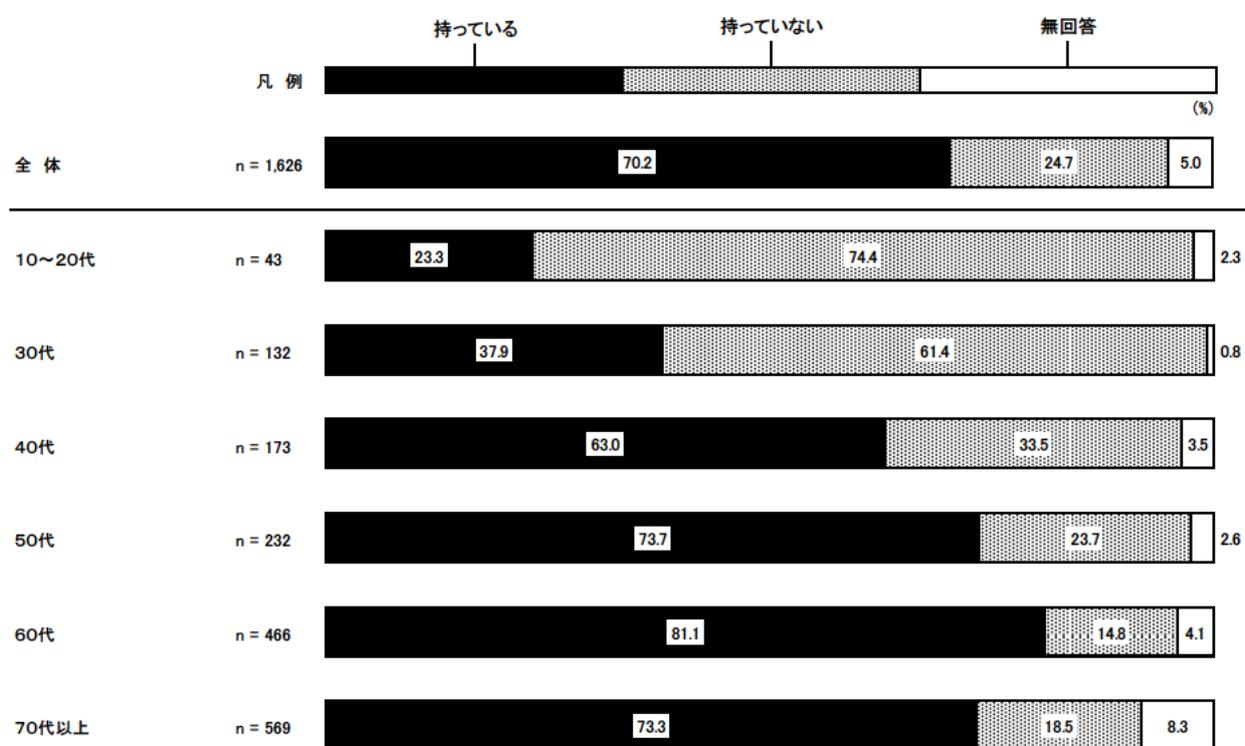
3-3-3 「ICTきずな支援システム」の所有

問 20-1 町が無料配布している「ICTきずな支援システム（タブレット端末）」は持っていますか。（〇は1つ）

「ICTきずな支援システム」の所有については、「持っている」が70.2%、「持っていない」が24.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持っている」は、40代以上では6~8割を占めるが、10~20代は23.3%、30代は37.9%にとどまる。

<図表3-3-3-1 「ICTきずな支援システム」の所有（年齢別）>



3-3-4 「ICTきずな支援システム」の利用頻度

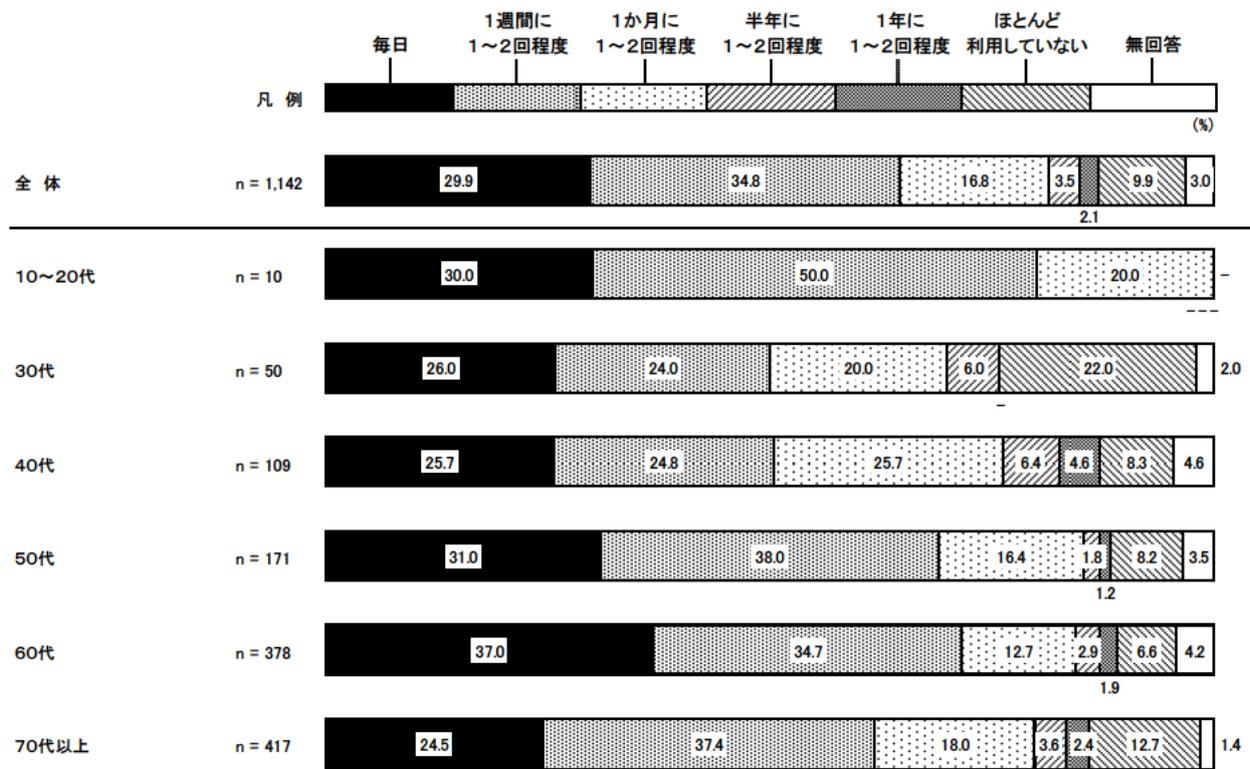
【問20-1で「1. 持っている」と回答した方にうかがいます。】

問20-2 「ICTきずな支援システム（タブレット端末）」は、どれくらいの頻度で利用していますか。（〇は1つ）

「ICTきずな支援システム」の利用頻度については、「1週間に1～2回程度」が34.8%と最も高く、次いで「毎日」が29.9%、「1か月に1～2回程度」が16.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「毎日」は60代で37.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。一方、「ほとんど利用していない」は30代で22.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-4-1 「ICTきずな支援システム」の利用頻度>



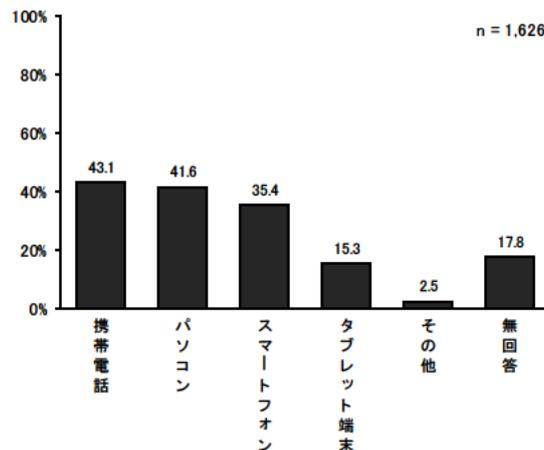
3-3-5 「ICTきずな支援システム」以外の情報端末機器の所有

問21 町が配布している「ICTきずな支援システム（タブレット端末）」のほかに、どのような情報端末機器をお持ちですか。（〇はいくつでも）

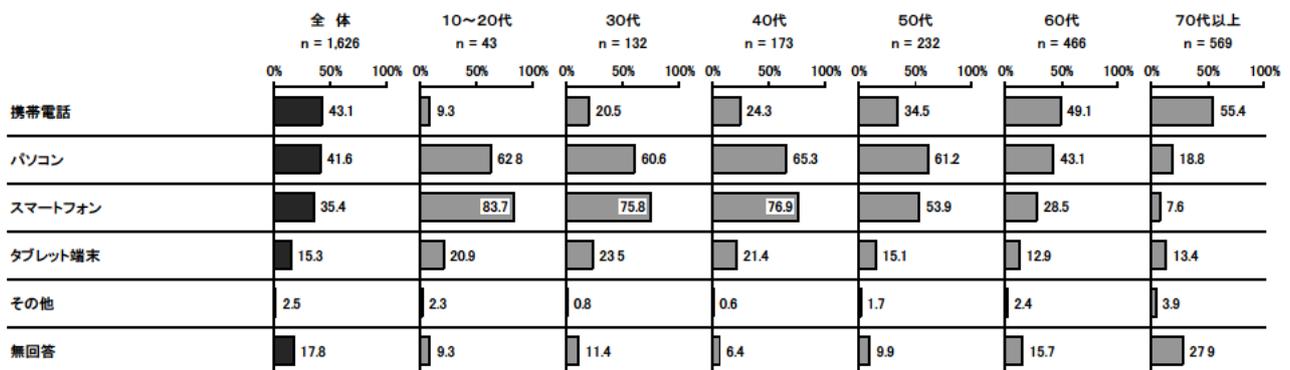
「ICTきずな支援システム」以外の情報端末機器の所有については、「携帯電話」が43.1%と最も高く、次いで「パソコン」が41.6%、「スマートフォン」が35.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「携帯電話」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で55.4%と最も高くなっている。一方、「スマートフォン」は40代以降、年齢が高くなるにつれ割合が低くなり、70代以上では7.6%にとどまる。また、「パソコン」についても70代以上では18.8%となっており、他の年齢と比べ低くなっている。

<図表3-3-5-1 「ICTきずな支援システム」以外の情報端末機器の所有>



<図表3-3-5-2 「ICTきずな支援システム」以外の情報端末機器の所有>



3-4 意見・要望

問23 国や福島県、双葉町への要望などをご自由にお書きください。

国や福島県、双葉町への要望などについて、590世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

●生活について

- ・避難生活の長期化への不安
- ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安
- ・元の生活、安定した生活の回復
- ・元の生活に戻ることにあきらめ
- ・現在の生活について
- ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて
- ・現在の生活の経済的な不安について
- ・現在の生活の健康に関する不安について
- ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について
- ・現在の生活全般の不安について
- ・将来の生活に関する考えについて
- ・将来の生活の経済的な不安について
- ・将来の生活の健康に関する不安について
- ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について
- ・将来の生活全般の不安について
- ・生活（再建）支援について
- ・その他

●除染について

- ・除染作業の意義について
- ・除染作業にかかる費用の他への活用について
- ・除染作業の効果などについて
- ・除染作業の実施箇所などについて
- ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について
- ・除染作業スケジュールの明確化について
- ・除染廃棄物の処理について
- ・その他

●震災発生前の居住地について

- ・帰還困難区域への立入りについて
- ・帰還困難区域等の設定について
- ・所有する住まい・土地の買取りについて
- ・自宅の現状（被害状況）について
- ・自宅の再建・改築・解体について
- ・元の住居や土地などの管理・処分について
- ・元の住居や土地に対する税について
- ・所有する墓地の維持・管理・移転について
- ・その他

●復旧・復興について

- ・復旧・復興の遅れ、長期化について
- ・復旧・復興のスケジュールについて
- ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について
- ・町村合併について
- ・ライフライン・インフラの整備について
- ・社会福祉施設の整備について
- ・医療施設の復興・充実について
- ・学校の復興・充実について
- ・商業の復興・充実について
- ・住民の参加・自助努力について
- ・早期の原状回復・復興実現について
- ・その他

●賠償について

- ・賠償内容・方法について
- ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について
- ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について
- ・その他

●原発の安全性について

- ・廃炉作業の迅速な実施について
- ・廃炉作業全般について
- ・その他

●帰還について

- ・帰還への不安
- ・帰還可能時期の明確化について
- ・帰還したい
- ・帰還しない
- ・現時点では帰還の判断ができない
- ・帰還に関する施策について
- ・帰還を望まない人への対応について
- ・その他

●原発事故に対する対応について

- ・行政や東電の対応について
- ・対応の長期化、遅れについて
- ・情報の開示・発信について
- ・中長期的スケジュールについて
- ・その他

●避難期間中及び将来の住宅について

- ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について
- ・復興公営住宅の建設地・形態等について
- ・復興公営住宅に係る経済的負担について
- ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安
- ・復興公営住宅への入居について
- ・居住場所の確保について
- ・借上げ住宅について
- ・住宅の購入について
- ・その他

●その他

- ・今後のエネルギー政策について
- ・行政に対する謝意、励まし
- ・その他

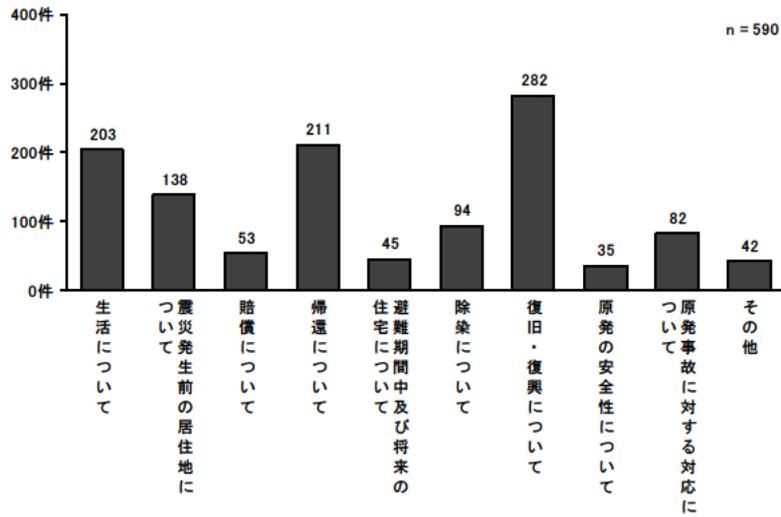
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての分類結果は、下図のとおりとなっている。

「復旧・復興について」が282件と最も多く、次いで「帰還について」が211件、「生活について」が203件となっている。

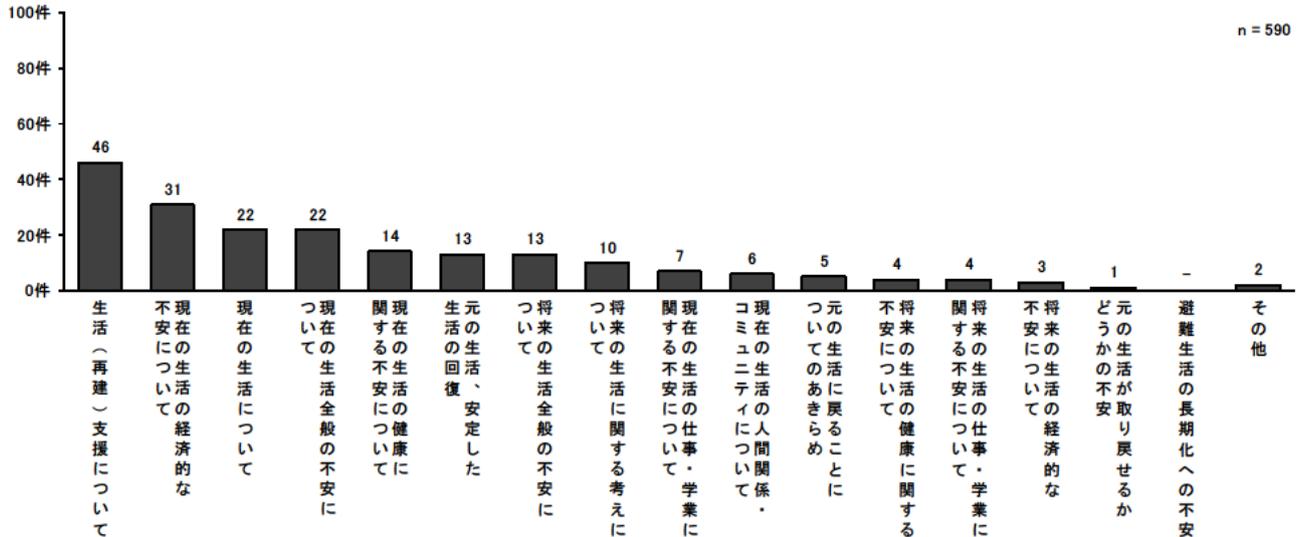
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が46件と最も多く、次いで「現在の生活の経済的な不安について」が31件、「現在の生活について」が22件となっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 県外に住んでいる人は、県内の人と比べると何かと不便だし、コミュニティも支援もあまり無いように感じるので、せめて無料措置を続けてもらえると助かります（高速、医療等）。（40代）
- 年月が経過しても、その時々に応じた支援を継続していただきたい。少しでも、安心感を持てることが大切と思います。（60代）
- 年齢や考え方にも個人の違いがあり、援助への受け取り方の思いも違うので困る事も多いと思いますが、長い目線で助けていただきたいです。（70代以上）

【現在の生活の経済的な不安について】

- 高速道路の無料を継続してほしい（親が東京に避難していて毎月会いにしている為）。（50代）
- 現在の避難自治体へ住所を移す場合、これまでの双葉町の情報の入手や税金、医療面でのサポートはどうなりますか。（60代）
- 安心して先の短い人生が保証される事をお願いしたいです。私の頂いている年金では、いわきの生活は出来ません。（70代以上）

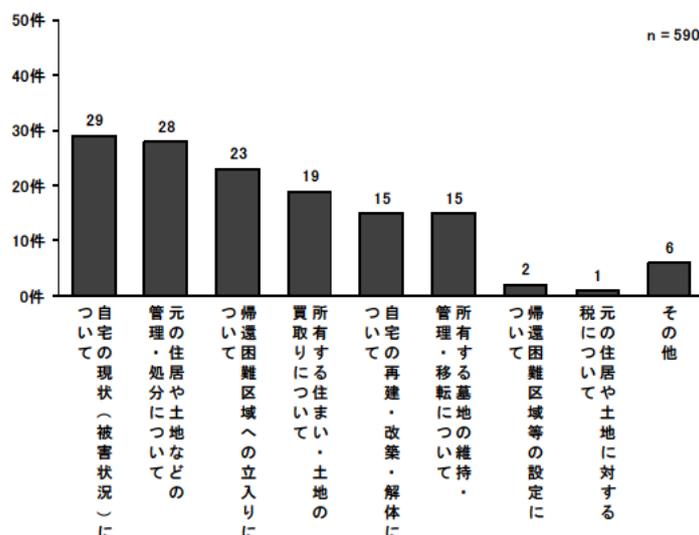
【現在の生活について】

- 今までいわき市で生活をしてきて、生活がまったく変わってしまいました。双葉に戻れると言われたとしても、不安が募り生活する状況にはなれません。（50代）
- 埼玉に移住を決めたので双葉町には戻りません。土地の買い上げ他、はっきりしてもらいたい。（60代）
- 避難先で生活していますが、住み慣れた双葉町での生活に1日でも早く戻れるようにしてほしいです。（70代以上）

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が29件と最も多く、次いで「元の住居や土地などの管理・処分について」が28件、「帰還困難区域への立入りについて」が23件となっている。

<図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- 今後5年以内を目途にJR双葉駅西側を除染し、復興拠点整備をし、その後の状況によってそれ以外の場所の除染を検討するとなっていますが、自宅は、雨漏れと獣の被害により修復不可能となっています。(50代)
- 一時帰宅するたびに家の荒れ方が酷くなって行くのを確認するのは大変苦痛です。(50代)
- 双葉町の家を解体して、建て替えて住めるようにするには大変な歳月がかかると同時に、その費用は見当もつかない。避難解除になったとしても、現状は荒廃してとても住めない状況である。(60代)

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 以前住んでいたのが賃貸アパートなので、今後それら建物はどうなるのか聞きたい。(30代)
- 町に保有する家や土地の扱いを早く示して欲しい。(60代)
- 家の修理がし易いように、まずは除染を進めるべきではないのか。双葉駅周辺地域を見る機会があったが、5年間も放置された状態の手つかずの自宅を見続けるのは苦痛だと思う。家があってこそ帰る希望が生まれるのであって、一日も早く除染を開始して、放射線量を下げ努力を目に見える形で示して欲しいと願う。(60代)

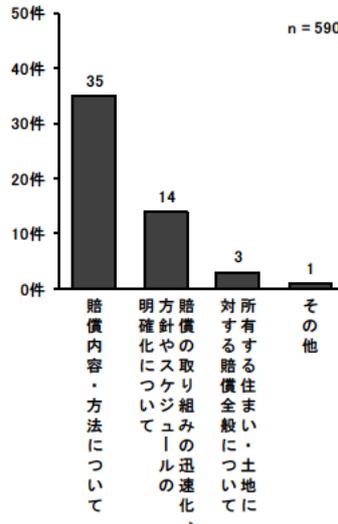
【帰還困難区域への立入りについて】

- 帰還困難区域の解除を望む！自由に立入りし、家の内・外の片づけを進めたい。(40代)
- 車の通行証はその都度発行するのではなく、半年、1年間での期間で発行してはどうか。(60代)
- 一時帰宅は、高齢者にとっては、行きたくても行けない状況です。体力的にも難しいものがあります。年寄り向けに双葉町がバスを出して、懐かしい町の様子や復興状況を見てまわることができれば良いと思います。(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が35件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が14件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が3件となっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 東電、町の説明会を県内で行うだけでなく県外でも行ってほしい（訪問説明会として）。医療保険、賠償について、色々と詳しく知りたい事もなかなか問う事が出来無い為。（50代）
- 中間貯蔵施設予定地以外の住民達の事をもっと真剣に考えて欲しい。あまりにも賠償に差がありすぎです。帰れないのは同じなのですから。（60代）
- 災害で家を失くしたり住めなくなったりして、原発事故で同じ状態になっても、その支援は全く違う。支援の配分、程度を公平に進め、税金を大切に有効に使って欲しい。（60代）

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 29年度以降の賠償は、どうなるのか。自営業者への賠償はどうなるのか。とても不安です。回答を早く出して欲しい。（40代）
- 損害賠償の今後の見通しを示してほしい。何年度で終了となるのか、継続するのか等々。（50代）
- 賠償問題を早く片づけ、一日も早い帰還を望んでいます。死に場所は故郷の双葉町だけです。本当に今までは長い避難生活で辛く悲しいものでした。国や県は避難者を忘れているのでしょうか。（70代以上）

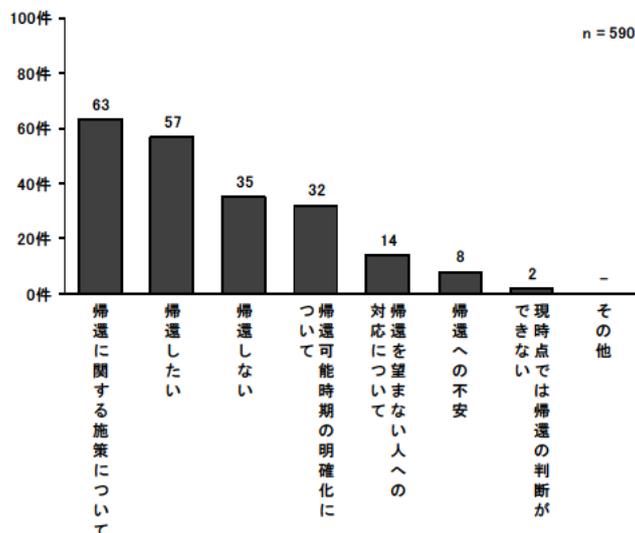
[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 中間貯蔵施設対象者以外の町民は大変不満を持っている。最終的には元に戻し、地主に返すのに買い上げ同様に賠償する。対象者以外の町民も帰れるのはまだまだ先であるのに、賠償されないのは不公平である。町の再開発時に土地・家屋を買い上げるべきと考える。（50代）
- 中間貯蔵施設予定地域と同様の買い上げ扱いをしてほしい。（60代）
- 中間貯蔵施設予定地の賠償金額が安い。パークヒルズを作る時の価格と比べ大きな差がある。（70代以上）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が63件と最も多く、次いで「帰還したい」が57件、「帰還しない」が35件となっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- 帰還は、廃炉作業が安全に完工される事が条件になると考えます。(60代)
- 町や県や国は、双葉町の人口比率についてどう思っているのか。持ち家以外の人について、少し思いが至らないのではないかと。帰りたくても持ち家でない為、特に先が見えない。(60代)
- 町内復興拠点から外れた農地森林型土地利用ゾーンは、人が住むような整備計画は立てられないのか。この土地に住んでいた人は、希望が持てなく、戻らなくなるのではないかと。(70代以上)

【帰還したい】

- 実際、解除になった住まいに帰還された方に聞くと、病院（小児科）が足りていない、治安の悪さなど色々な声を聞きます。正直帰りたくても帰れないのが現状です。(40代)
- 時は過ぎ6年目を迎え、こうして縁もゆかりもない土地で、風鈴がうるさいとセンターより連絡を受け、この夏は洗濯物で目かくしの毎日でした。何年経ってもこんな生活に慣れる訳がありません。私を古里に戻して下さい。(60代)
- 故郷双葉。何気なく過ごした町、周りの人達と何時も会話し笑い、旅と共に過ごしたのが、一瞬にして離れ離れに何処かへ。積もるものはストレスと不眠だけ。故郷の昔の良き思い出が懐かしく、頭の中を一杯にしています。もう一度帰れるなら帰りたいけどもう戻れない寂しいです。(70代以上)

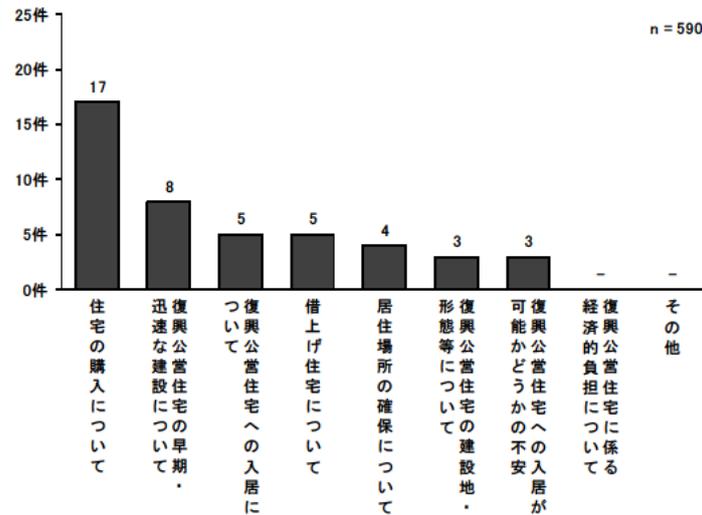
【帰還しない】

- 戻らないとは答えたが、双葉町の再生は皆望んでいると思うので、引き続き、再生に向け取り組みをがんばってほしいと思います。(10~20代)
- 私は土地などの財産がないため、補償はとても少ないです。決めるのは簡単でした。(30代)
- 長い避難生活であきらめて帰らないと決めたのだから、移住したからといってこれからの困っている事に対して助けてもらわないと困ります。国も県も町も考えて下さい。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「住宅の購入について」が17件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が8件、「復興公営住宅への入居について」「借上げ住宅について」がともに5件となっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【住宅の購入について】

- 双葉に確実に買える土地がないので、構想につきあって何年も待っているわけにはいかない。せめて土地の権利だけでも買えたなら、そこを目標に待てるのに。(40代)
- 賃貸住宅に居住していた。でも新築しやすい様に支援を厚くしてほしい。(50代)
- 別な家を買ひ、住宅資金はもうありません。双葉に帰る時にどうしたら良いのでしょうか。(60代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- 復興住宅の早期完成。(60代)
- 5年半という年月を経過しているのに、まだ復興住宅に入れず建築も遅れていることに驚いている。希望していた人も待ち切れず住宅を求めることになり、結局地元に戻らない人が増えている。(70代以上)
- 双葉町に復興住宅でも出来るなら、今すぐでも双葉町へ帰りたく毎日思っている。(70代以上)

【復興公営住宅への入居について】

- 復興は程遠いように思えます。例えば復興住宅入居条件、仮住まいで家を持つと入れないとか。(60代)
- 復興公営住宅ですが、双葉町は住民に相談もせず、勿来に勝手に作り、他に双葉枠は少ない。(60代)
- 高齢のため、なるべく早く復興公営住宅に入れるようにお願いします。(70代以上)

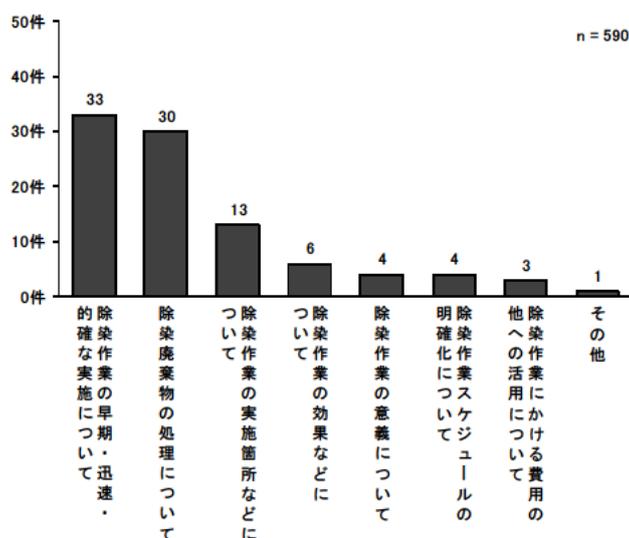
【借上げ住宅について】

- 住宅の借上げを断られたのは、非常に悲しいことでした。「引越しはあなたの事情」って…。(40代)
- 町の復興が完全に成るまでは、借上げ住宅(無償)の支援を続けてほしい。(60代)
- 仮設や借上げ住宅の継続してもらいたい。10年~20年くらいは支援して下さい。(70代以上)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が33件と最も多く、次いで「除染廃棄物の処理について」が30件、「除染作業の実施箇所などについて」が13件となっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 家屋の解体と除染を国の方針として強制的に行い、更地にしてからまちづくりを実施してはどうでしょうか。思い切った手段をとらない限り、何年経っても放射能汚染から復興はできません。(50代)
- とにかく除染を最優先に実施して下さい。そうしないと町づくりの工程表もできません。町民はいつまで待てばいいのか先が見えません。除染が遅れることは帰還のさまたげになります。(60代)
- 早く除染をして解除してほしい。話だけでなく実行してほしい。(70代以上)

【除染廃棄物の処理について】

- 最終処分場を他県、市町村に建設するのは間違っている。原発に賛成してきた、双葉町だからこそ、双葉、大熊に建設する責任がある。(30代)
- 日本中に放射性廃棄物を拡散するのは良くないので、双葉郡内の安定した台地に埋め立てる事を考えた方が良い。管理は地元の間で。(40代)
- 早く30年が来て、貸しておく土地も返してもらって、あのすばらしい自然に恵まれた家に帰りたい。早急に中間貯蔵施設を進めてもらいたい。(70代以上)

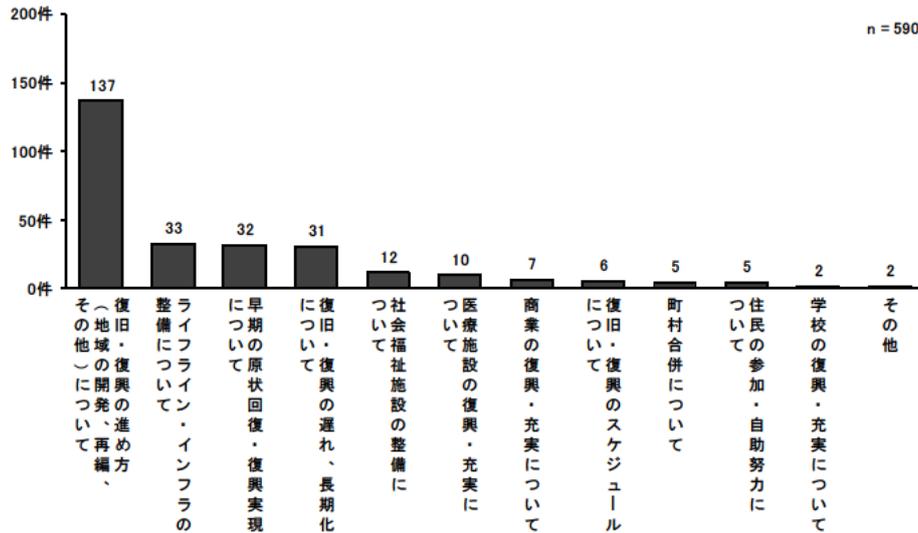
【除染作業の実施箇所などについて】

- 現在は、住宅環境から20mと林縁境から20mという限定的除染で不安と疑問を感じます。住民の帰還と生活再建に安心を与える意味で、限定的方法を取らずに除染対象から外した、山野・森林・河川池沼の底まで対象とする「完全な除染」を行うべきと考え希望します。(40代)
- 線量の高い地区を先に除染しないと、降雨などによりいつまでも、なかなか全体の線量が低くならないのではないかと考えております。(60代)
- 除染は、家の周辺だけでなく広くしてほしい。山、畑、田などはどうなるのでしょうか。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が137件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が33件、「早期の原状回復・復興実現について」が32件となっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 今後どの様にするか発信していかない限り、人口流出は止められないのではないか。（10～20代）
- 復興まちづくり情報や、住宅支援情報など近隣町村より、発信が遅く感じる。先頭に立って動いているように感じない。双葉町独自のアイデアを率先して出して欲しい。（40代）
- 復興は時間がかかる為、直接私共がその恩恵を受ける事は想定していない。子、孫の時代に世界に誇れる復興を成し遂げることを期待します。（70代以上）

【ライフライン・インフラの整備について】

- またいつ事故が起きるかわからない状況が続くと考えると、避難道路の整備はこれからも必要だ。常磐道ができたから万全だとは思わない。郡山と浜通り中部を結ぶ浜中横断道路を作るべきだ。（60代）
- 一時帰宅した際、家を掃除したくても電気がまだなので、電源を復活させてほしい。（60代）
- 基礎的インフラの整備に取り組んで欲しい。常磐道双葉ICの供用開始を急ぐ。復興祈念公園の早期建設。前田川の桜並木を再生し、景観の整備を図って貰いたい。（70代以上）

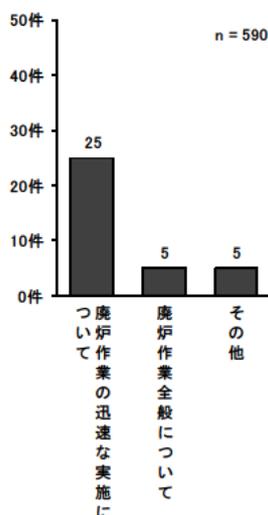
【早期の原状回復・復興実現について】

- 戻りたい方で、高齢者の方には時間がないと思います。くり返しになりますが一刻も早く復興して下さい。（40代）
- 5年間で双葉・大熊が復興に前進しなければ、東京五輪は成功したことにならないと思う。（50代）
- 早急な復興、帰還が出来なければ戻る市民はますます減少すると思う。（70代以上）

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が 25 件と最も多く、次いで「廃炉作業全般について」が 5 件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 第一第二原発の廃炉に向けた安全性及びその監視、情報の速やかな公開について、東電に徹底させていただきたい。(50代)
- 双葉町への町民レベルでの帰還は、廃炉作業が安全に完工される事が条件になると考えます(30~50年後?)。廃炉作業に従事する作業員の居住、区域の充実を希望します。(60代)
- 国に対しては確実な除染及び中間貯蔵施設の確実な安全性の実施。県や町に対しては、第一原発の廃炉の実施に向けた安全性の確認への情報管理を徹底させることをお願いします。(70代以上)

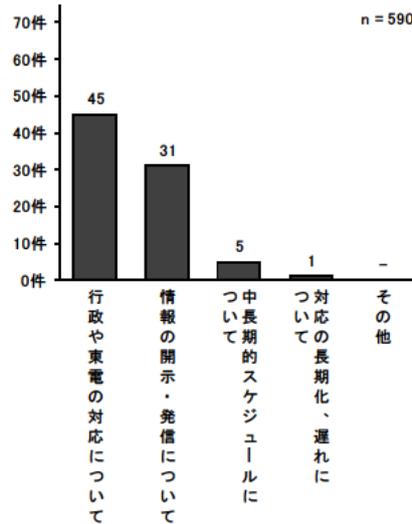
【廃炉作業全般について】

- 東電と国による廃炉作業の安全性についてしっかりと見張り、チェックし続けていっていただきたいとします。(50代)
- 廃炉作業に伴い、発電所に新たにどのような不安(危険)があるのかの説明を、具体的に求めたく思います。例えば使用済み燃料の水が抜けた際の危険の範囲、開放作業等によるダスト濃度の程度。デブリの取り出しの際に及ぼす線量率の範囲等。(60代)
- 再度想定外の大きな地震・津波が来ないとは限らないので、早く福島第一原発の溶けたままのウラン燃料を見つけ回収して、放射線を完全に閉じこめてほしい。そうでなければ双葉町は、100%安全に住めると言えないと思います。逆に完全に回収処置が出来れば、多勢の町民が帰還すると思います。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が45件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が31件、「中長期的スケジュールについて」が5件となっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 各行政区への補助金は世帯数割で算出されていると思うが、用途が今いち判らない。行政区からの収支報告書も無い。私が無知かも知れないが、各世帯に還元出来る方策があれば教示願いたい。(60代)
- 原発事故から5年6ヶ月が過ぎましたが、双葉町を離れ慣れない生活を強いられ、被害を受けた事の辛さが時間の経過と共に身にしみています。住居の確保はできたが、嬉しいと思える時がなく、この先の人生を我慢、忍耐でと思うと悔しく精神状態が不安定になる。精神面のフォローをして欲しい。原発再稼働、オリンピック等で原発事故が風化しているのでは。国、東電はきちんと責任をとってほしい。(60代)
- 中間貯蔵施設で家や土地を国に売り双葉町に住所がなくなり、町民でなくなり、関係がなくなり、連絡もなくなるのかと心配しております。国や町から何の話もないのが心細いです。(70代以上)

【情報の開示・発信について】

- 世帯主と離れて生活しているため、広報など町の情報は届いていない。全ての住民を町の一員と考えているなら、町の情報を全てに届くようにしてほしい。(30代)
- こまめに情報発信(意見交換)のできる場を作ってほしい。(50代)
- 双葉町を離れて、具体的な町の情報が入って来ず、新聞等マスコミ情報が一番早い。各世帯にタブレット端末を配布していることから、新聞等より早い情報が流せるのではないか。(60代)

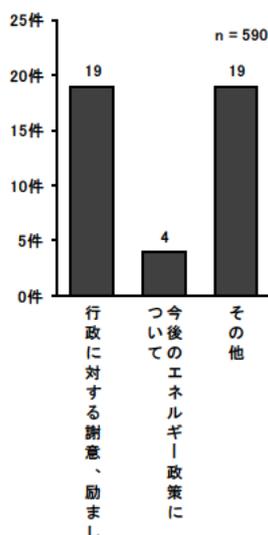
【中長期的スケジュールについて】

- 最終処分場を決めてからしっかりと物事を進めてほしい。30年後受入する所がない場合どうなるのですか。(70代以上)
- 双葉町、大熊合併2町一体で将来を考えてはどうか。短期には(中期か)この先50年は廃炉産業。その後時代が変わり産業構造も変わる。100年の計を議論して下さい。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が19件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が4件となっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- スタッフの皆様、お疲れ様です。“双葉町”とは、ずっとつながっていたい。でも遠い…。遠くなってしまいました。(40代)
- 町長さんはじめ教育長さん町の執行部の皆さん、困難な状況の中、本当にありがとうございます。町ありきという考えも、人ありきという考えもどちらも正しく、可逆的、相互補完的なものだと思います。戻る人、戻らない人の意向を尊重し、それぞれの“自立”のための施策をお願いします。(50代)
- いつも、お疲れ様です。いろいろな面で、町の復興に努力していることと思います。これからも、お体に気をつけて少しずつあせらず町の復興に取りこんでいただきたいと思います。心の復興は、サークルなどを通じて私達もがんばっていきたいと思います。(50代)
- 双葉町に生きているつもりで遠くから待ち続けて生活して行きます。すばらしい双葉町が1日でも1年でも進められて出来上がり、平和な町に平和な心で戻っていけますよう、楽しみにして生きていこうと話して居ります。みな様どうぞよろしくお願い申し上げます！御健勝であります様に祈ります。(70代以上)

【今後のエネルギー政策について】

- 国に対して、原子力に頼らない自然エネルギーへの移行を望む。(30代)
- 現状の市町村単位での計画と同様に、双葉郡全体、又は相双地域全体としての、巨視的な観点から、地域再生構想を立て、再生可能の新エネルギーを作り出す地域として、大きく一步を踏み出すべき時期に来ているだろう。小さな行政単位を大きくまとめる真の政治力が求められる。(50代)
- 国は原発からクリーンエネルギーに転換すべきである。上部行政機関へ毅然として申すべきことは申ししてほしい。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

双葉町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

- ・震災発生時、双葉町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。
- ・ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いします。
現在、世帯が何箇所かに分かれて避難されている方には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**にご回答をお願いします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
- ・の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。
- ・調査票は記名式でお願いしております。よろしければ、最初に「氏名」、「連絡先」、「住所」のご記入をお願いします。

● 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、双葉町、福島県および復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**9月26日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投かんください（切手は不要です）。

【問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-901-848

[設置期間：9月13日（火）～9月26日（月）10時～17時]

土・日・祝を除く

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

避難地域復興局 生活拠点課

電話 024-521-8617

双葉町

〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19番地の4

双葉町役場いわき事務所 復興推進課

電話 0246-84-5203（直通）

最初に、あなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、町民の皆さまの今後の生活設計などについての考えを把握し、ご意見やご要望などをお伺いすることを目的に実施する調査となっております。

現在、復興公営住宅については、今後の居住についてのご意向などに関する調査結果をもとに、迅速な整備に努めております。今後は、早期に仮設住宅などから安定的な居住へお移りいただき、生活環境が改善されるよう、継続して復興公営住宅に係る情報提供に努めてまいります。

本調査で皆さまからいただいた貴重なご意見やご要望は、今後の施策を進めるための基礎資料として活用させていただいております。多くの町民の皆さまの声を反映した「町民一人一人の復興」「町の復興」が進められるよう、本調査へのご協力をお願いいたします。

また、本調査を踏まえ、双葉町から町民の皆さまに有益な情報を提供する場合やあらためてご確認のために連絡させていただく場合などがありますので、氏名、ご連絡先、住所のご記入をお願いします。

F1 あなたの氏名を教えてください。

F2 あなたの連絡先(電話番号)

F3 現在と震災当時のあなたの住所を教えてください。
(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

現在の住所	
震災当時の住所	双葉町大字 字

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの性別と年齢を教えてください。

(1) 性別 (○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

(2) 年齢 (○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒ <u>問3へ</u> |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 5. 団体職員 | 11. その他 { 具体的に: } |
| 6. 公務員 | |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 { 具体的に: } |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

東日本大震災発生時及び震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|------------------------------|
| 1. 新山 | 8. 長塚一 | 15. 中田 |
| 2. 下条 | 9. 長塚二 | 16. 両竹 |
| 3. 郡山 | 10. 下長塚 | 17. 浜野 |
| 4. 細谷 | 11. 羽鳥 | 18. その他 |
| 5. 三字 | 12. 寺松 | 〔 わからない場合は、住所を
記載してください 〕 |
| 6. 山田 | 13. 渋川 | |
| 7. 石熊 | 14. 鴻草 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 〔 具体的に: 〕 |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 そ の 他 】

24. 1～23 以外の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外

→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18歳以上65歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

IV 参考資料

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償)	6. 家族のどなたかのお住まい・実家
2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)	7. 親戚・知人宅
3. 公営住宅(2.は除く。有償)	8. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
4. 民間賃貸住宅(有償)	9. その他 [具体的に:]
5. 給与住宅(社宅など)	

※復興公営住宅へ入居している方については、「3.公営住宅(2は除く。有償)」を選択してください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 避難期間中の住宅や、生活において困っていること、改善を求めること等があれば、お書きください(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)。

将来に関するご意向についてお聞かせください。

問9から問12-4は、同封資料6～9ページの『双葉町復興まちづくりイメージ』
『双葉町 町内復興拠点の基本的な構想』をご覧くださいからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問9 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) ⇒ 問10-1-1へ
2. まだ判断がつかない ⇒ 問10-2(7ページ)へ
3. 戻らないと決めている ⇒ 問11-1(9ページ)へ

問10-1-1からは、問9で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。

【問9で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問10-1-1 何年以内であれば待てますか。(○は1つ)

1. 3年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 帰れるまで待つ

【問9で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問10-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

1. 家族全員での帰還を考えている ⇒ 問10-2へ
2. 家族一部での帰還を考えている ⇒ 問10-1-3へ
3. 現在検討しているところ ⇒ 問10-2へ
4. まだわからない ⇒ 問10-2へ

【問10-1-2で「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問10-1-3 帰還した場合にはどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 18歳未満	人
イ) 18歳以上65歳未満	人
ウ) 65歳以上の方	人

問 10-2 からは、問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」
「2. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。

【問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 10-2 帰還する場合、または双葉町へ戻ることを判断するためにどのような支援や情報が必要と考えますか。重視したいものから順に選択肢番号欄に 3 つまで選び、具体的な内容欄に支援や情報内容をご記入ください。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 除染対策(被ばく低減対策) 2. 住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援 3. 商業施設の再開や新設 4. 医療・介護福祉施設の再開や新設 5. 学校や教育施設の再開や新設 6. 公共交通機関の再開 7. 雇用確保・就業支援 8. 携帯電話やインターネットなど通信環境の改善 9. 地域のきずな維持やコミュニティへの支援 | <ol style="list-style-type: none"> 10. 原子力発電所の廃炉に関することへの情報提供 11. 放射線の人体への影響に関する情報 12. 中間貯蔵施設に関することへの情報提供 13. 避難指示解除となる時期の目安に関する情報 14. 賠償額の確定 15. どの程度の住民が戻るかの状況 16. 日常の住民サービスの情報など 17. その他 18. 特にない ⇒ <u>問 10-3</u> へ |
|---|--|

優先順位	選択肢番号	具 体 的 な 内 容
(例) 1 番目	(例) 4	(例) ○○病院の再開
1 番目		
2 番目		
3 番目		

【問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 10-3 帰還した場合のお住まいは、第一希望としてどのような形態を希望されますか。(○は1つ)

1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)
2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい
3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
6. 町内の公営住宅
7. 給与住宅(社宅など)
8. 家族のどなたかのお住まい・実家
9. 親戚・知人宅
10. その他(具体的に: _____)
11. 現時点では判断できない

【問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 10-4 町では、「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」及び「町内復興拠点基本構想」に基づき、JR 双葉駅の西側の区域を「新市街地ゾーン」と位置づけ、町が主導して先行的に住宅地や生活関連施設の整備を進めることとしております。また、JR 双葉駅の東側の区域については、「まちなか再生ゾーン」と位置づけ、既成市街地の再生を目指すこととしております。「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（○は 1 つ）
※震災発生当時、駅西地区または駅東地区以外の地区にお住まいの方を含め、皆様、お答えください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 駅西・新市街地ゾーンに居住したい | ⇒ <u>問 10-5 へ</u> |
| 2. 駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい | ⇒ <u>問 10-6-1 へ</u> |
| 3. 判断ができない | ⇒ <u>問 10-7 へ</u> |
| 4. どちらにも居住しない | ⇒ <u>問 10-7 へ</u> |

【問 10-4 で「1. 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」と回答した方にかがいます。】

問 10-5 町により、JR 双葉駅の西側に住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は 1 つ）

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 公営住宅（一戸建て） | 4. 駅西・新市街地ゾーンにある自宅 |
| 2. 公営住宅（集合住宅） | 5. その他（具体的に：_____） |
| 3. 町から宅地の分譲を受け、自宅を建築したい | 6. 現時点では判断がつかない |

【問 10-4 で「1. 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」「2. 駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」と回答した方にかがいます。】

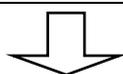
問 10-6-1 「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」に、特に必要と考える、生活関連施設を教えてください。（○は 3 つまで）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. コミュニティ施設（集会所・公民館・公園等） | 5. 金融機関 |
| 2. 商業施設・食堂・コンビニエンスストアなど | 6. 窓口サービスなどの役場機能 |
| 3. 医療・介護施設 | 7. 避難されている家族が一時宿泊できる施設 |
| 4. 保健・教育施設 | 8. その他（具体的に：_____） |

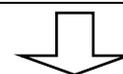
【問 10-4 で「1. 駅西・新市街地ゾーンに居住したい」「2. 駅東・まちなか再生ゾーンに居住したい」と回答した方にかがいます。】

問 10-6-2 「駅西・新市街地ゾーン」や「駅東・まちなか再生ゾーン」に、特に必要と考える、生活関連サービスを教えてください。（○は 3 つまで）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 安否確認や見守りサービス | 5. 移動販売サービス |
| 2. 健康相談・生活相談サービス | 6. 公共交通サービス |
| 3. 健康増進・介護予防サービス | 7. 役場機能窓口サービス |
| 4. 配食サービス | 8. その他（具体的に：_____） |



問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」を選んだ方は問 13（12 ページ）へ

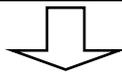


問 9 で「2. まだ判断がつかない」を選んだ方は問 11-1（9 ページ）へ

【問 10-4 で「3. 判断ができない」「4. どちらにも居住しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-7 「駅西・新市街地ゾーン」または「駅東・まちなか再生ゾーン」への居住について、現時点で判断ができない、居住しない理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1. 駅西・駅東以外にある自宅に戻るから | 6. 仕事の都合で、生活の拠点にできるかわからないから |
| 2. 違う場所で自宅を購入し生活を開始したいから | 7. どのような人が住むのかわからなく不安だから |
| 3. 周辺環境がわからないから | 8. 自身の生活の見通しがたっていないから |
| 4. 道路、学校、病院など社会基盤(インフラ)がわからないから | 9. その他 [具体的に:] |
| 5. どの程度の生活関連施設が整備されるのかわからないから | |



問 9 で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は問 13(12 ページ)へ

問 9 で「2. まだ判断がつかない」を選んだ方は問 11-1(9 ページ)へ

問 11-1 からは、問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は 1 つ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. そう思う | 2. わからない | 3. そう思わない |
|---------|----------|-----------|

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

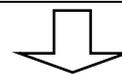
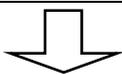
問 11-2 双葉町をどのくらいの頻度で訪れたいと思いますか。(○は 1 つ)

- | | | |
|---------------|------------|--------------|
| 1. 1か月に1回程度 | 3. 半年に1回程度 | 5. 2～3年に1回程度 |
| 2. 2～3か月に1回程度 | 4. 1年に1回程度 | 6. 訪れるつもりはない |

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-3 どのような取り組みや行事、イベントなどがあれば、双葉町に訪れたいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 有志によるサークル活動 | 7. セミナーへの参加や資格の取得などの学習活動 |
| 2. 趣味・料理・ものづくり教室などの文化活動 | 8. 仕事や労働などの職業活動 |
| 3. 運動・スポーツなどの健康づくり活動 | 9. 環境保全や自然保護活動 |
| 4. お祭り・イベントなどの地域行事 | 10. その他 [具体的に:] |
| 5. 世代間交流・ボランティア活動 | |
| 6. 防災・防犯などの地域活動 | |



問 9 で「2. まだ判断がつかない」を選んだ方は問 13(12 ページ)へ

問 9 で「3. 戻らないと決めている」を選んだ方は問 12-1(10 ページ)へ

問 12-1 からは、問 9 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

【問 9 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 中間貯蔵施設の安全性に不安があるから
4. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【双葉町内の復旧状況に関わるもの】

5. 双葉町に戻っても仕事がなさそうだから
6. 双葉町での事業の再開が難しいから
7. 営農などができそうにないから
8. 家が汚損・劣化し、住める状況にないから
9. 双葉町外への移動交通が不便だから
10. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
11. 医療環境に不安があるから
12. 介護・福祉サービスに不安があるから
13. 教育環境に不安があるから
14. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

15. 避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから
16. 避難先の住居(持ち家以外)を生活拠点とし、将来も継続的に居住する予定だから
17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 他の住民も戻りそうにないから
19. 今後も津波被害を受ける可能性があるから
20. 帰還までに時間がかかりそうだから
21. 避難先で仕事を見つけているから
22. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
23. 避難先の方が生活利便性が高いから
24. その他

【 具体的に: 】

【問 9 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 帰還しない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 継続的な健康管理の支援 | 4. 役場からの継続的な情報提供 |
| 2. 雇用確保の支援 | 5. 一時帰宅支援 |
| 3. 仮設住宅や借り上げ住宅の継続的利用 | 6. その他 |

【 具体的に: 】

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-3 帰還しない場合に、今後、居住を希望する(既に居住している場合を含む)自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【福島県内】

【浜通り】

1. いわき市 → ※ いわき市については地区名を教えてください。(○は1つ)
2. 相馬市 a. 平 b. 小名浜(泉なども含む)
3. 南相馬市 c. 勿来(植田、錦などを含む) d. 常磐(湯本などを含む)
4. 広野町 e. 内郷 f. 四倉 g. 遠野
5. 檜葉町 h. 小川 i. 好間 j. 三和
6. 川内村 k. 田人 l. 川前 m. 久ノ浜・大久
7. 新地町

【中通り】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【会津】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【その他】

24. 上記1～23以外の福島県内の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【福島県外】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【未定】

26. 決めかねている

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-4 帰還しない場合に、今後のお住まいとして希望する(既に居住している場合を含む)住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|--|--|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(マンションなど) | 8. 家族のどなたかのお住まい |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) | 10. その他 |
| 5. 復興公営住宅 | <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> 具体的に </div> |
| 6. 公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く都道府県営住宅や市町村営住宅) | |

自営業の町内での事業の再開のご意向についてお聞かせください。

問 13～問 15 は、震災発生当時に双葉町で自営業
(農業・林業・漁業・畜産業・商業・工業など) を営んでいた方にうかがいます。

※ 震災発生当時の職業が、「自営業以外」の方は、問 16 (13 ページ) へお進みください

【震災発生当時に双葉町で自営業 (農業・林業・漁業・畜産業・商業・工業など) を営んでいた方にうかがいます。】

問 13 避難指示が解除となり帰還した場合、町内で事業を再開したいと思いますか。(○は1つ)

1. 再開したい ⇒ [問 14 へ](#)
2. 判断ができない ⇒ [問 15 へ](#)
3. 再開するつもりはない ⇒ [問 15 へ](#)

【問 13 で「1. 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14 町内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。(○はいくつでも)

1. 長期間利用していないので、設備や機材などへの新たな投資
2. 事業に必要な土地や建屋などの除染
3. 農畜産物などや製品の放射能からの安全確保
4. 風評被害の払しょく
5. 後継者(担い手)の確保
6. 従業員の確保
7. 顧客・販売先の確保
8. 避難指示解除時期が明確になっていないこと
9. その他(具体的に: _____)

 [問 16\(13 ページ\)へ](#)

【問 13 で「2. 判断ができない」「3. 再開するつもりはない」と回答した方にうかがいます。】

問 15 事業を再開しない理由、判断ができない理由を教えてください。(○はいくつでも)

1. 事業に必要な設備や機材などへの新たな投資ができないから
2. 事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから
3. 農畜産物などや製品の放射能による汚染が心配だから
4. 風評被害があるから
5. 再開するための後継者(担い手)確保ができないから
6. 従業員の確保ができないから
7. 顧客・販売先の確保ができないから
8. 避難指示解除時期が明確になっていないから
9. その他(具体的に: _____)

 [問 16\(13 ページ\)へ](#)

不動産の取り扱い意向についてお聞かせください。

問 16 からはすべての方にかがいます。

【すべての方にかがいます。】

問 16 東日本大震災により被災した家屋の、現時点での解体のご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)
※この質問で解体の申し込みを行うものではありません。また、現在の制度上、町内のすべての家屋が解体対象となっているわけではありません。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 家屋の解体を希望する | 4. 家屋は持っていない |
| 2. 家屋の解体を希望しない | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 現時点では判断できない | |

【すべての方にかがいます。】

問 17 町内に保有している土地・建物の今後の取り扱いについて、もっとも意向に近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--|--|
| 1. 売却したい | |
| 2. 継続して保有し、自ら管理したい | |
| 3. 継続して保有したいが、自ら管理できないので、第三者に管理をお願いしたい | |
| 4. 第三者に貸与したい | |
| 5. その他(具体的に:) | |
| 6. 現時点で判断できない | |
| 7. 世帯で保有している土地・建物はない | |

町からの情報入手と周囲とのコミュニケーションに関する状況についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 18 あなたは町からの情報を主にどのような方法で入手していますか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. 広報ふたば | 6. 町公式ホームページ(タブレット端末) |
| 2. つなげようつながろう「ふたばのわ」 | 7. 町公式ホームページ(携帯端末) |
| 3. ICT きずな支援システム
(町配布タブレット端末) | 8. メールマガジン |
| 4. 町公式ホームページ(パソコン) | 9. マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞など) |
| 5. 町公式ホームページ(スマートフォン) | 10. その他 [具体的に:] |

【すべての方にうかがいます。】

問 19 あなたが特に知りたい、関心がある情報は何か。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 住宅・暮らしの情報 | 7. 原子力損害賠償関連情報 |
| 2. 健康・医療・福祉関連情報 | 8. 原子力発電所関連情報 |
| 3. 子育て・教育関連情報 | 9. 中間貯蔵施設関連情報 |
| 4. 雇用・就労・就農関連情報 | 10. イベント・交流会に関する情報 |
| 5. 復興まちづくり関連情報 | 11. その他 [具体的に:] |
| 6. 放射線量・除染情報 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 20-1 町が無料配布している「ICT きずな支援システム(タブレット端末)」は持っていますか。
(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 持っている ⇒ <u>問 20-2</u> へ | |
| 2. 持っていない(理由を具体的に: |) |

【問 20-1 で「1. 持っている」と回答した方にうかがいます。】

問 20-2 「ICT きずな支援システム(タブレット端末)」は、どれくらいの頻度で利用していますか。
(○は1つ)

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1. 毎日 | 3. 1か月に1~2回程度 | 5. 1年に1~2回程度 |
| 2. 1週間に1~2回程度 | 4. 半年に1~2回程度 | 6. ほとんど利用していない |

【すべての方にうかがいます。】

問 21 町が配布している「ICT きずな支援システム(タブレット端末)」のほかに、どのような情報端末機器をお持ちですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. パソコン | 3. タブレット端末 | 5. その他(具体的に:) |
| 2. スマートフォン | 4. 携帯電話 | |

国や福島県、双葉町へのご意見などについてお聞かせください。

町では、町民委員により構成される「双葉町復興町民委員会」からご意見を伺いながら、平成25年6月に策定した「双葉町復興まちづくり計画（第一次）」を見直し、今後の町の復興に関する中長期的な基本計画となる「双葉町復興まちづくり計画（第二次）」を策定すべく、検討作業を進めております。

問22は、同封資料10～15ページの『「双葉町復興まちづくり計画＜第二次＞」の策定に向けた検討について（素案）』『JR双葉駅周辺のまちづくりイメージ（素案）』『「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠（素案）』をご覧くださいからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 22 『「双葉町復興まちづくり計画＜第二次＞」の策定に向けた検討について（素案）』『JR双葉駅周辺のまちづくりイメージ（素案）』『「町民一人一人の復興」に関する施策の大枠（素案）』について、今後、町が計画として具体化していくにあたり、あなたのご意見・ご感想など、ご自由にお書きください。

【すべての方にうかがいます。】

問 23 国や福島県、双葉町への要望などをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
9月26日（月）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

**双葉町 住民意向調査
報告書**

平成 29 年3月

復興庁 福島県 双葉町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

